

2025年度 がん登録塾  
部位別セミナー

第8回

土曜・午後

部位別セミナー

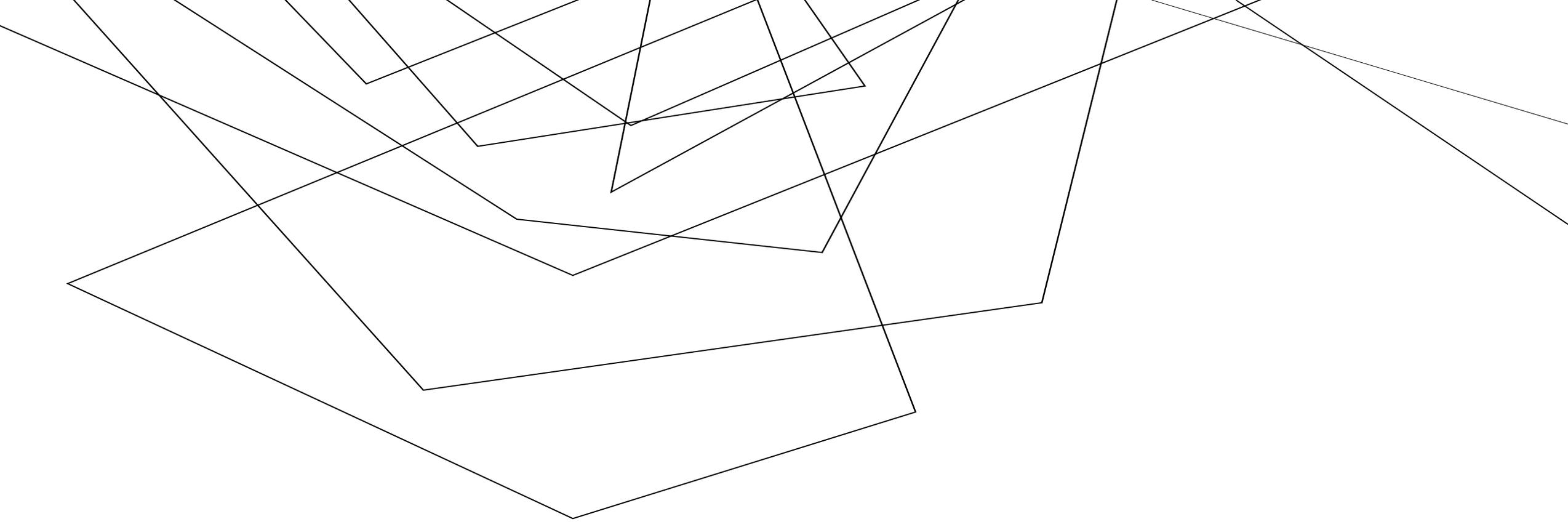
子宮のがん



JA長野厚生連 佐久総合病院

総合医療情報センター

西本 寛



# 子宮の解剖・生理

---

# 腹腔内臓器の解剖

- 腹腔は、腹膜で被われた袋状の空間(腔)

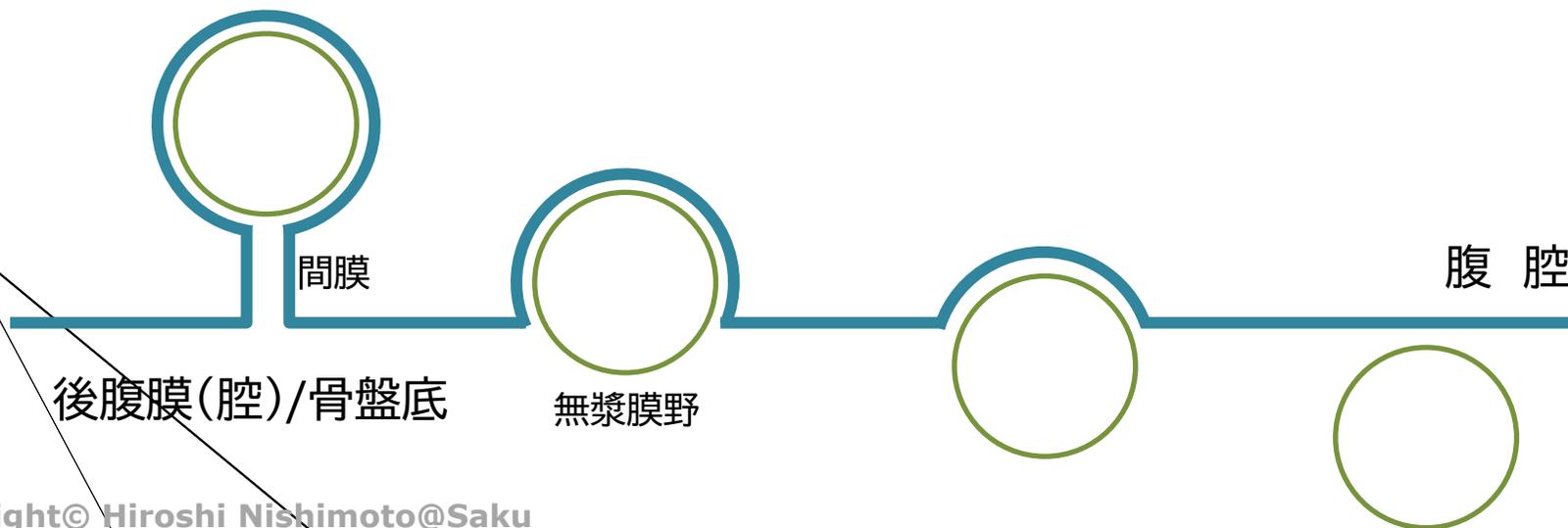
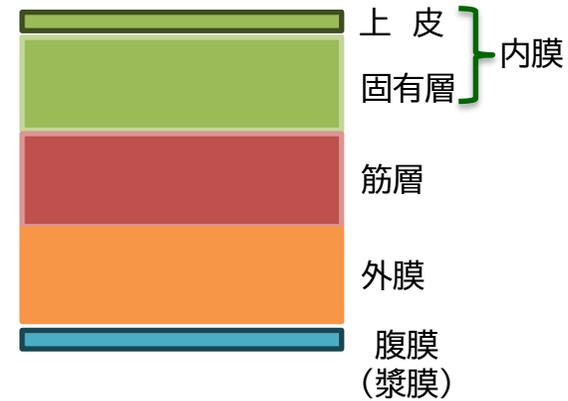
後腹膜腔は「腔」と呼ばれるが、袋状ではない

消化管・肝臓・脾臓・子宮/卵巣・膀胱は  
腹膜(漿膜)で 全部/一部が被われている

- 腹膜は折れ返り、臓器と後腹膜を結ぶ間膜を形成して、  
血管・リンパ管・神経の通路となる
- 腹膜の背側・尾側は、  
結合組織/脂肪組織などからなる後腹膜(腔)・骨盤底  
背側：腎臓・副腎、膵臓、十二指腸、  
尾側：下部直腸、膀胱、前立腺  
その他にも、大動脈・下大静脈他の血管が通過

# 腹膜と内臓の関係

- 全体が腹膜(漿膜)に包まれる(間膜形成)  
胃・空腸・回腸・横行結腸・S状結腸・虫垂・卵巣
- 大部分が腹膜(漿膜)に包まれる(一部に無漿膜野)  
肝臓・胆嚢・盲腸・上行結腸・下行結腸
- 半分程度が腹膜(漿膜)に包まれる  
子宮・膀胱
- 全く腹膜(漿膜)に包まれない  
腎臓/副腎・十二指腸・膵臓・前立腺





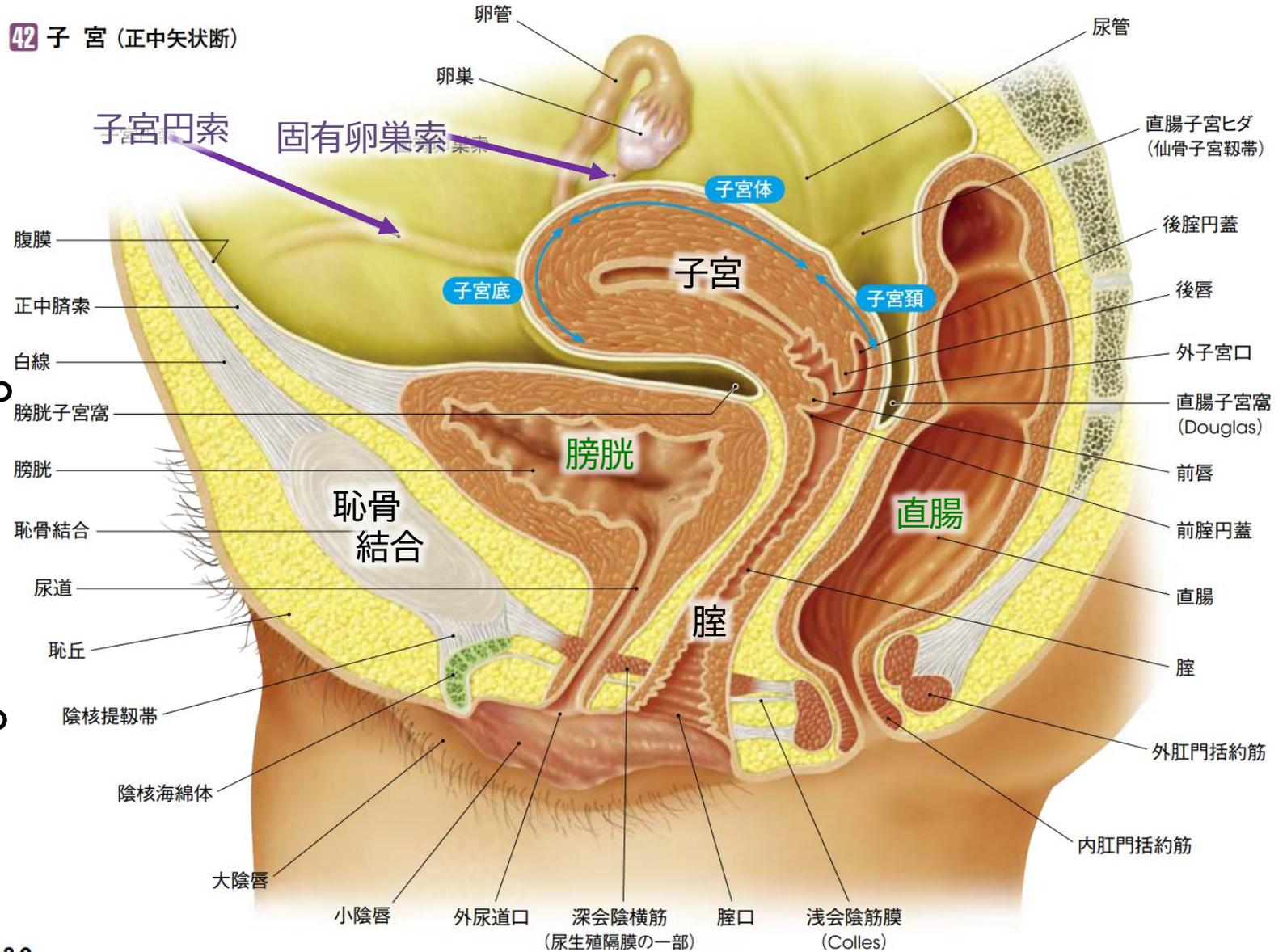
# 子宮

- 骨盤底に埋まる形で存在  
頸部は、基靭帯・骨盤底筋群で左右から支えられる  
体部は、腹膜で被われ、広間膜・卵管・卵巣などの子宮付属器に続く
- 頸部・体部に分類されるが、  
子宮底・子宮峡部という表現がされることもある
- 単層円柱上皮→粘膜固有層(子宮腺・らせん動脈)  
(上皮・固有層が内膜)  
→固有筋層→外膜(漿膜)という構造を持つ

外膜は、境界がはっきりせず、隣接臓器・組織とつながる結合組織

# 子宮の解剖(側面)

- 子宮は、腹膜に包まれている。
- 前に膀胱、後に直腸がある。
- 左右に固有卵巣索でつながった卵巣。



# 子宮と膀胱(女性・矢状断)

## ●腹膜

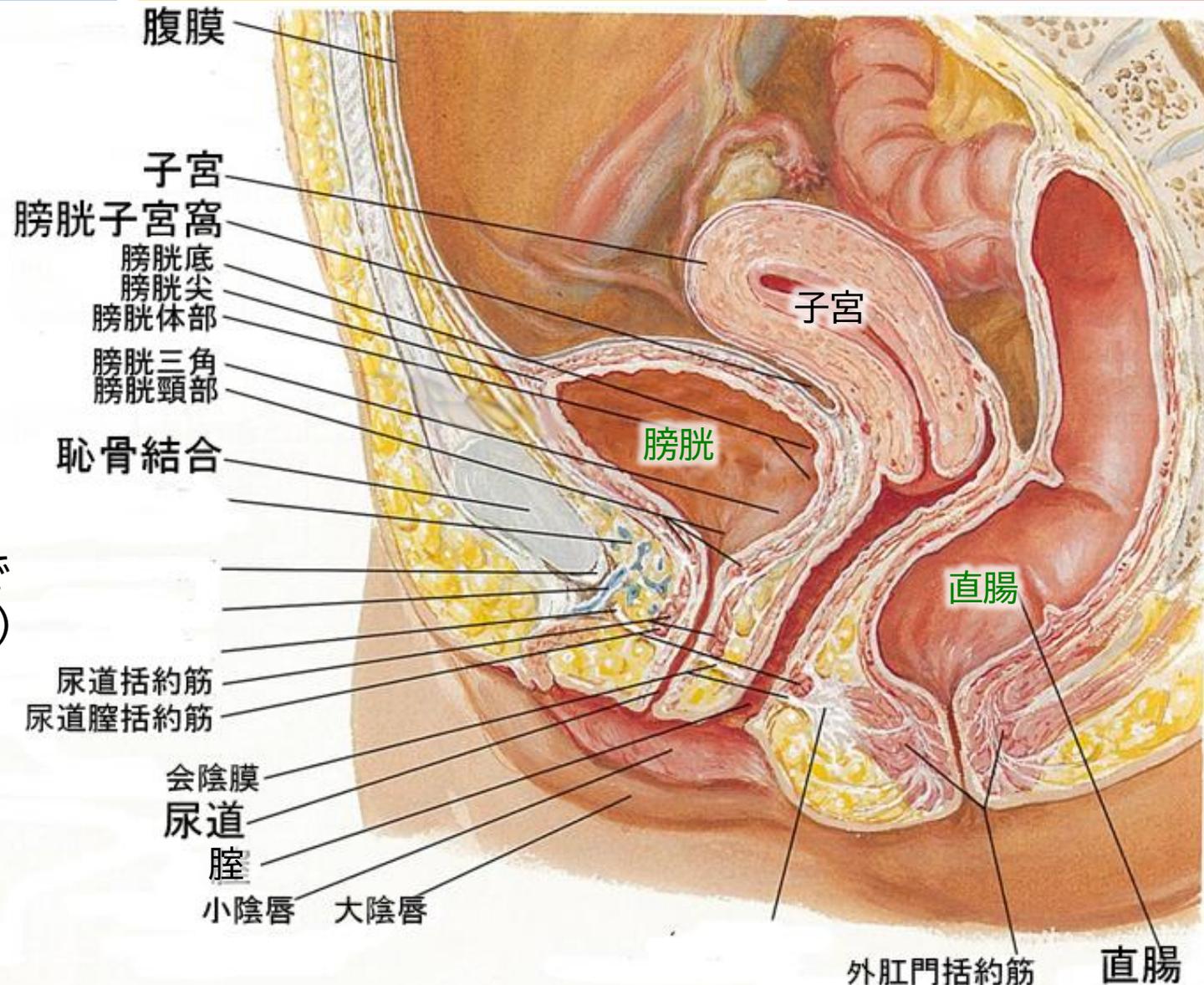
膀胱後壁・子宮は  
腹膜で被われている。

## ●骨盤内筋膜

膀胱の筋層周囲は  
骨盤筋膜。

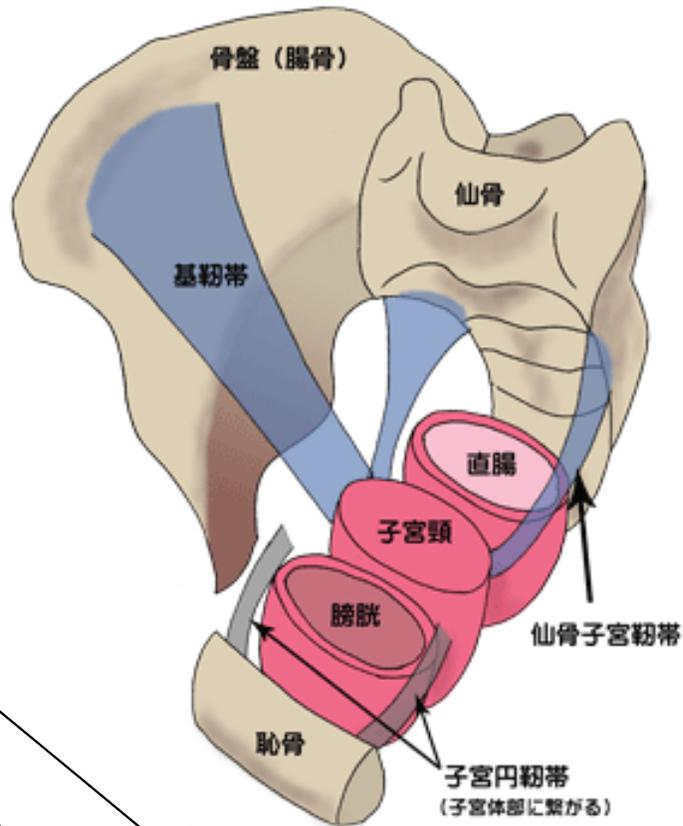
## ●肛門挙筋

膀胱や子宮は骨盤底筋で  
(肛門挙筋・会陰膜・横筋)  
支えられている。

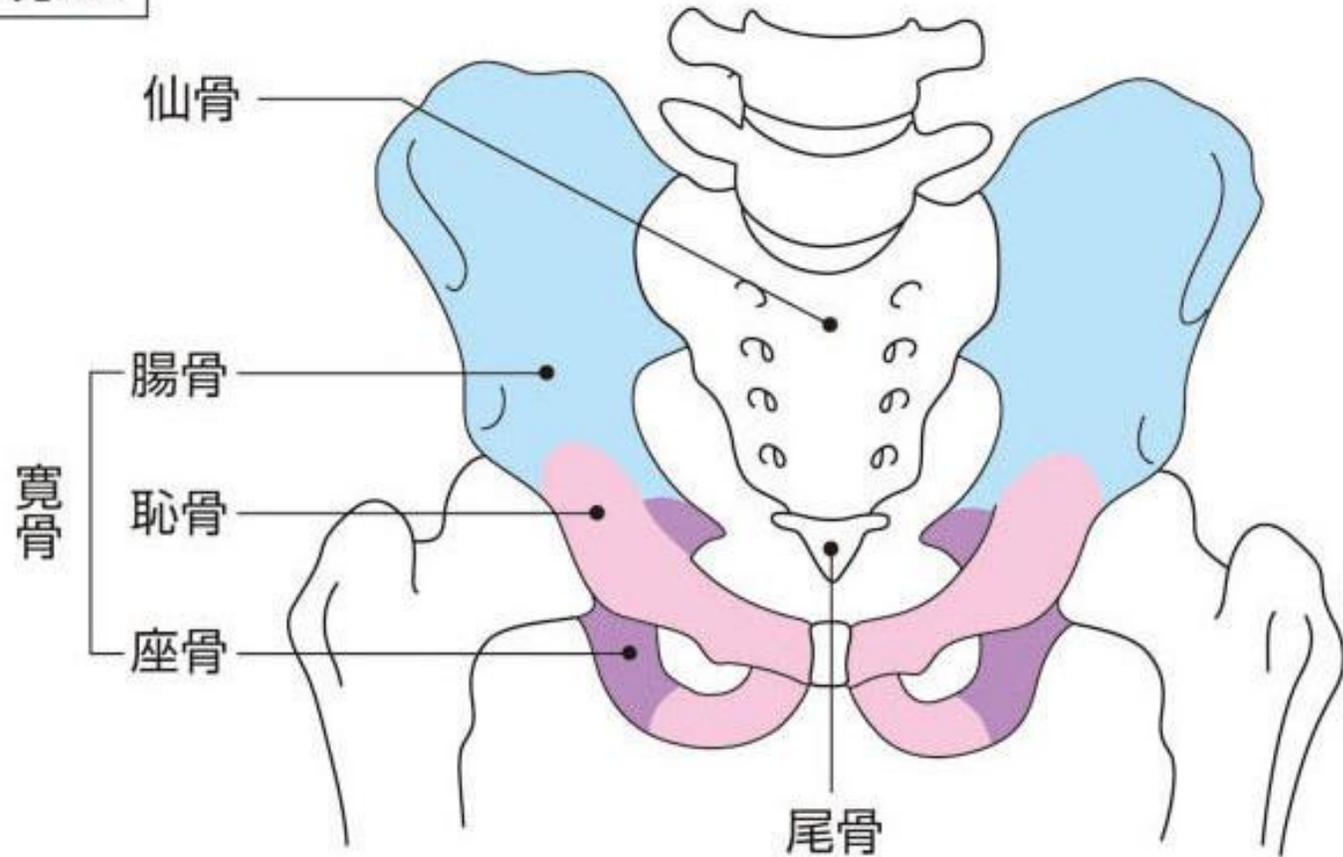


# 骨盤と子宮

- 小骨盤
- 仙骨岬角
- 分界線(腸骨・恥骨)

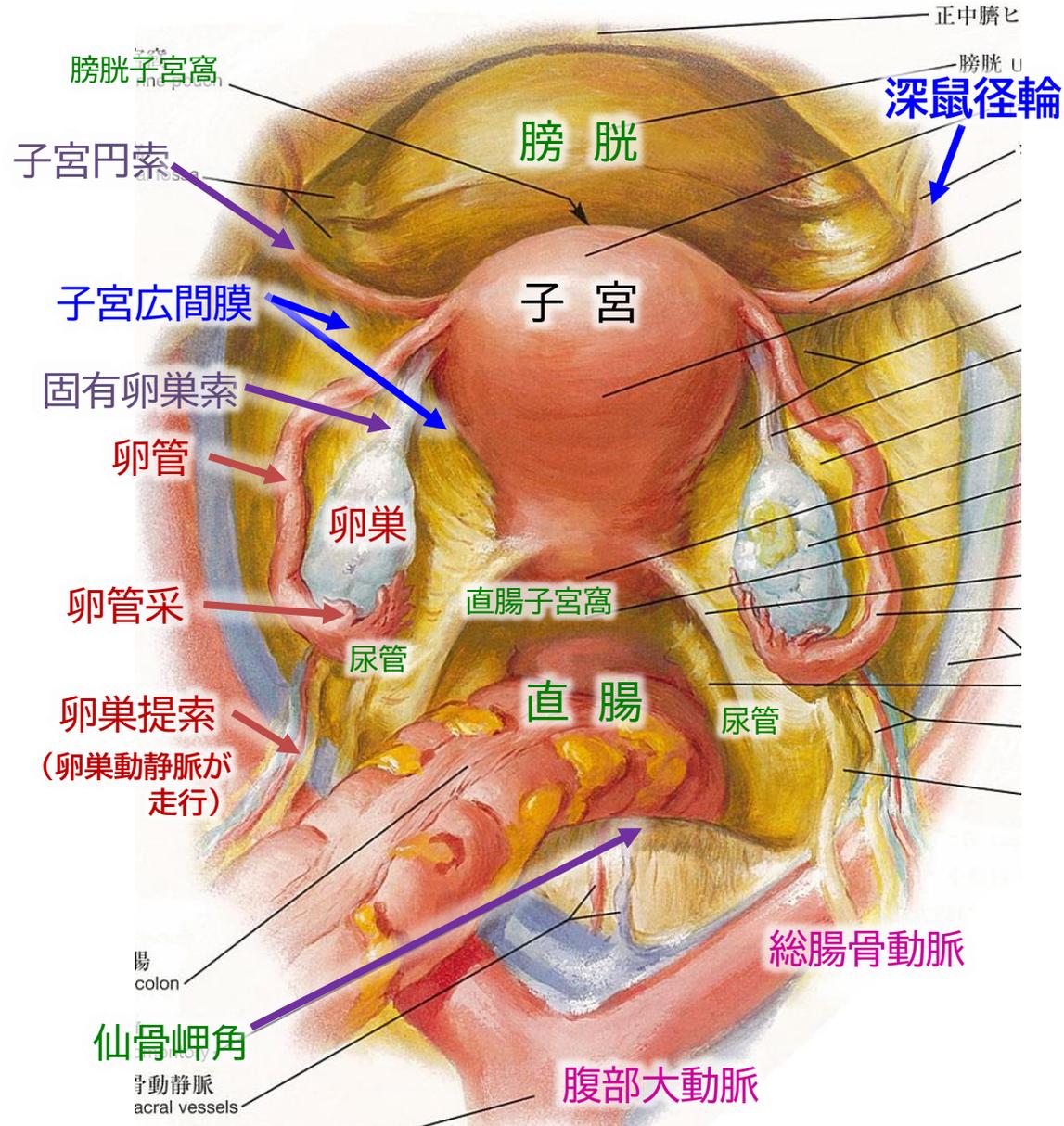


## 骨盤



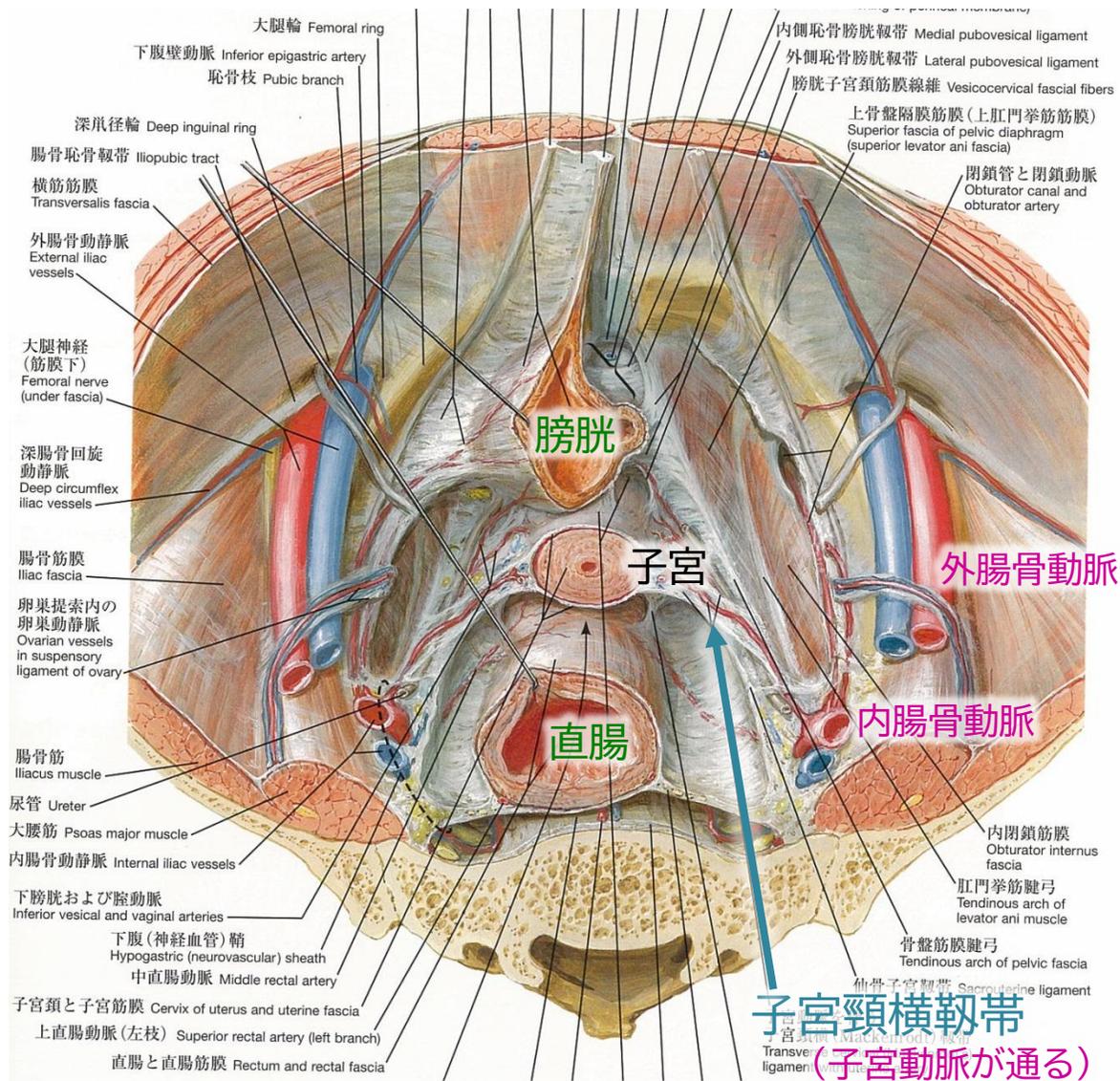
# 子宮とその周囲(腹膜残存)

- 子宮円索で鼠径管側に前屈する。
- 固有卵巢索で卵巢とつながる。
- 子宮内腔からは卵管がつながる。

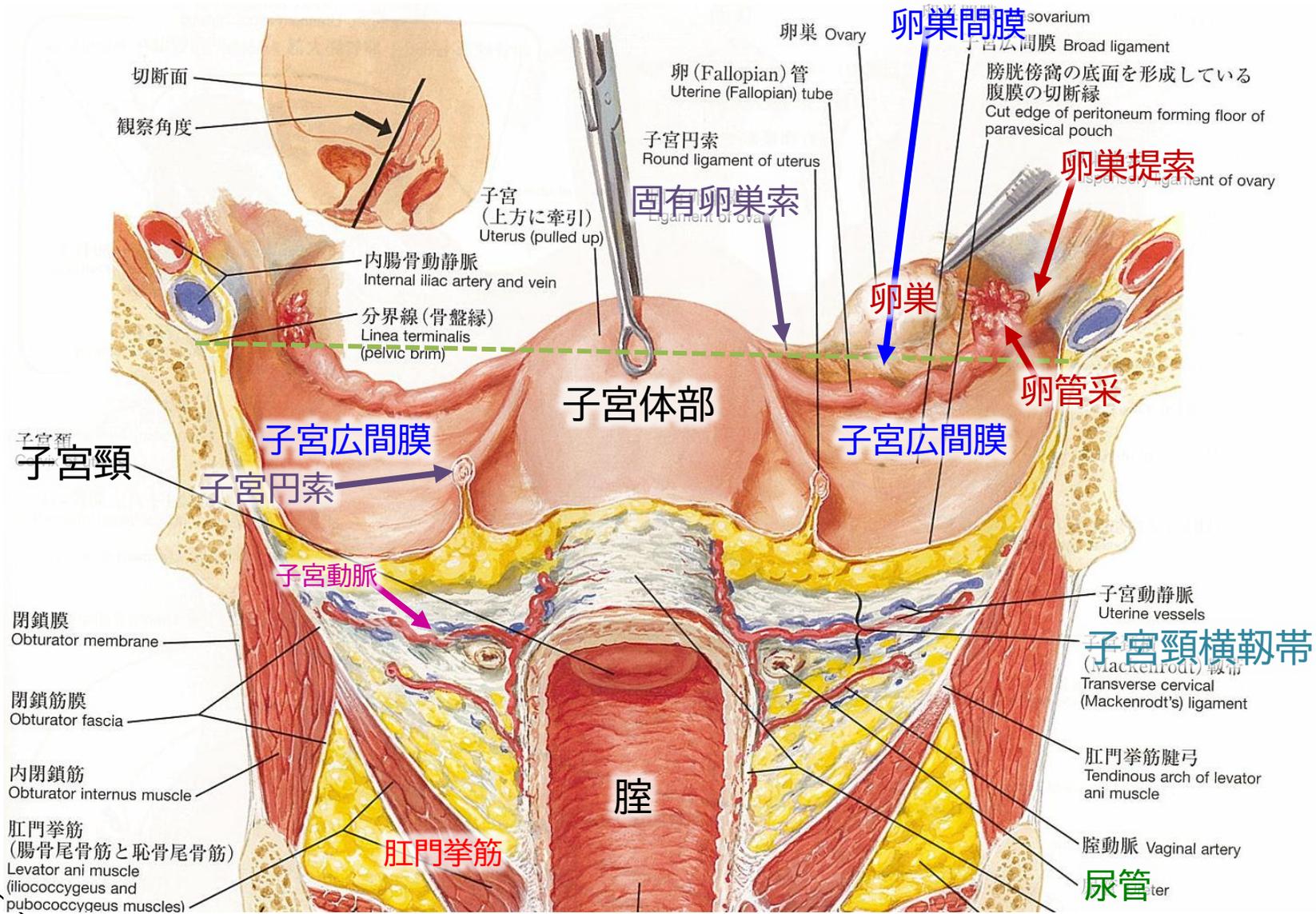




# 子宮頸部周囲臓器 (腹膜の一部を取り去ったもの)

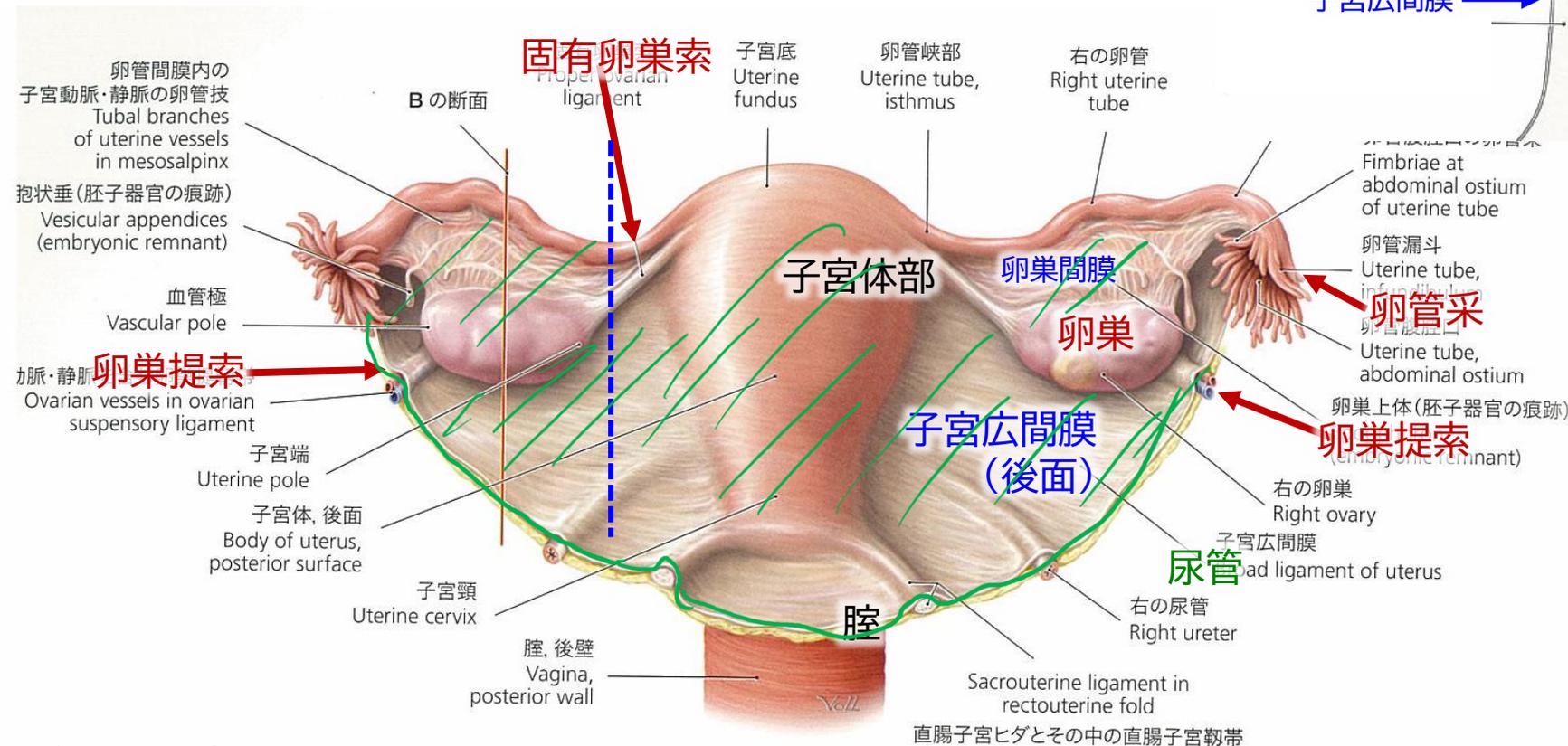
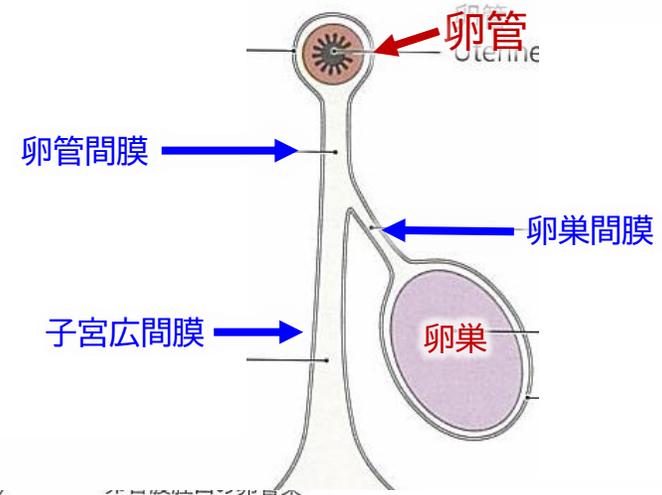


# 子宮前面と頸部(前から見た図)



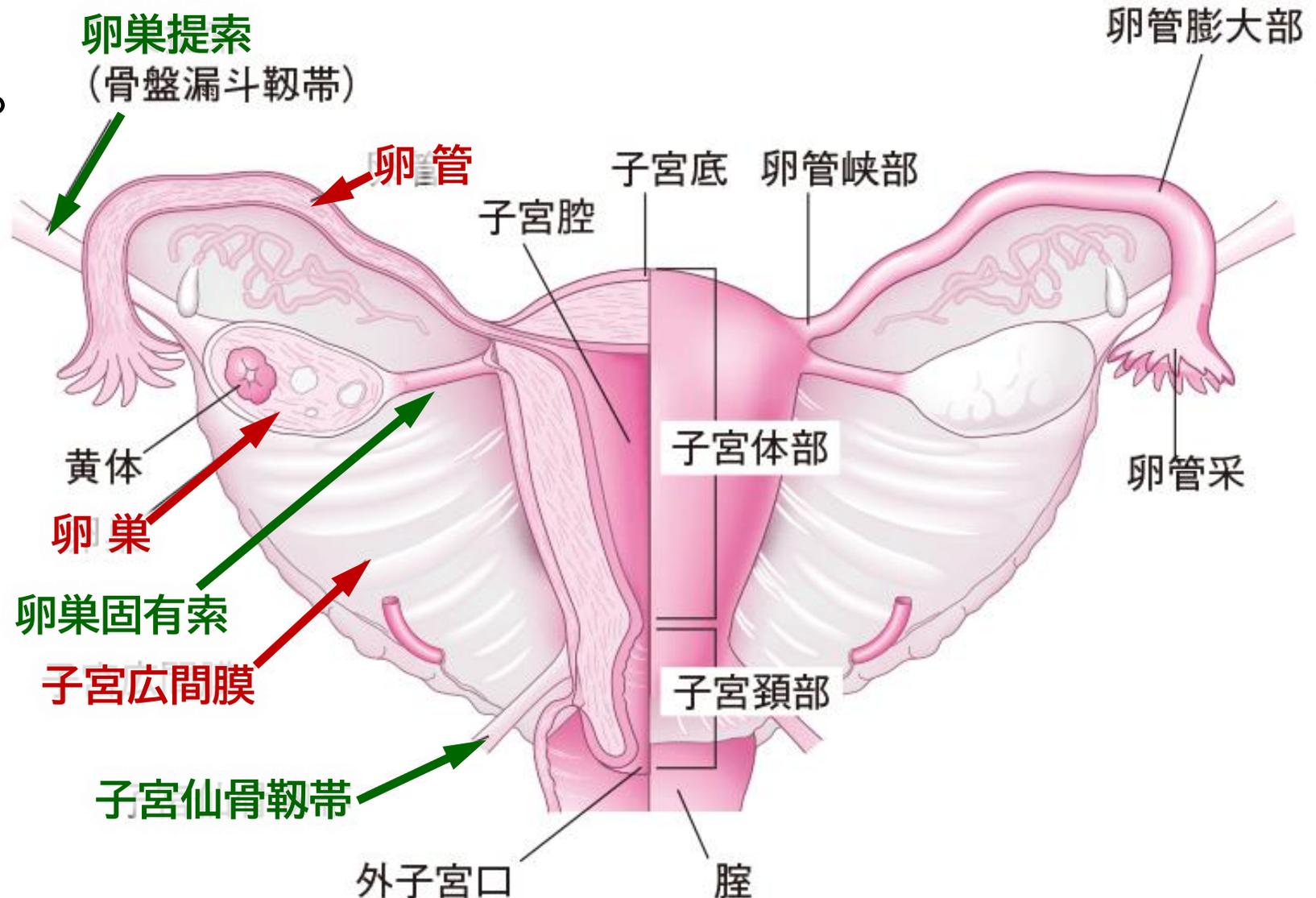
# 卵管・卵巣と腹膜(後面)

- 卵管と卵巣は子宮広間膜につながる腹膜(漿膜)で被われる

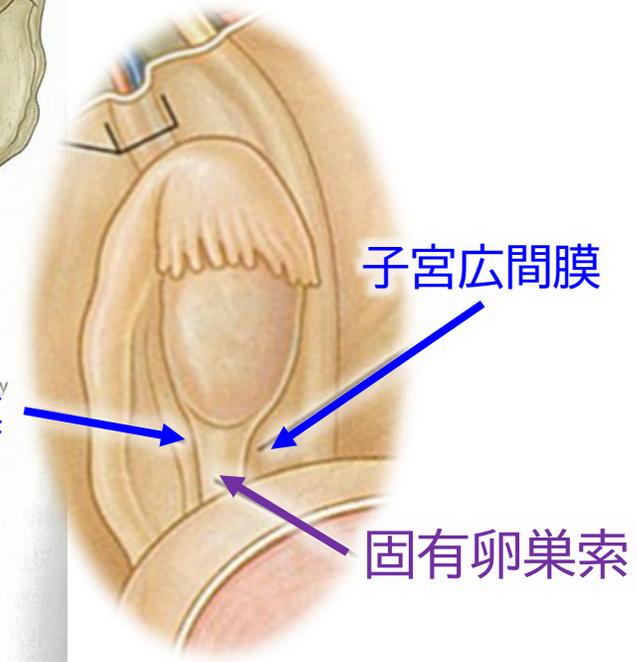
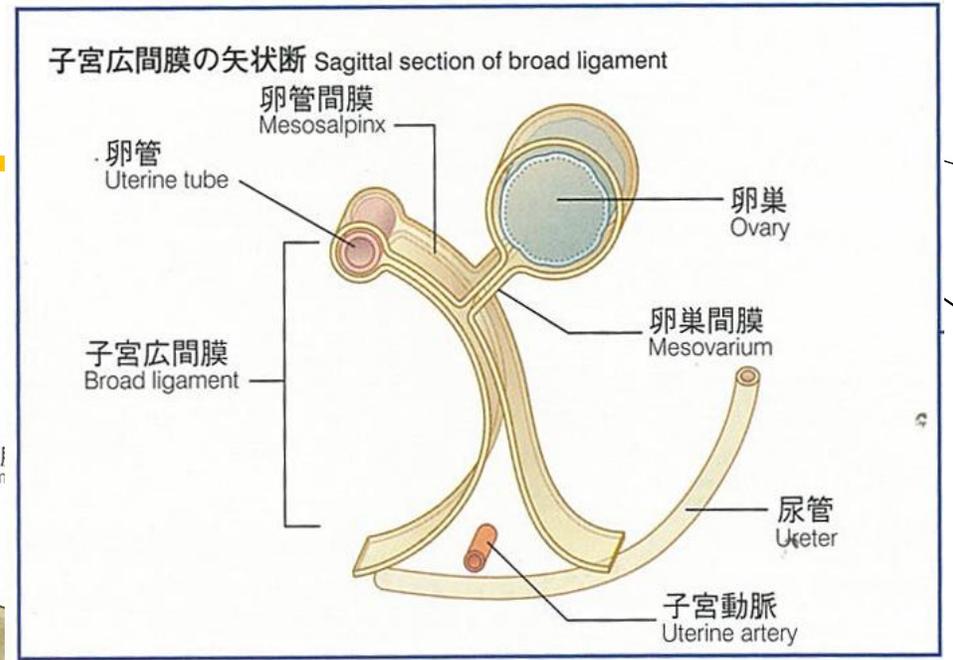
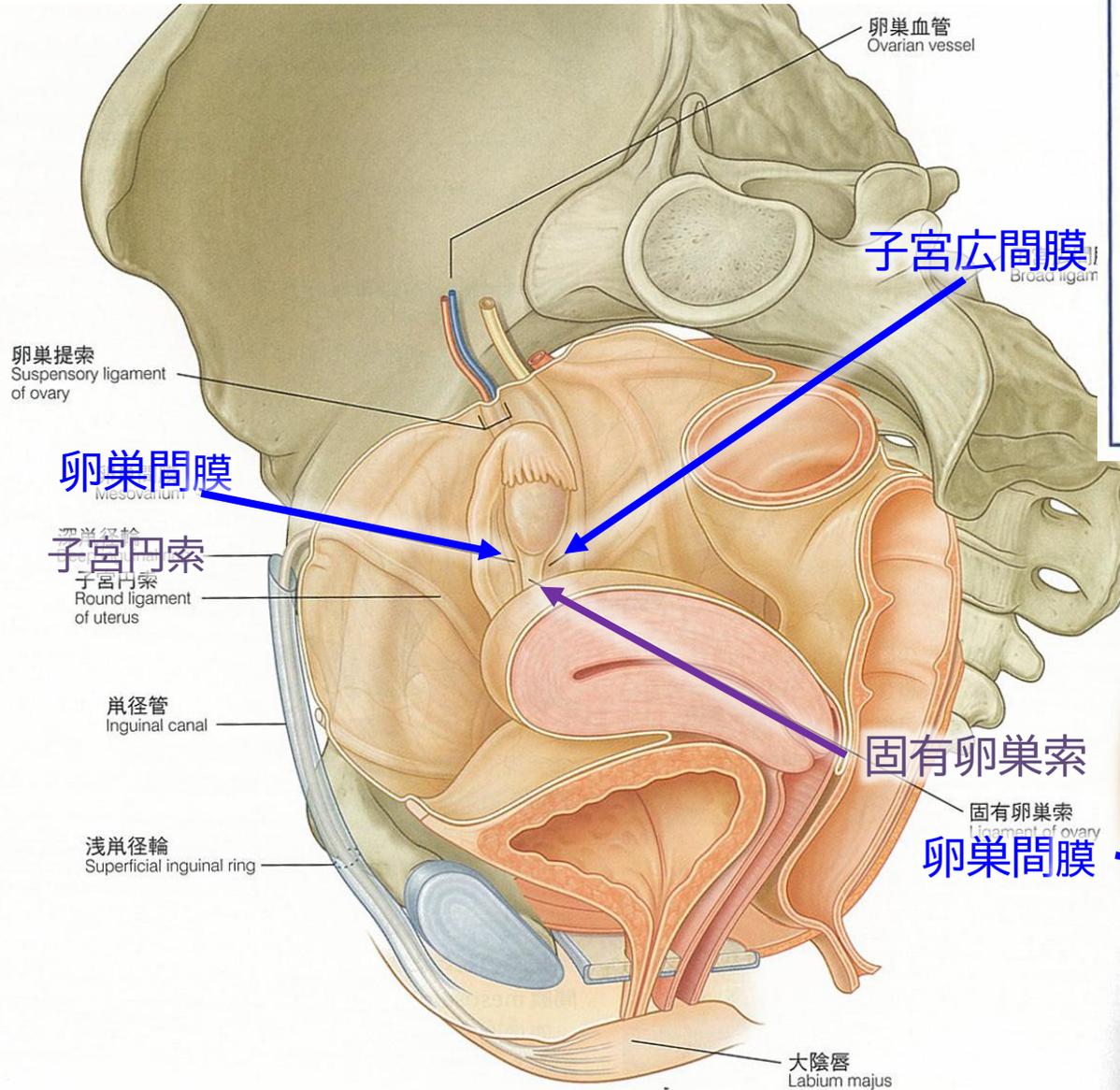


# 子宮付属器

- 子宮体部の粘膜は卵管粘膜につながる。
- 卵管粘膜は卵管采で終わり、卵巣に対して広がる。
- 腹膜(漿膜)は子宮体部を被う。
- そのまま連続して、卵管・卵巣を被う。
- 子宮体部の外側は広間膜として、広がる。

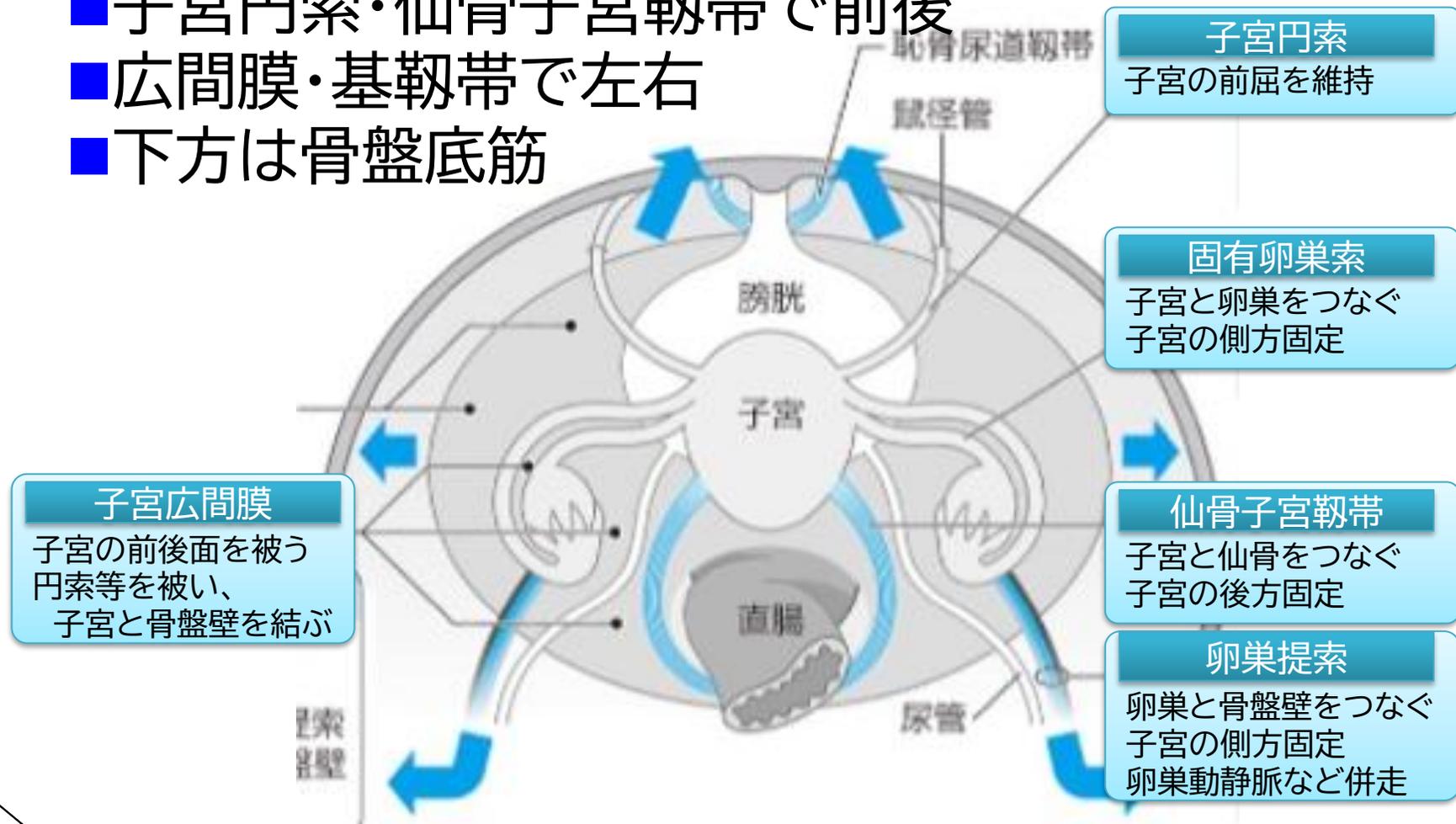


# 子宮広間膜



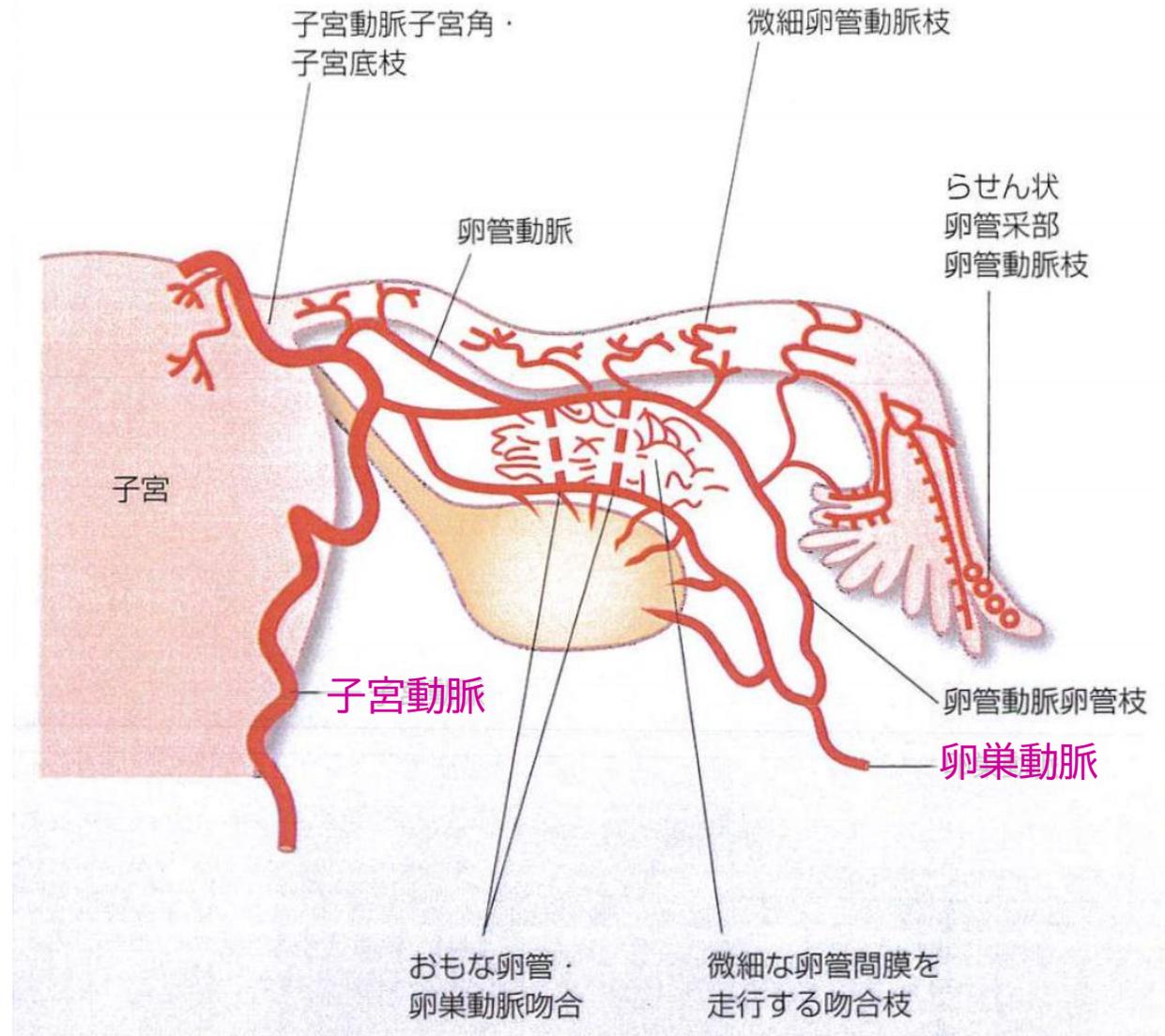
# 子宮固定装置

- 小骨盤内で子宮を固定
  - 子宮円索・仙骨子宮靭帯で前後
  - 広間膜・基靭帯で左右
  - 下方は骨盤底筋



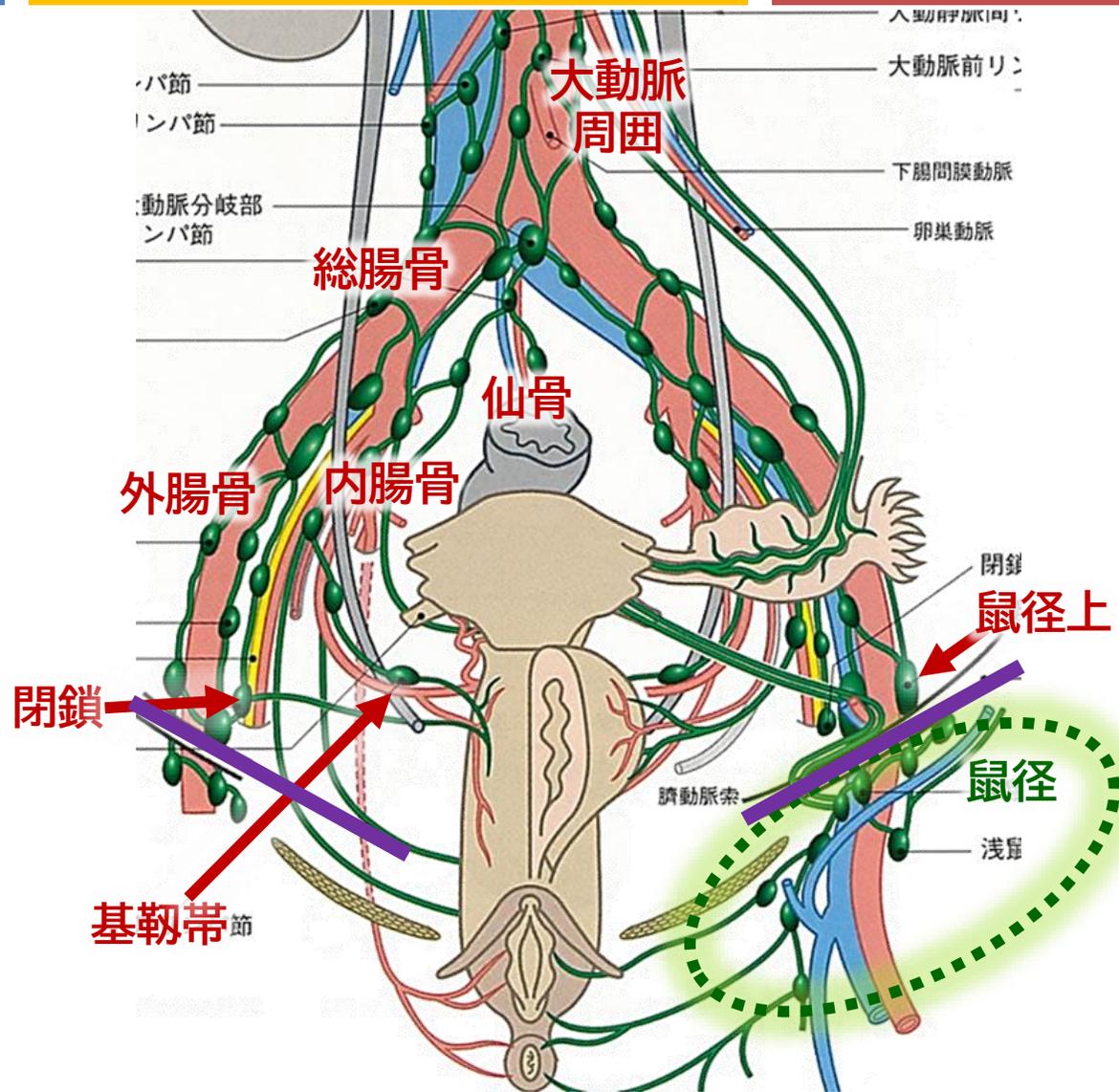
# 卵巣から卵管の血管支配

- 子宮体部の上部と卵管・卵巣は、卵巣動脈からの血流も入ってくる。(吻合)



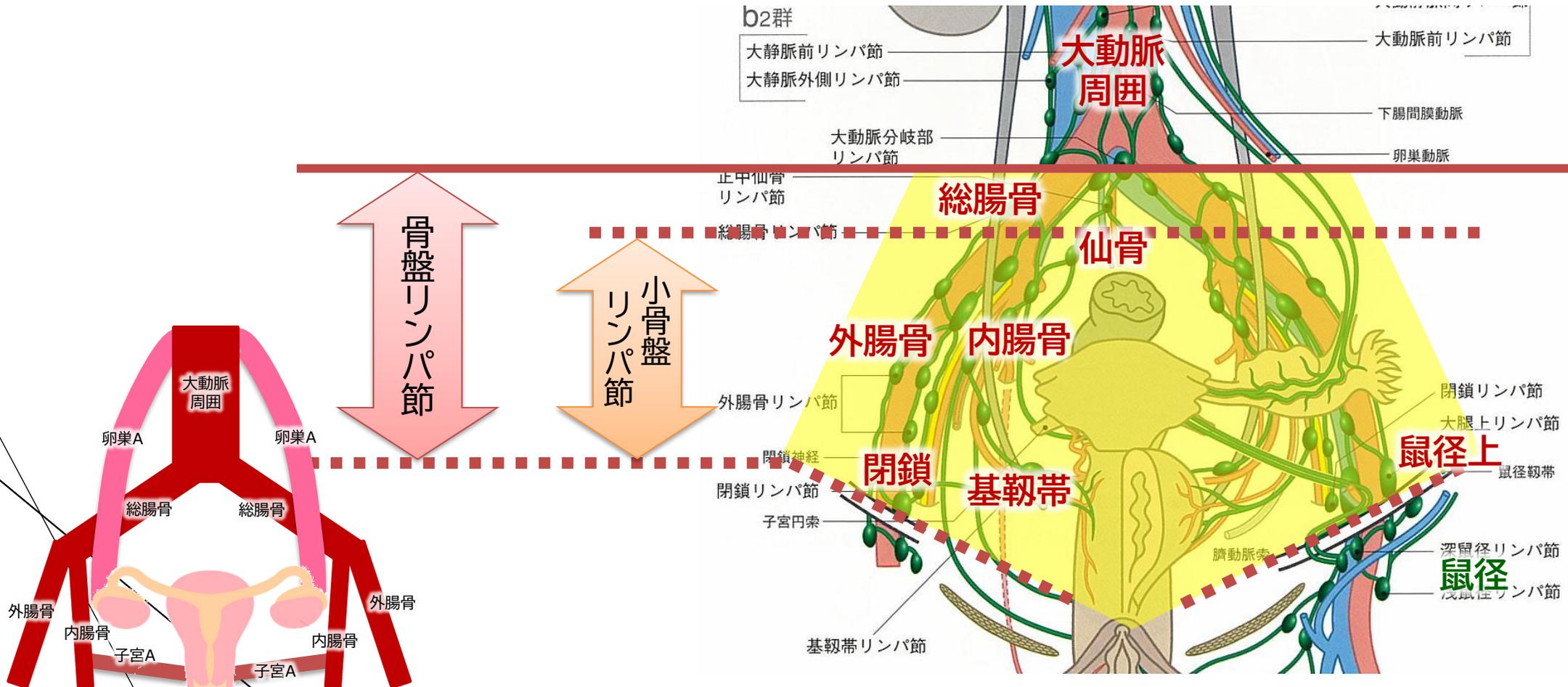
# 子宮周囲のリンパ流とリンパ節

- 子宮体部  
卵巣動脈に沿って  
→大動脈周囲LN  
(頸部と同じ流れもある)
- 子宮頸部  
→基靱帯LN  
→内腸骨LN  
→閉鎖LN  
→外腸骨LN
- 腔下部(1/3)  
→鼠径LN



# 子宮周囲のリンパ節(骨盤リンパ節)

- 大動脈分岐部(総腸骨動脈に分岐)より下部で、鼠径靭帯より上部が骨盤リンパ節



# 子宮壁(体部)の構造と機能



## ● 内膜

- 単層円柱上皮  
(子宮腺を形成)

- 粘膜固有層

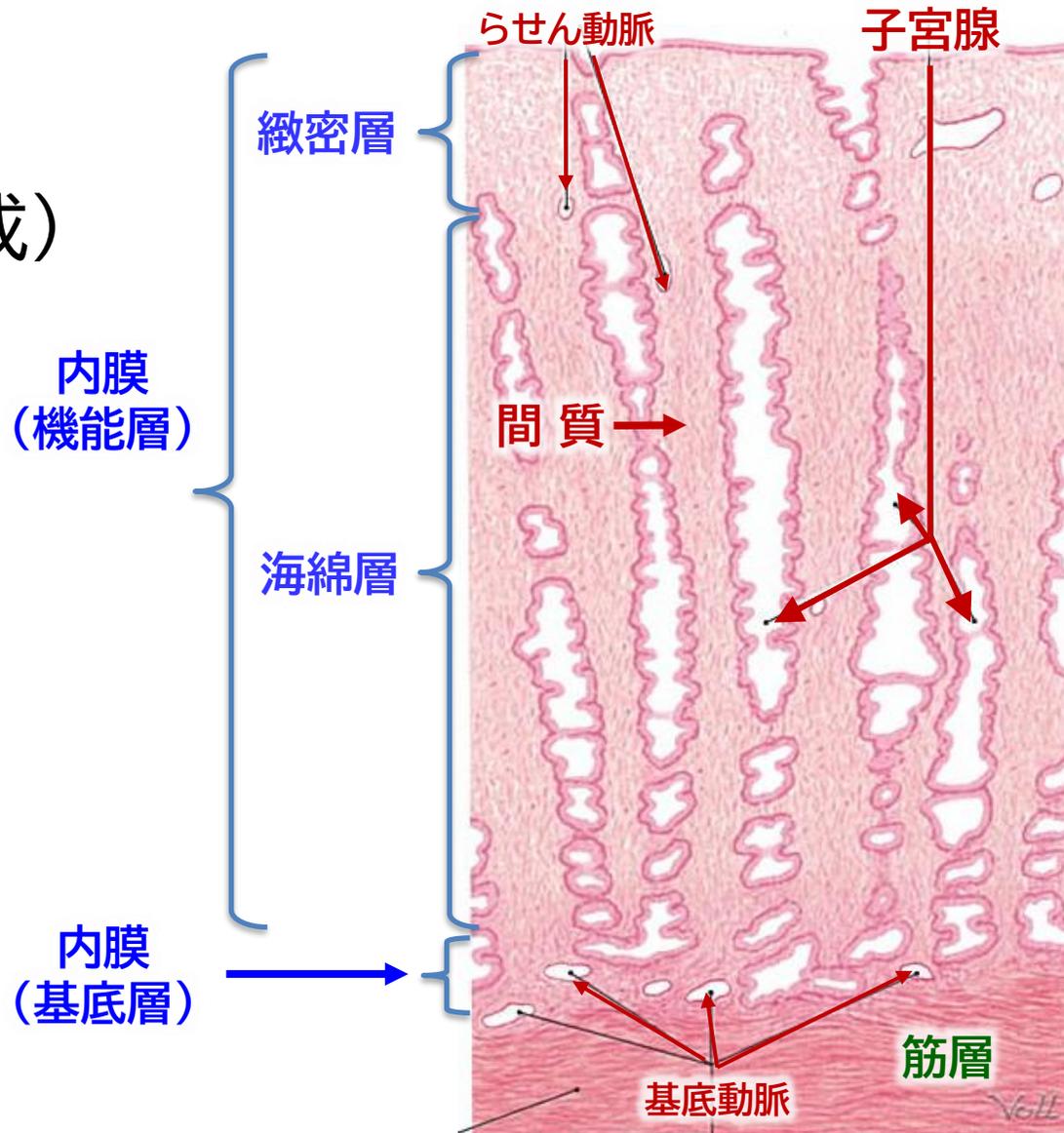
- 機能層

- 緻密層

- 海綿層

- 基底層

## ● 筋層



# 子宮の組織学的区分(部位区分)



がん領域での扱い

- 子宮体部
- 子宮底
- 子宮体
- 子宮峡

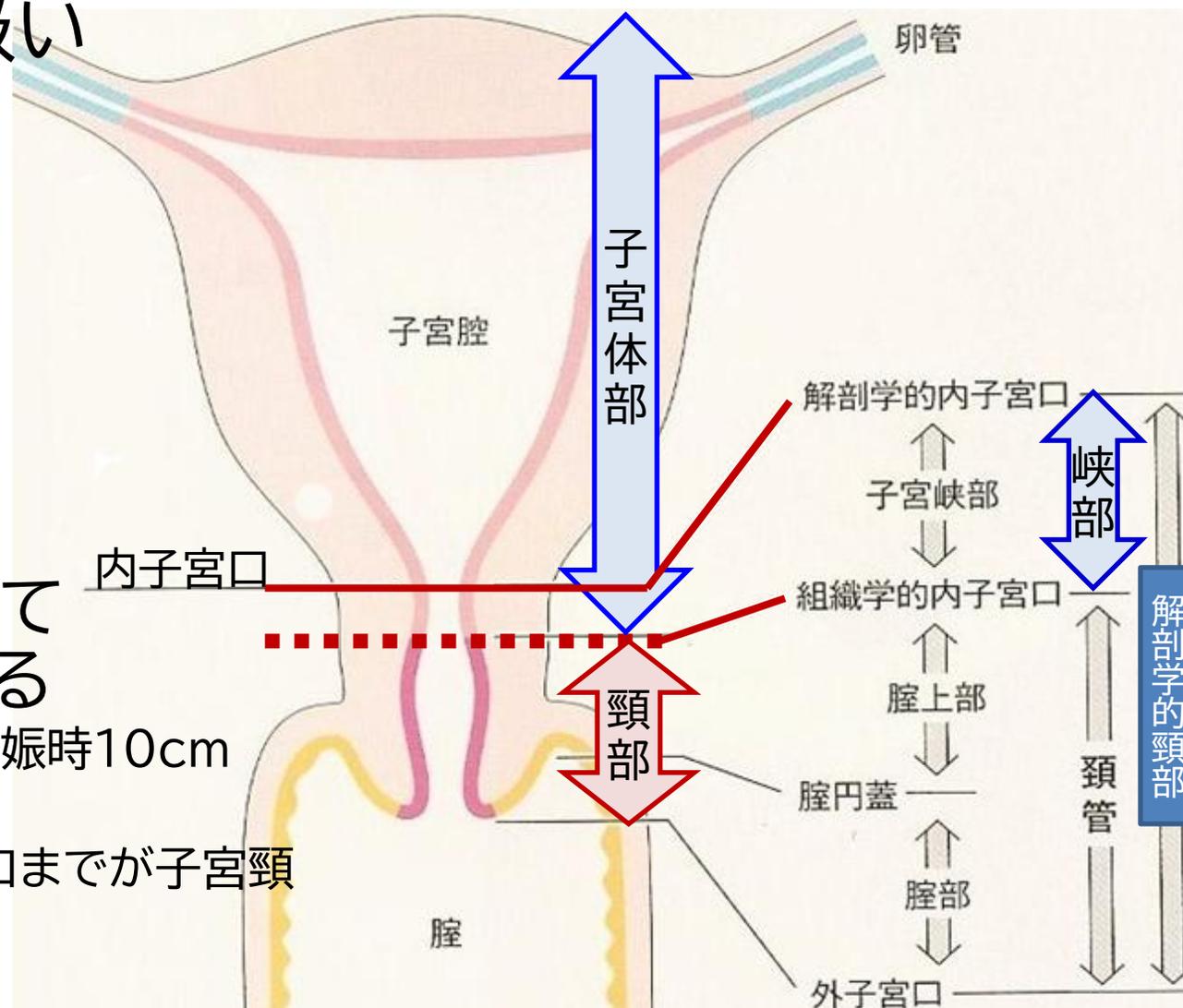
● 子宮頸部

- 子宮腔上部
- 子宮腔(下部)

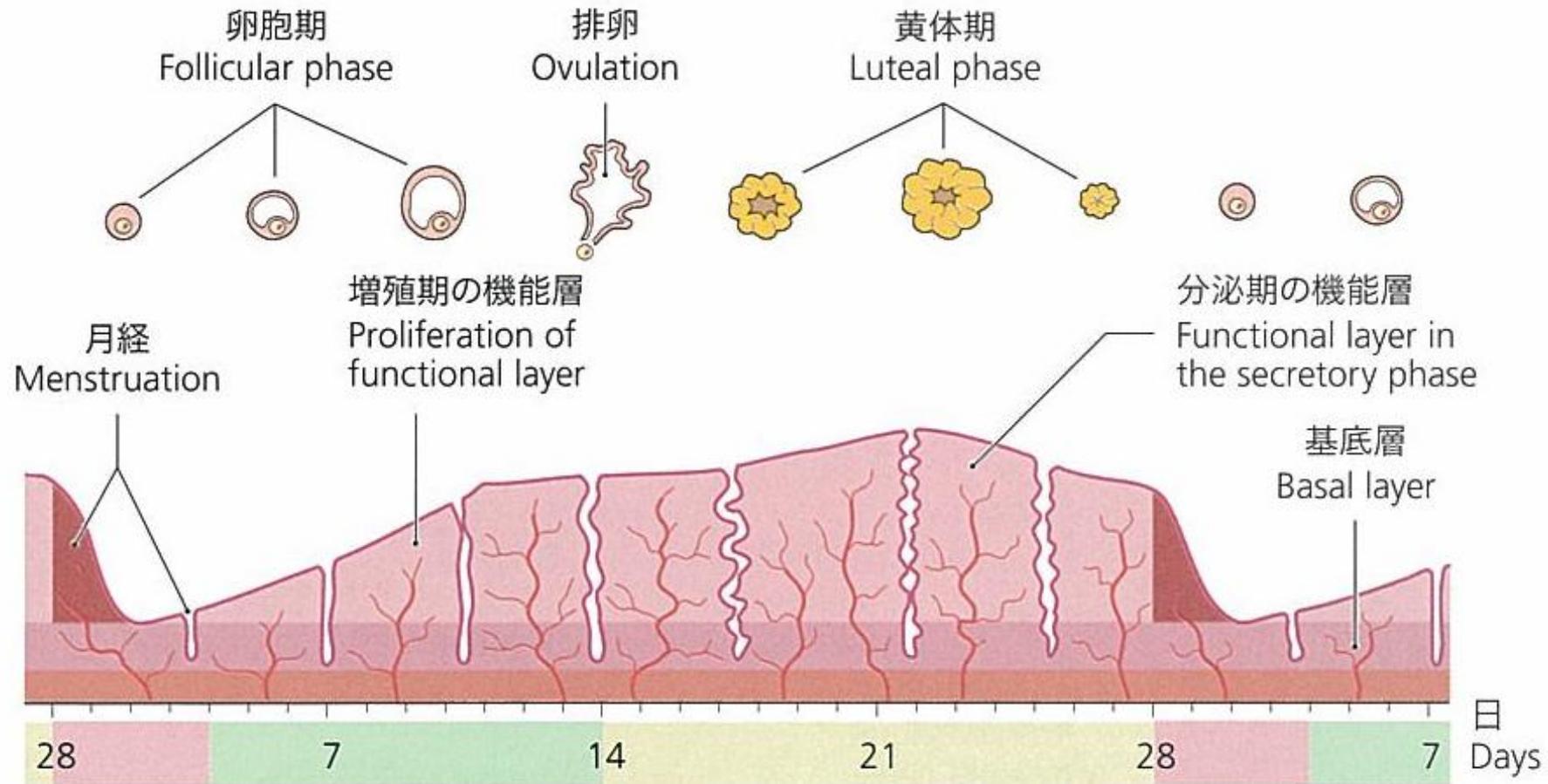
※ 峡部を独立して扱うこともある

非妊娠時1cm→妊娠時10cm

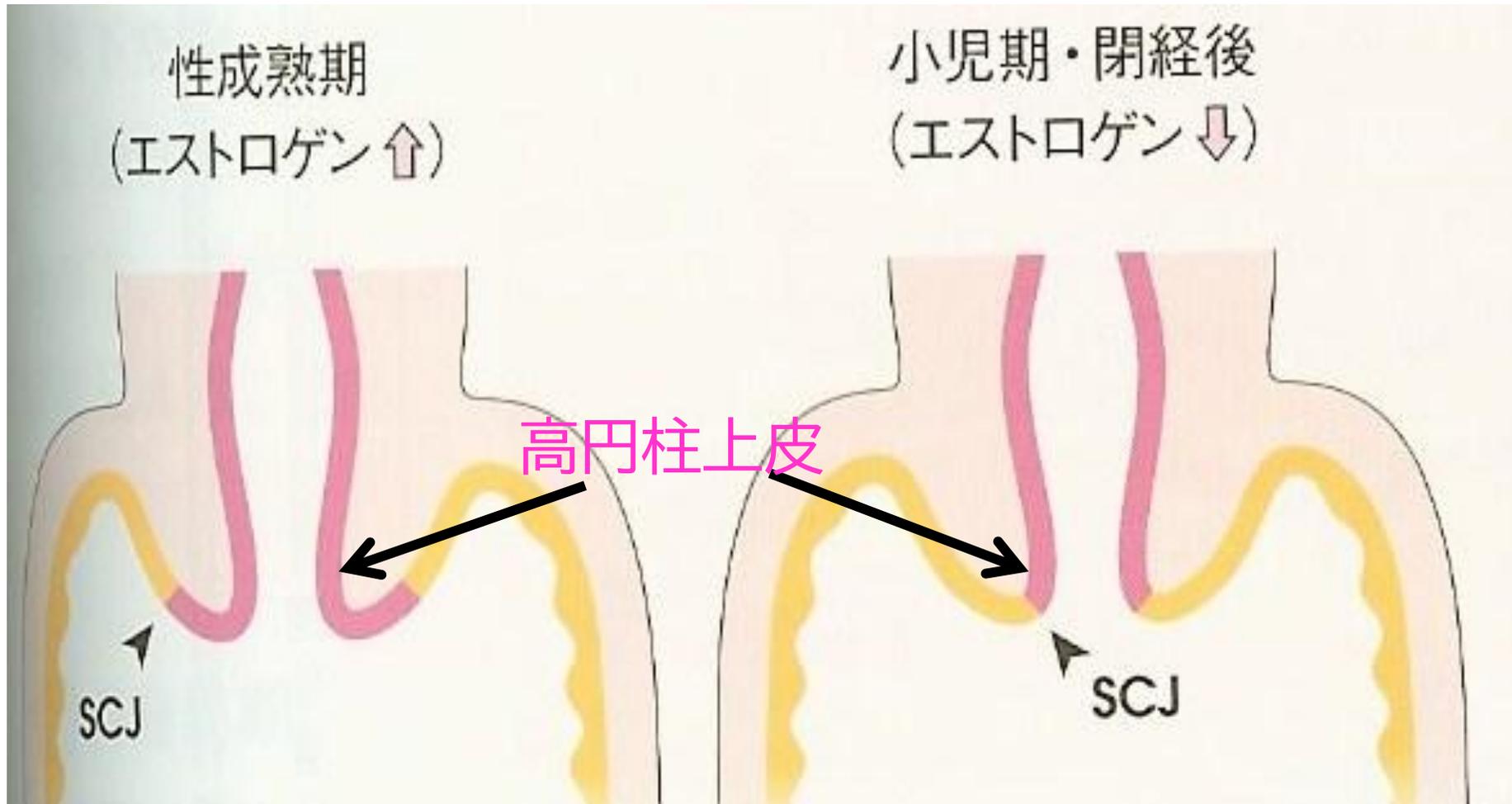
※ 解剖学的には(解剖学的)内子宮口までが子宮頸部



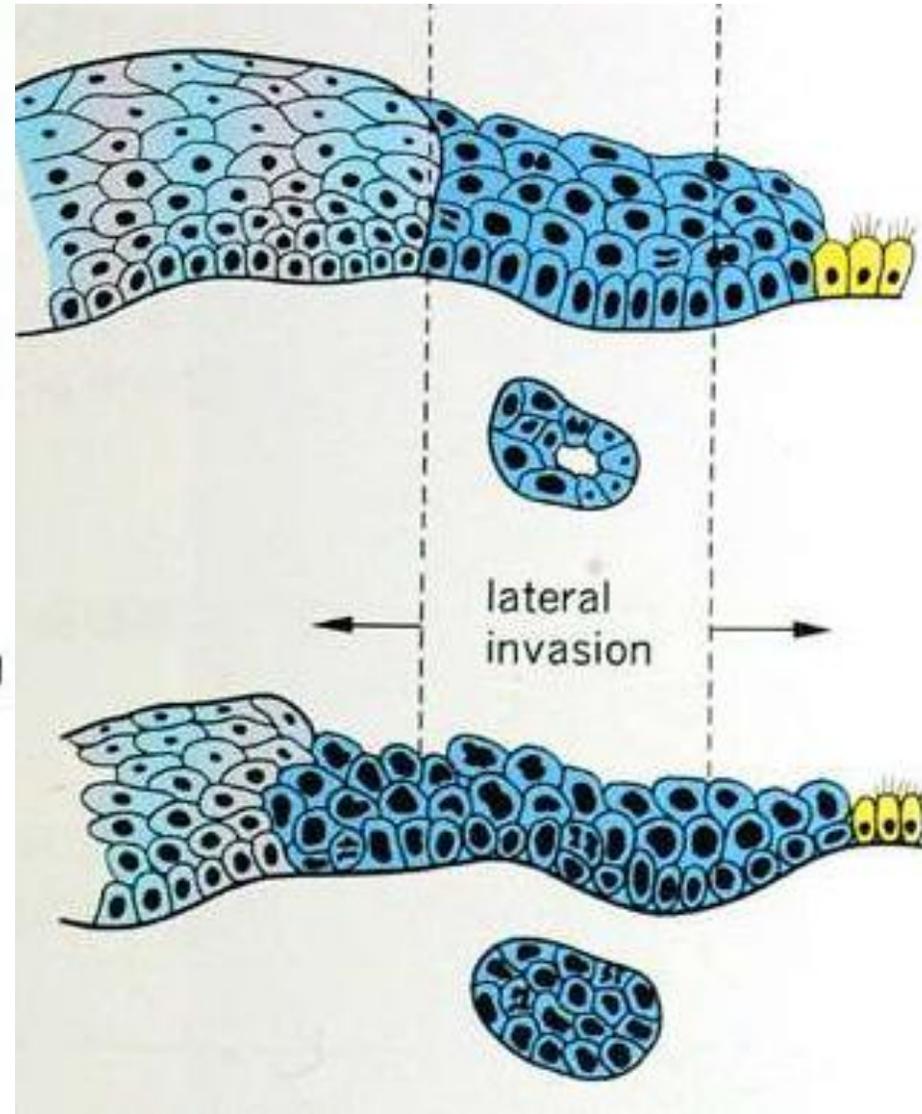
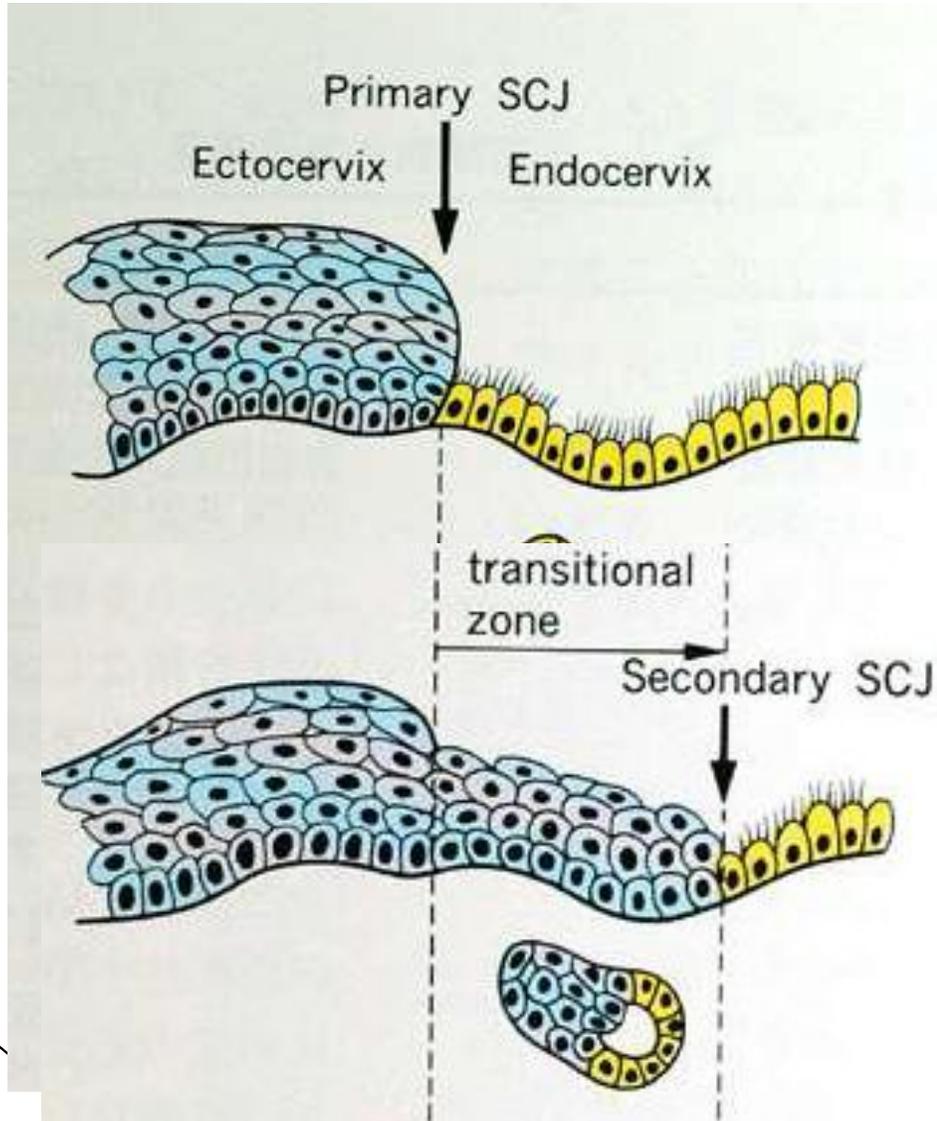
# 子宮壁と性周期



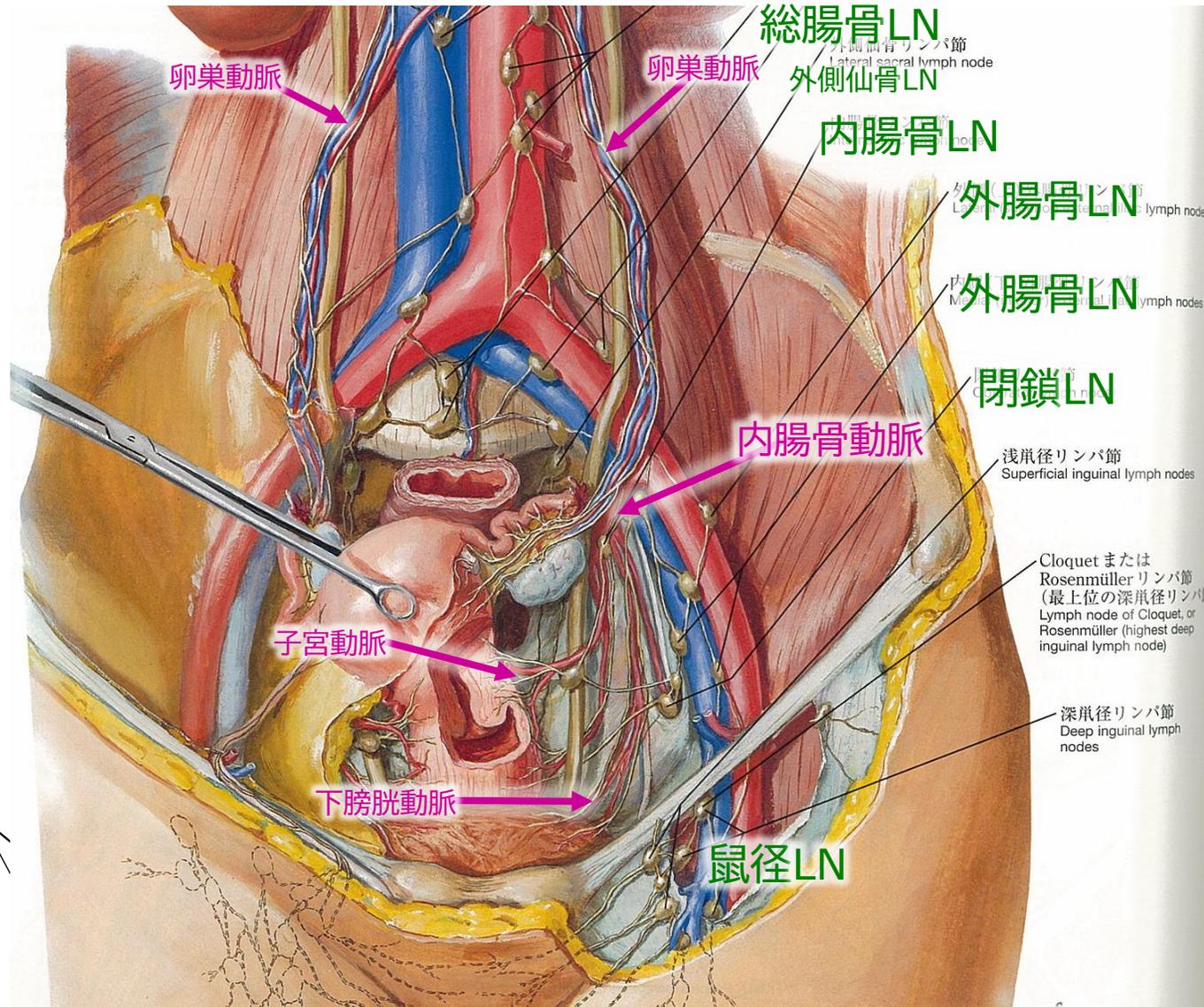
# 年齢による扁平円柱上皮境界の変化



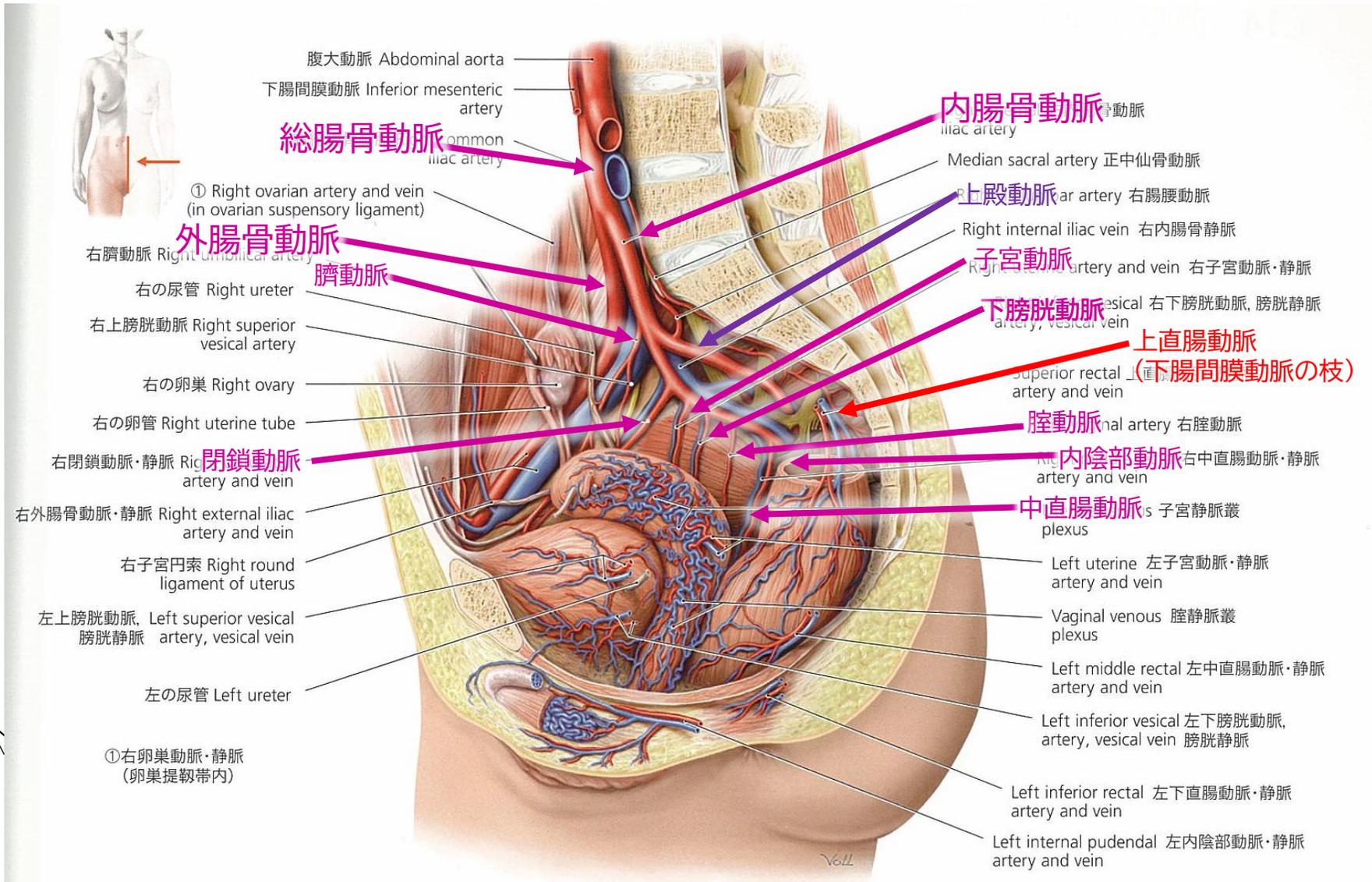
# 扁平上皮円柱上皮接合部(SCJ)



# 子宮周囲の血管・リンパ管 (正面・前額断)



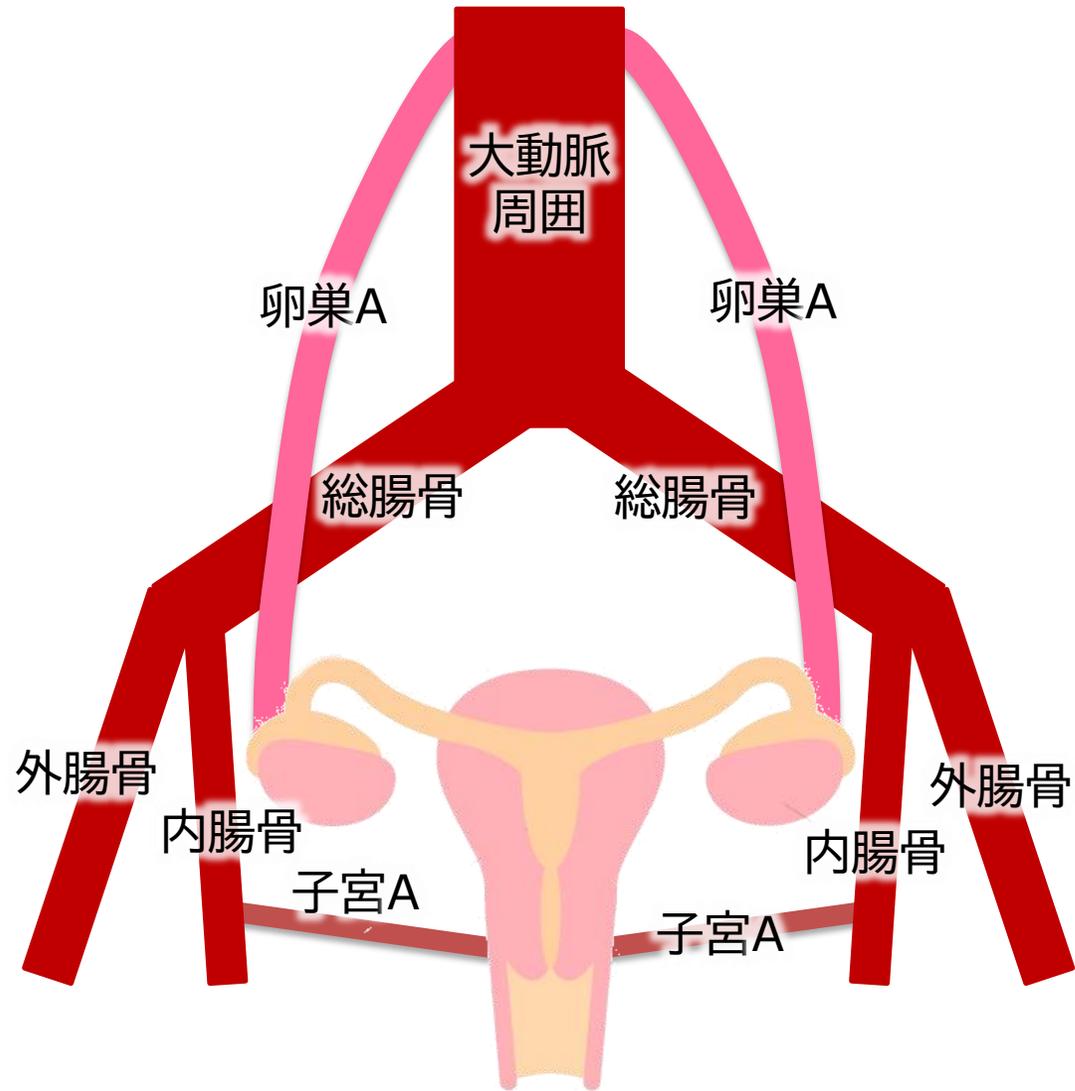
# 子宮周囲の血管(側面・矢状断)



# 子宮の栄養血管(リンパの流れ)

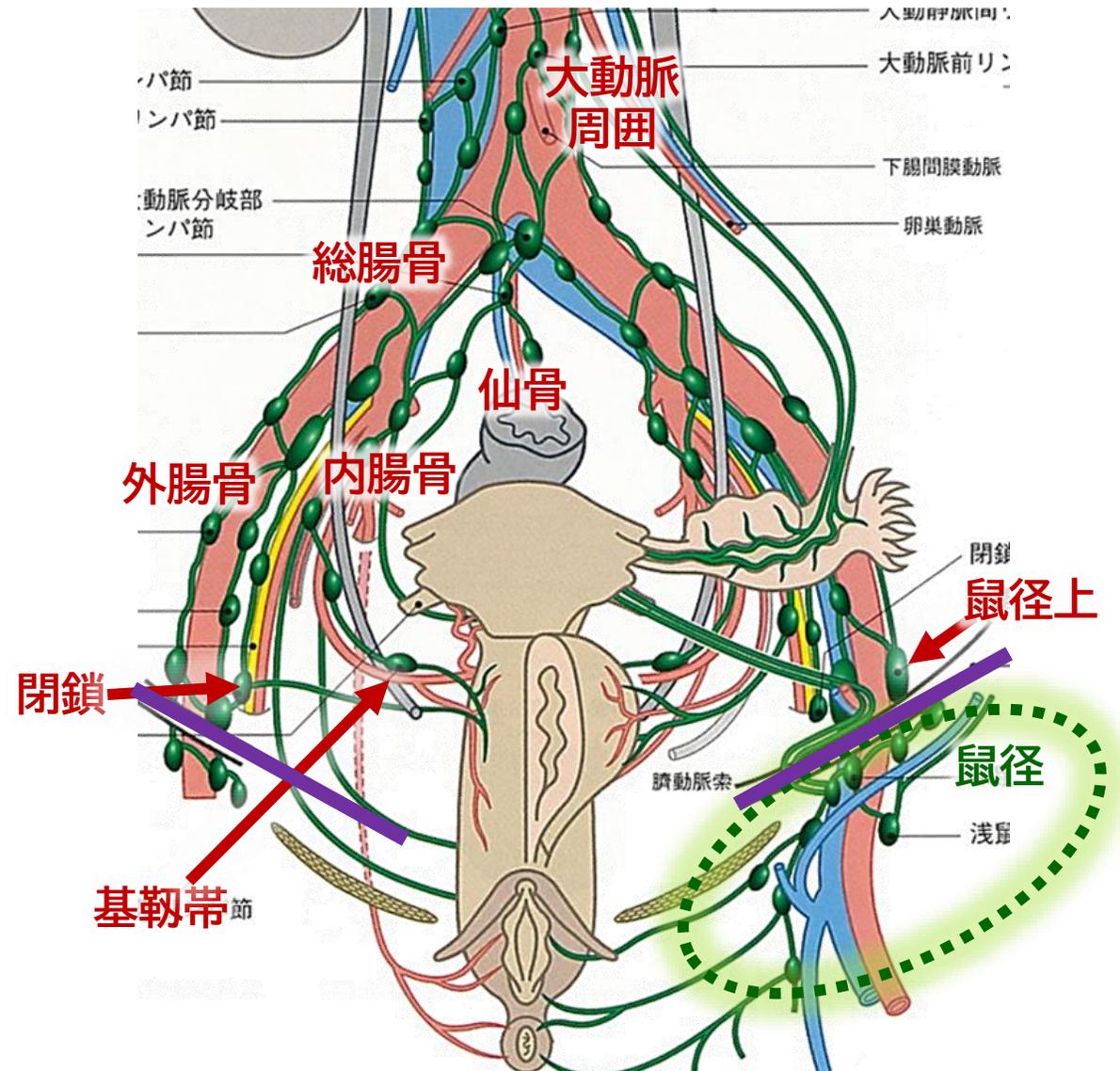


- 大動脈
  - 総腸骨動脈
- 内腸骨動脈
  - 子宮動脈
- 外腸骨動脈
  - 大腿動脈



# 子宮周囲のリンパ流とリンパ節

- 子宮体部  
卵巣動脈に沿って  
→大動脈周囲LN  
(頸部と同じ流れもある)
- 子宮頸部  
→基靱帯LN  
→内腸骨LN  
→閉鎖LN  
→外腸骨LN
- 腔下部(1/3)  
→鼠径LN



# 子宮周囲のリンパ節

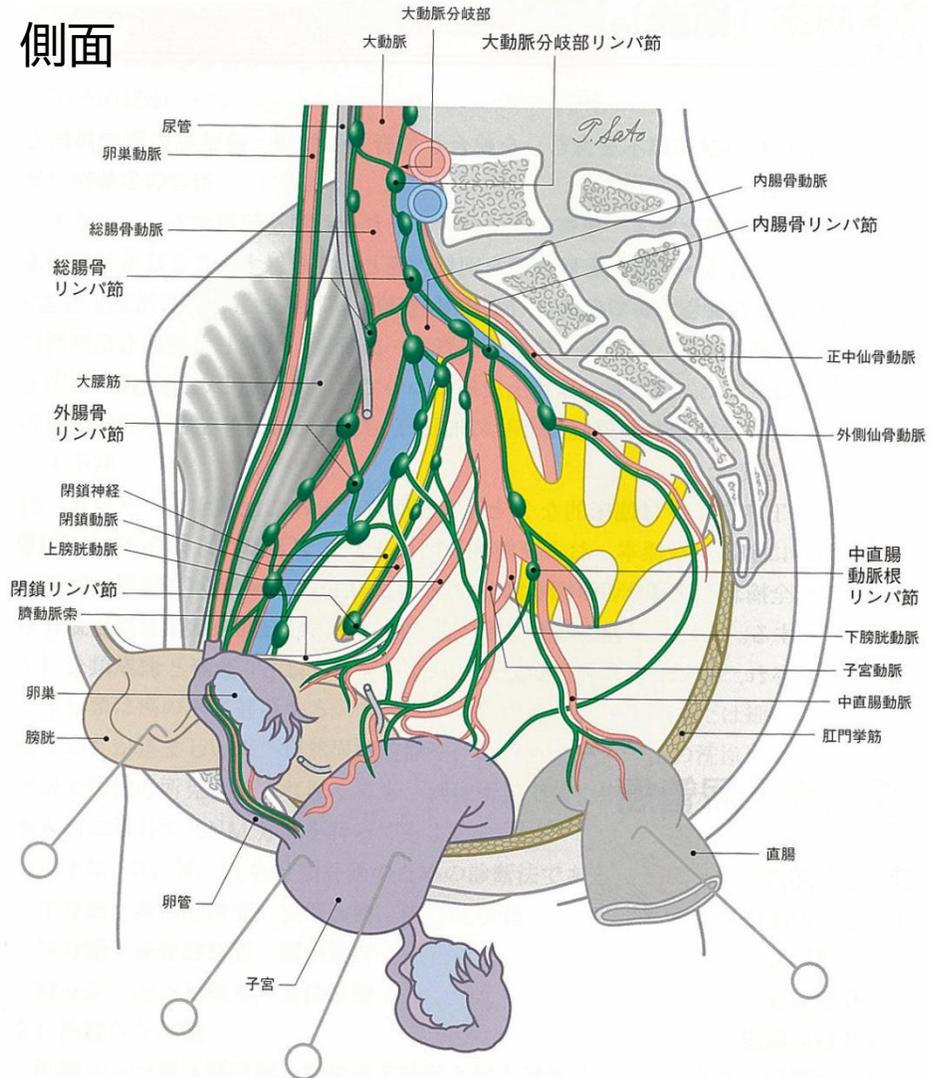
## ■骨盤リンパ節

- 総腸骨リンパ節
- 仙骨リンパ節
  - 外側仙骨リンパ節
  - 正中仙骨リンパ節
- 基靭帯リンパ節
- 内腸骨リンパ節
- 閉鎖リンパ節
- 外腸骨リンパ節
- 鼠径上(大腿上)リンパ節

小骨盤リンパ節

## ■大動脈周囲リンパ節

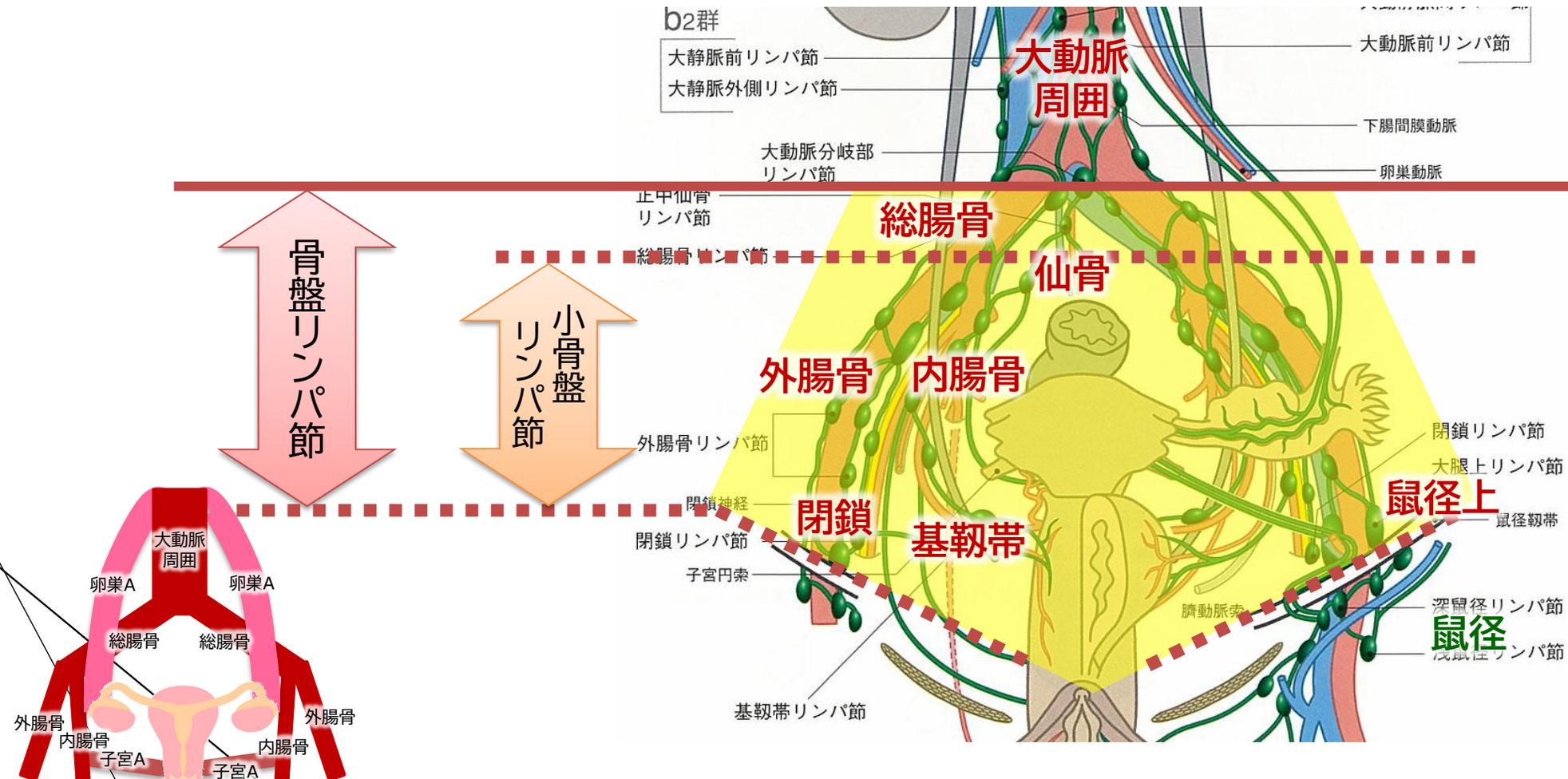
## ■鼠径リンパ節



(佐藤達夫原図, 日本癌治療学会編: 日本癌治療学会リンパ節規約 p36 図 20, 金原出版, 2002. より転載)

# 子宮周囲のリンパ節(骨盤リンパ節)

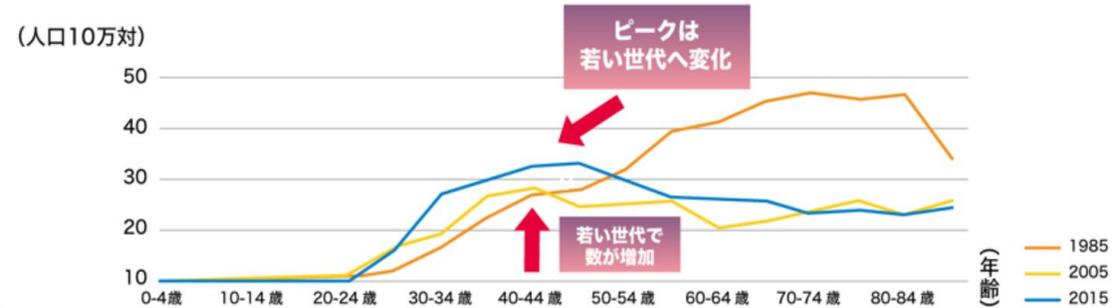
- 大動脈分岐部(総腸骨動脈に分岐)より下部で、  
鼠径靭帯より上部が骨盤リンパ節



# 子宮のがん

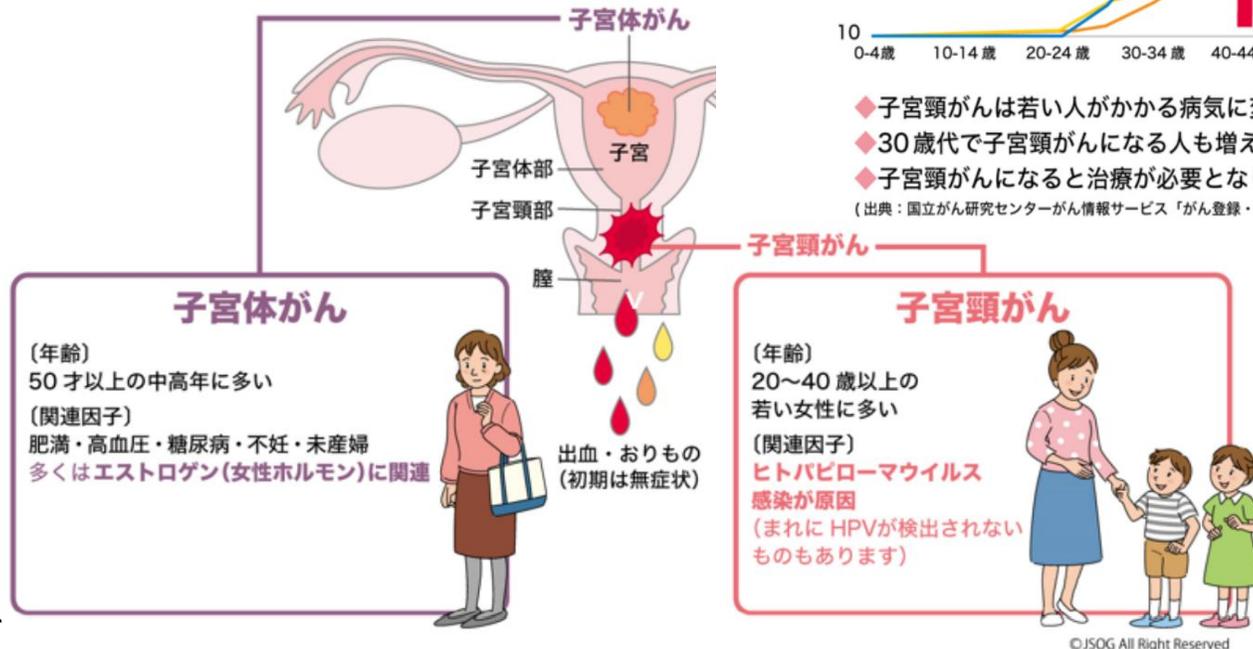
- 子宮頸癌
- 子宮体癌  
(内膜癌)
- 子宮肉腫

図3 子宮頸がんの年齢階級別罹患率  
(上皮内がんを含まない)



- ◆ 子宮頸がんは若い人がかかる病気に変化しています
  - ◆ 30歳代で子宮頸がんになる人も増えています
  - ◆ 子宮頸がんになると治療が必要となり、妊娠に影響します
- (出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」データから子宮頸がんとしての報告数より作図)

©JSOG All Right Reserved



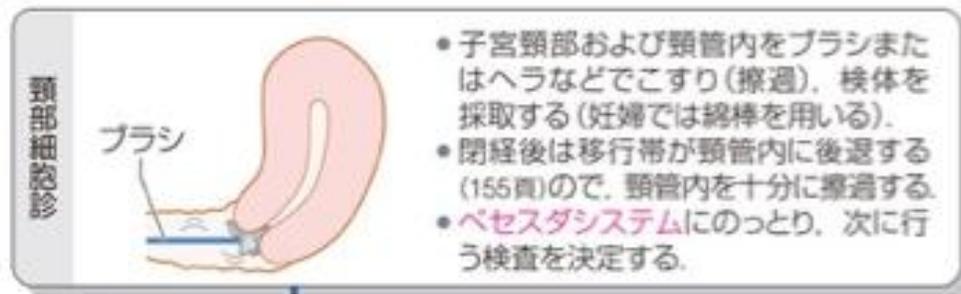
©JSOG All Right Reserved

# 子宮頸部細胞診

## ● HPV検査(擦過診)

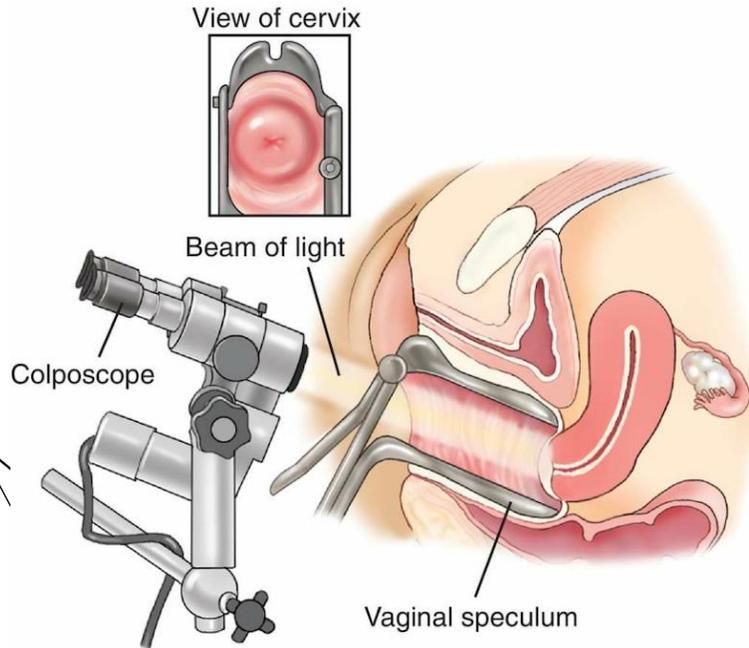
## ■ ハイリスク群(13種類) ハイブリッドキャプチャー法 16,18,31,33,35,39,45,51,52,56,58,59,68

6, 11型は、尖圭コンジローマを引き起こすが、癌化しない



### 子宮頸がん検診(細胞診・HPV併用)の結果

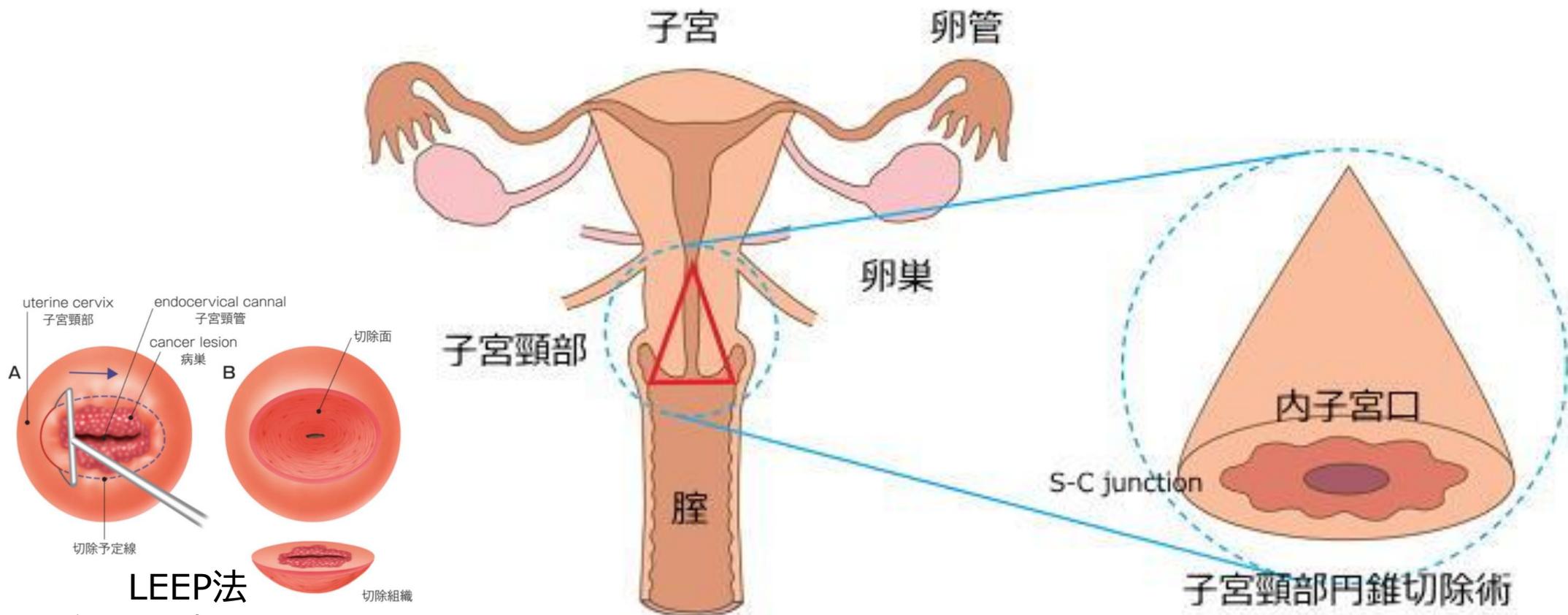
異常なし (NILM)		軽度病変疑い (ASC-US)		軽度病変 (LSIL) 高度病変疑い (ASC-H)
HPV 陰性	HPV 陽性	HPV 陰性	HPV 陽性	高度病変 (HSIL) 扁平上皮癌 (SCC) 腺癌疑い (AGC) 腺癌 (Adenocarcinoma) その他の異常
3年後検診	1年後検診	精密検査 (コルポ下生検)		





# がん登録での円錐切除術の扱い

- 子宮頸部円錐切除術は、臨床検査扱い。  
→円錐切除術結果まで含め、**cTNM**を決定
- 円錐切除のみで治療が終了した場合は、治療扱い



# 子宮頸癌 円錐切除術

- ~2015年症例 「外科的治療」扱い
- 2016年症例~ 「検査」扱い

## 《登録時の注意》

### ■ 円錐切除後、全摘出術施行

→ 円錐切除までの情報  
全摘出術後の情報

「**cTNM**」

「**pTNM**」

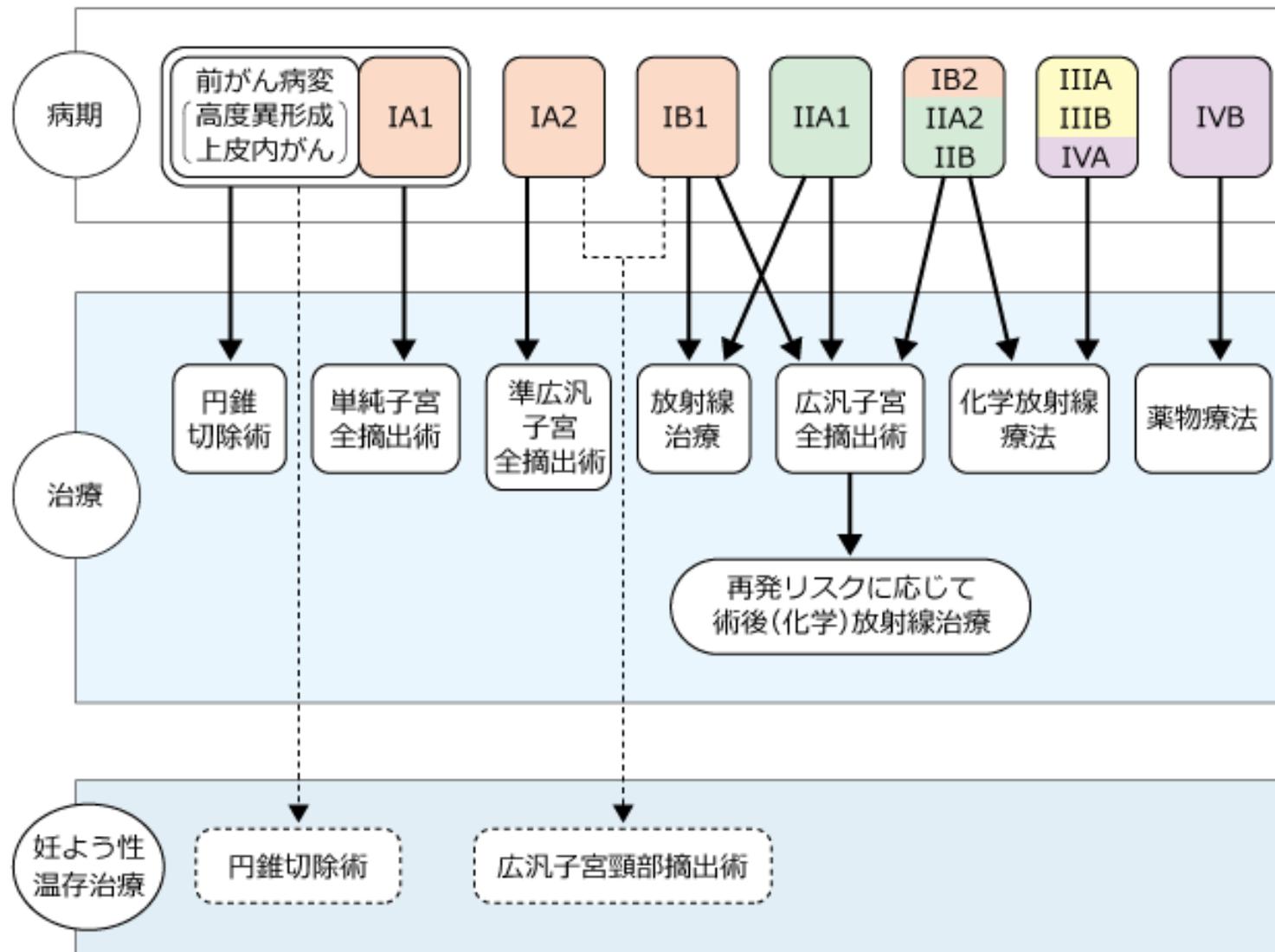
### ■ 円錐切除で治療まで終了

→ 円錐切除術の情報

「**cTNM**」

「**pTNM**」にも反映

# 子宮頸癌の治療 (GL2017)



# 頸癌円錐切除後の治療 (GL2022)

- 円錐切除
  - CIN3
  - AIS
- 単純子宮全摘
- 準広汎子宮全摘
- 準広汎子宮頸部摘出

図1 たんじゆんしきゆうぜんてきしゆつじゆつ 単純子宮全摘術

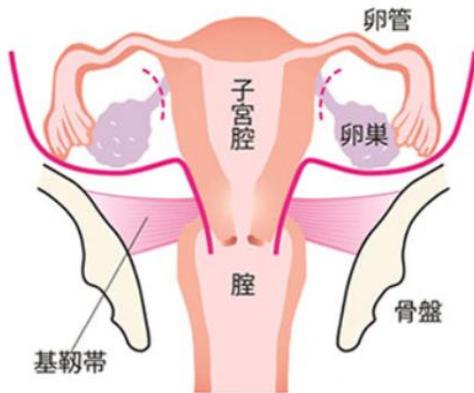
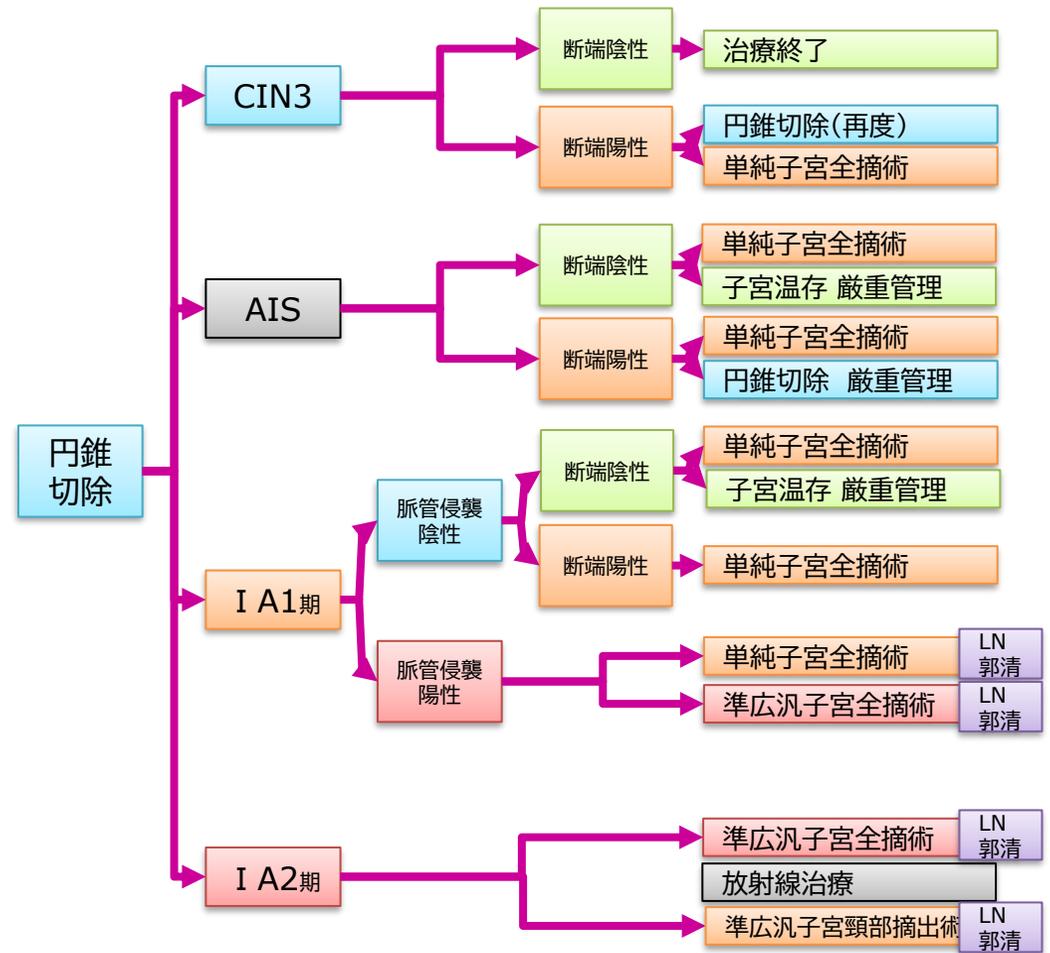
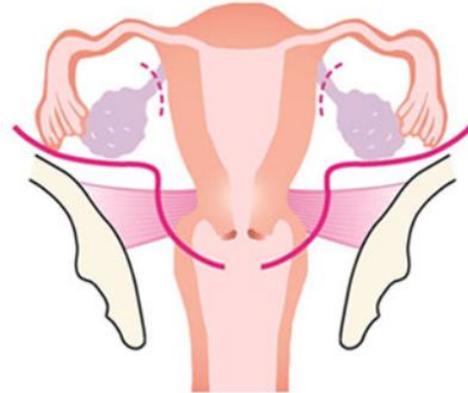


図2 じゆんこうはんしきゆうぜんてきしゆつじゆつ 準広汎子宮全摘術



# 頸癌 I B期・II 期の治療 (GL2022)

- 広汎子宮全摘
- 放射線療法
- 同時化学放射線療法 (Chemo/Radi)

→ いずれも術後補助療法

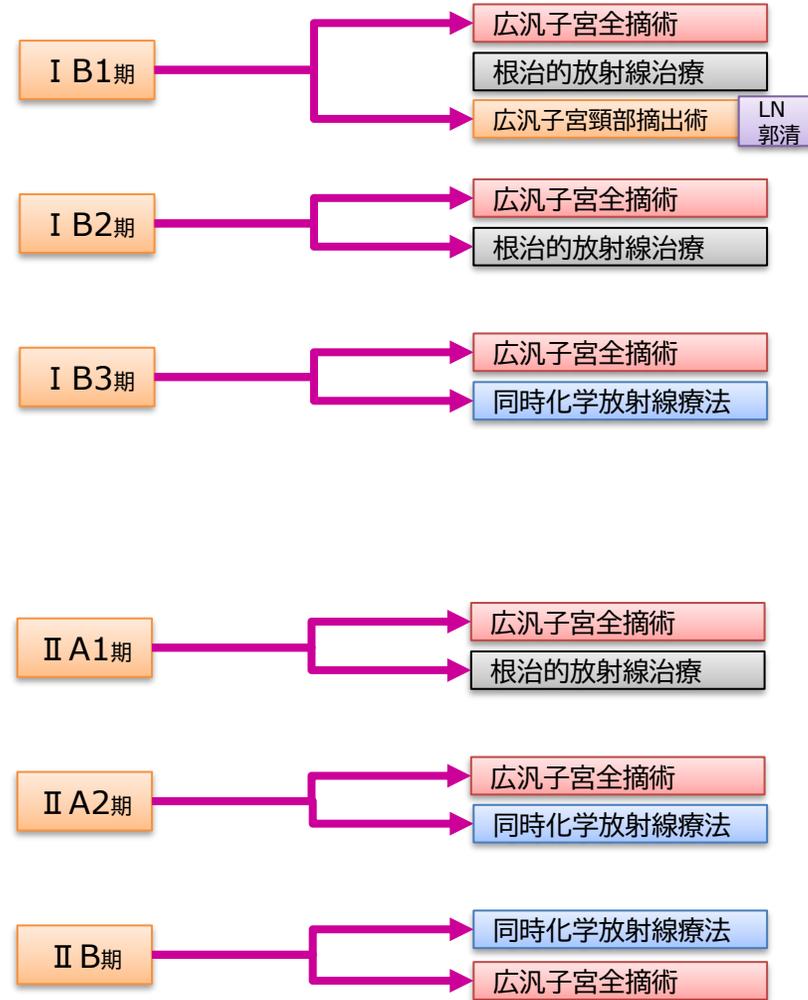
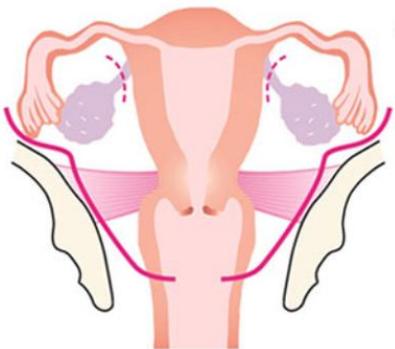
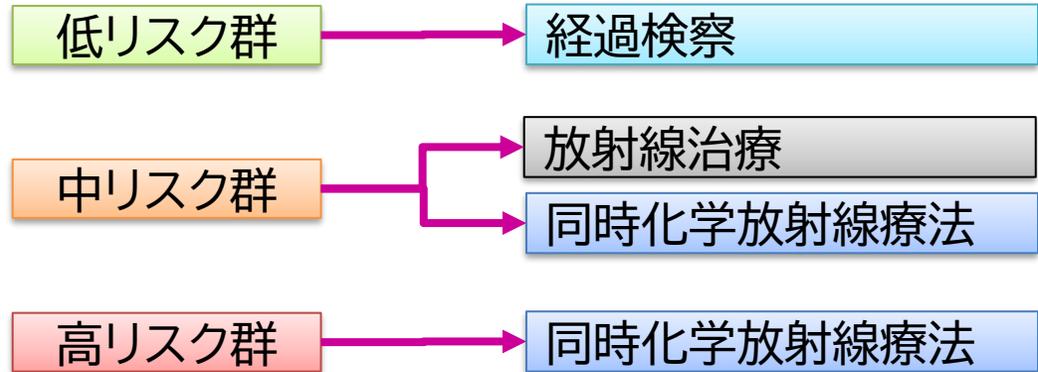


図3 広汎子宮全摘術



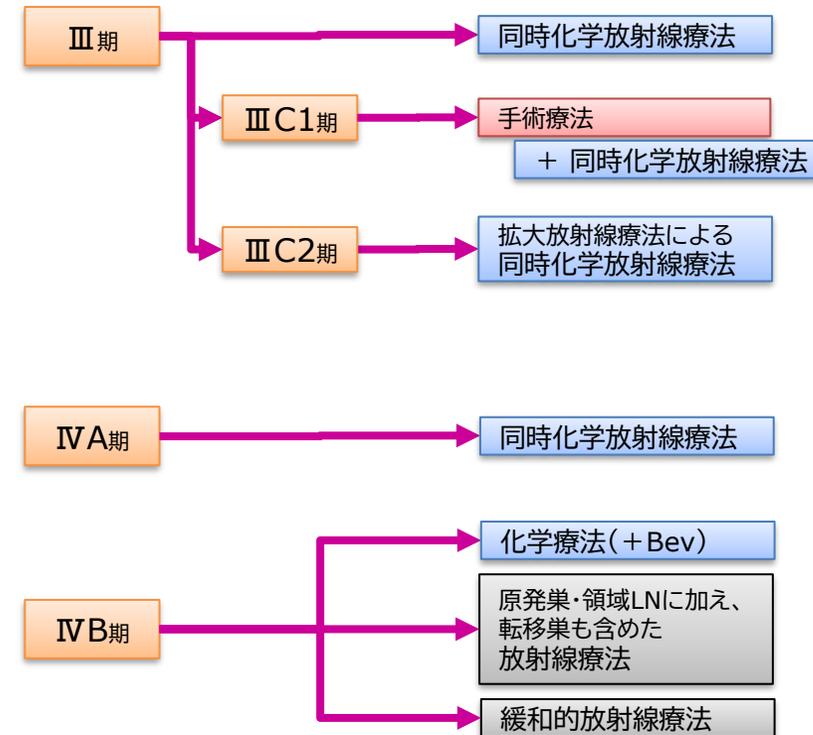
# 頸癌 I B期・II期の補助療法 (GL2022)



	手術断端	領域リンパ節 転移	子宮傍組織 浸潤	頸部腫瘍の 大きさ	頸部 間質浸潤	脈管侵襲
低リスク群	-	以下の5項目 全てを満たす				
		なし	なし	小さい	浅い	なし
中リスク群	-	以下の2項目をみたし、			以下の3項目いずれかが該当	
		なし	なし	大きい	深い	あり
高リスク群	以下の3項目 いずれかが該当					
	陽性	あり	あり	-	-	-

# 頸癌Ⅲ期・Ⅳ期の治療(GL2022)

- 同時化学放射線療法 (Chemo/Radi)
- 放射線療法
- 化学療法
- 緩和的対応

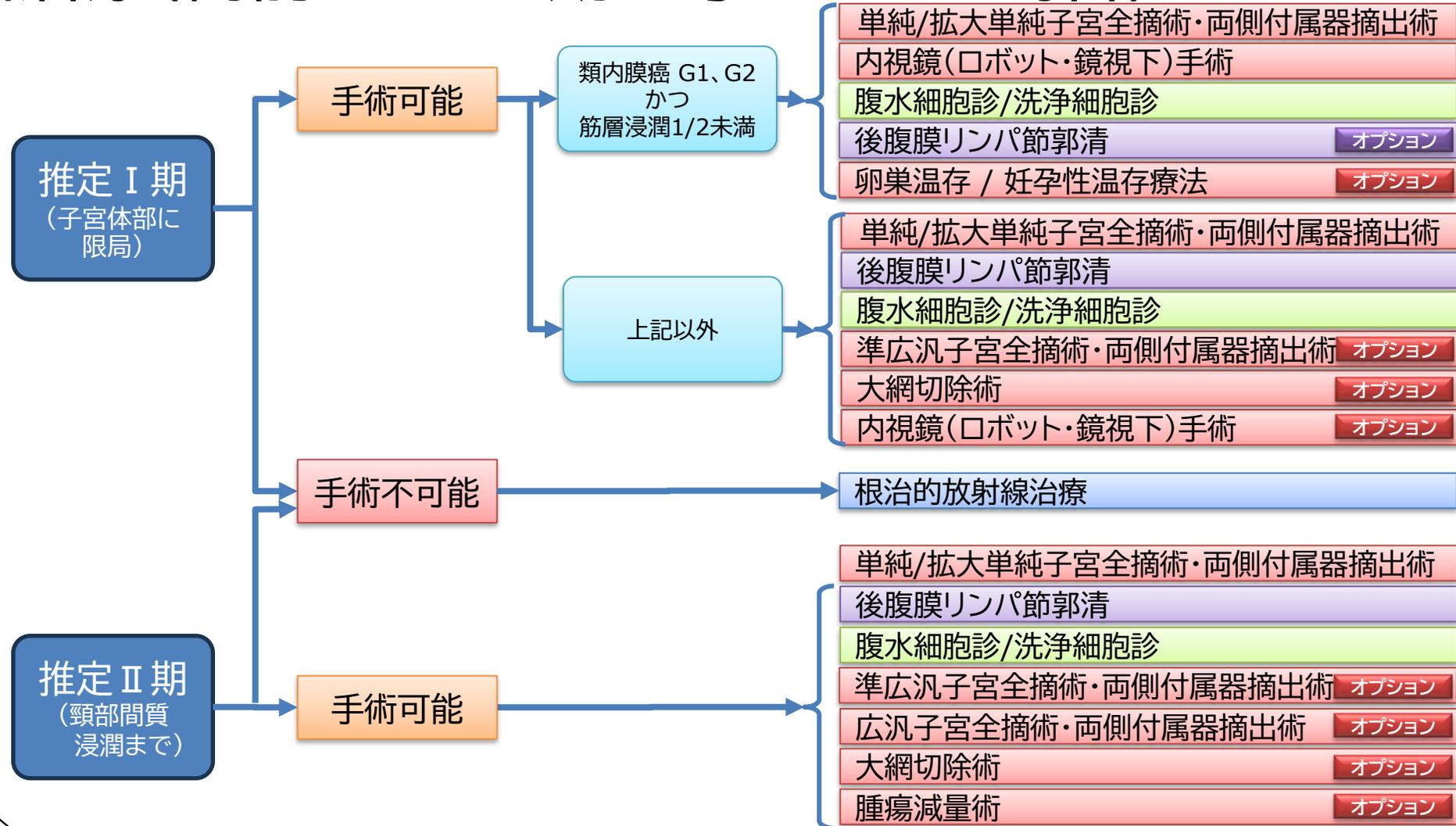


Extended-field Radiation Tx. (拡大放射線療法)

一般的な、骨盤リンパ節に加え、大動脈周囲リンパ節を照射領域に含めた治療

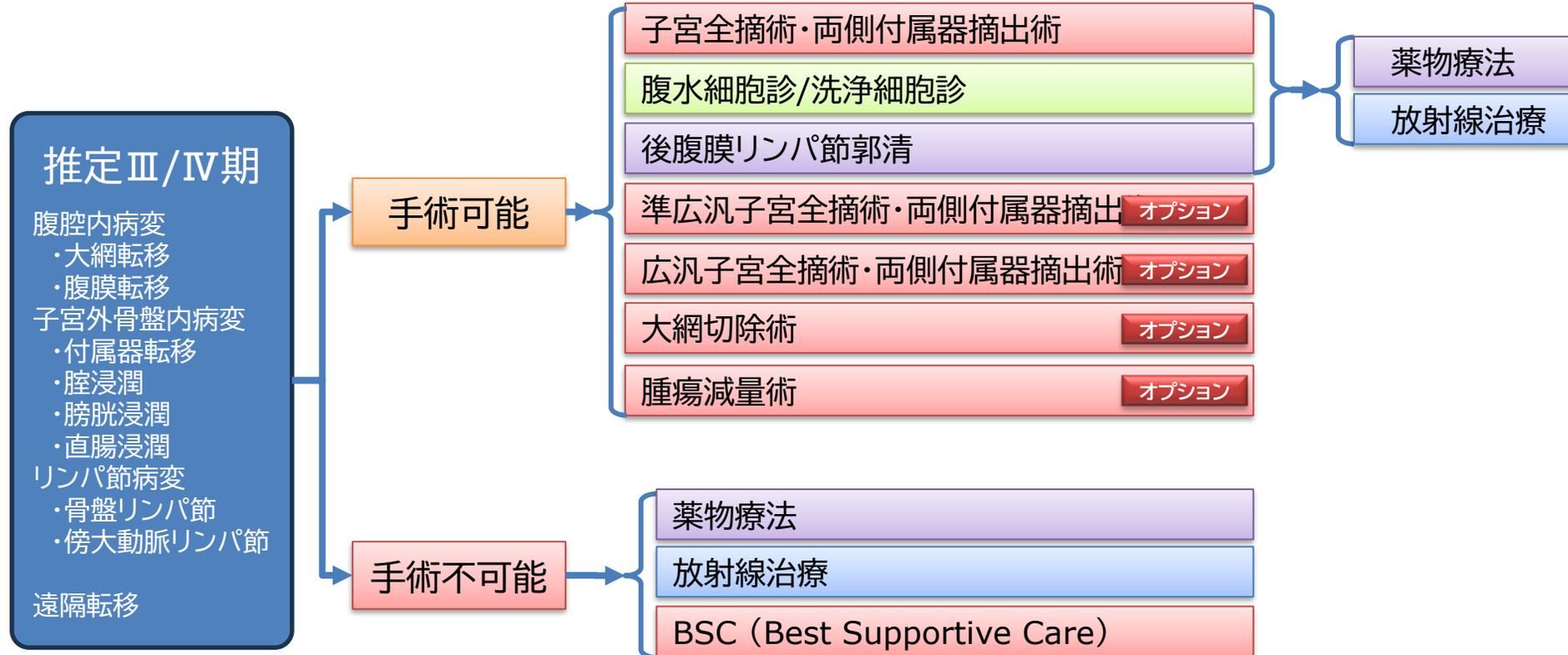
# 子宮体癌の治療 (GL2023)

## ● 初回治療(術前に I・II 期と考えられる場合)



# 子宮体癌の治療（GL2023）

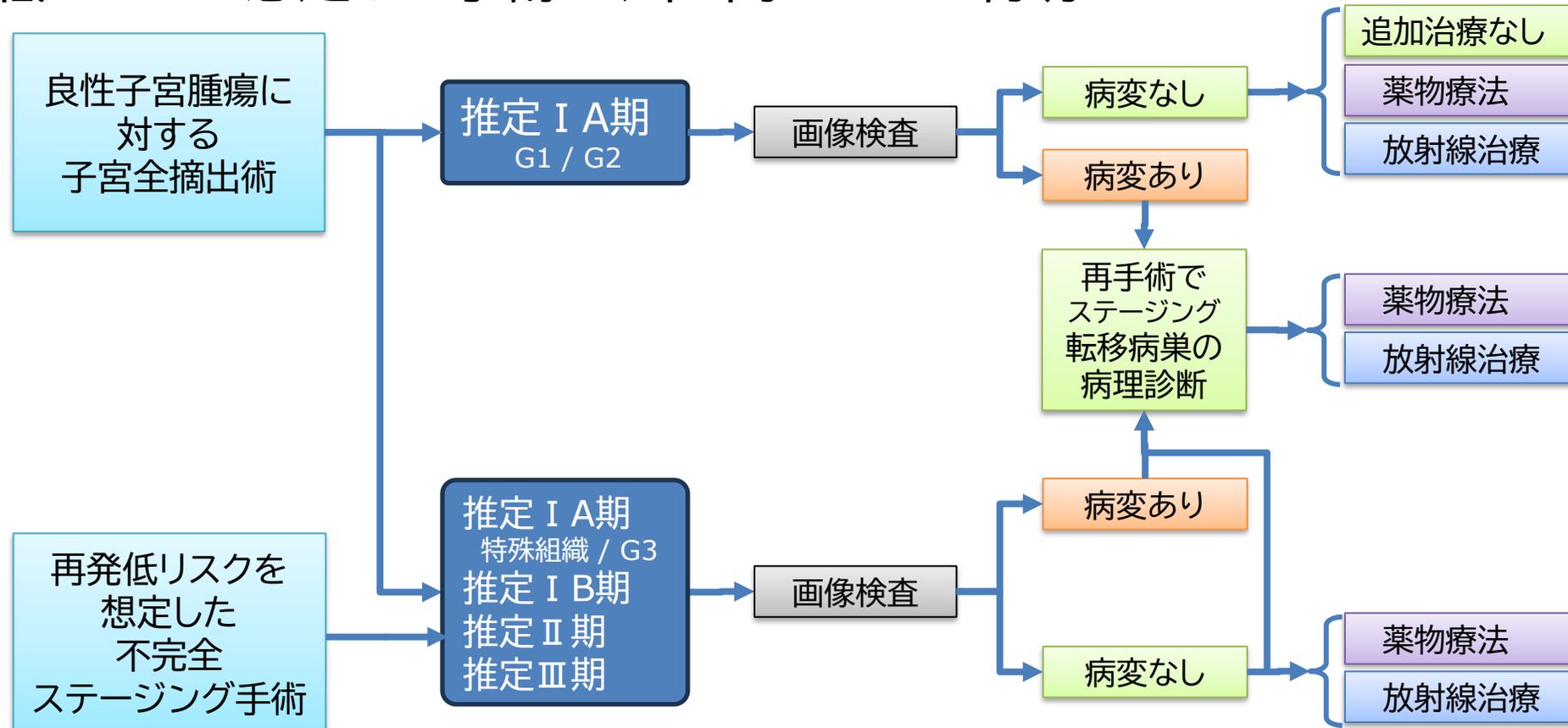
## ●初回治療（術前にⅢ・Ⅳ期と考えられる場合）



# 子宮体癌の治療 (GL2023)

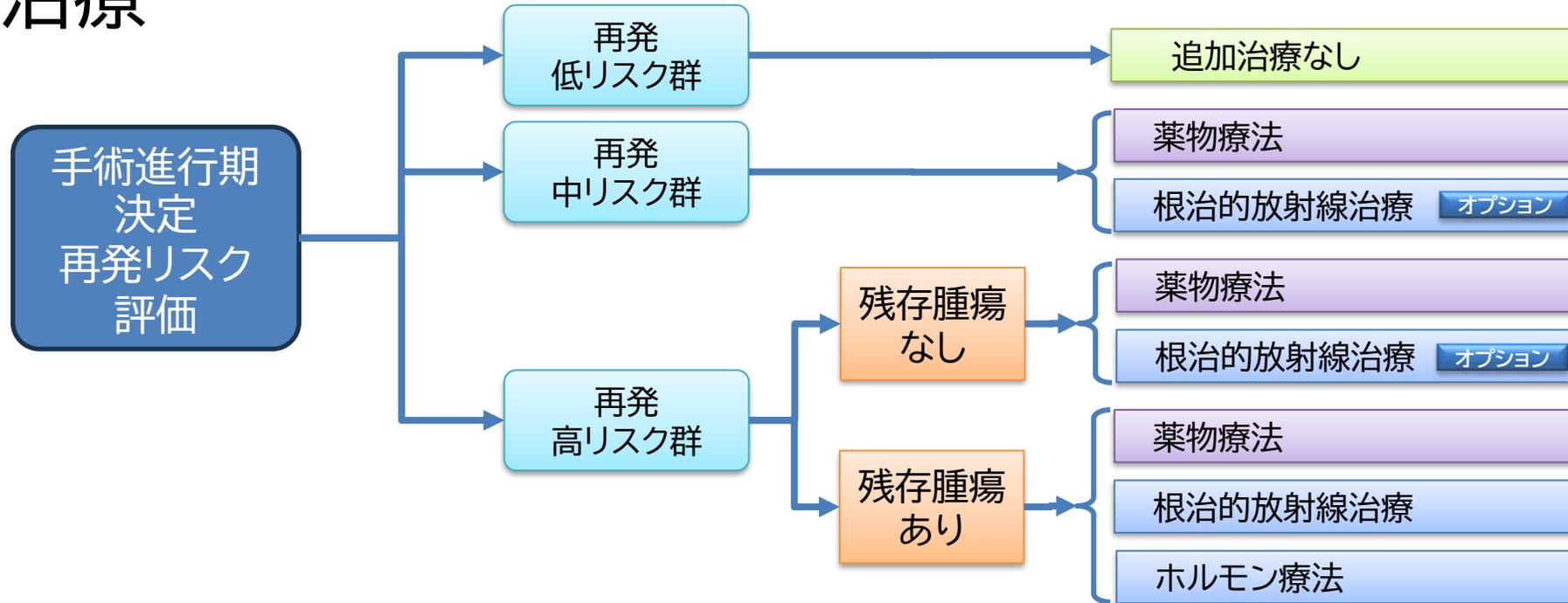
## ● 初回治療

- 子宮摘出術後に子宮体癌と判明した場合
- 再発低リスクを想定した手術で、中・高リスクと判明



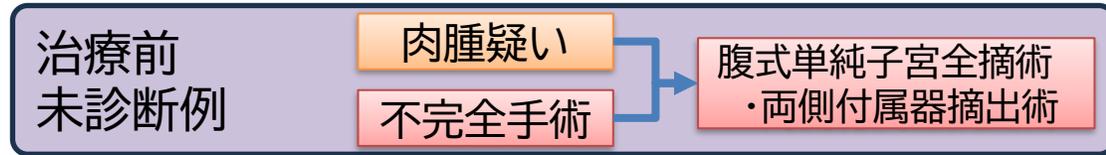
# 子宮体癌の治療 (GL2023)

## ●術後治療

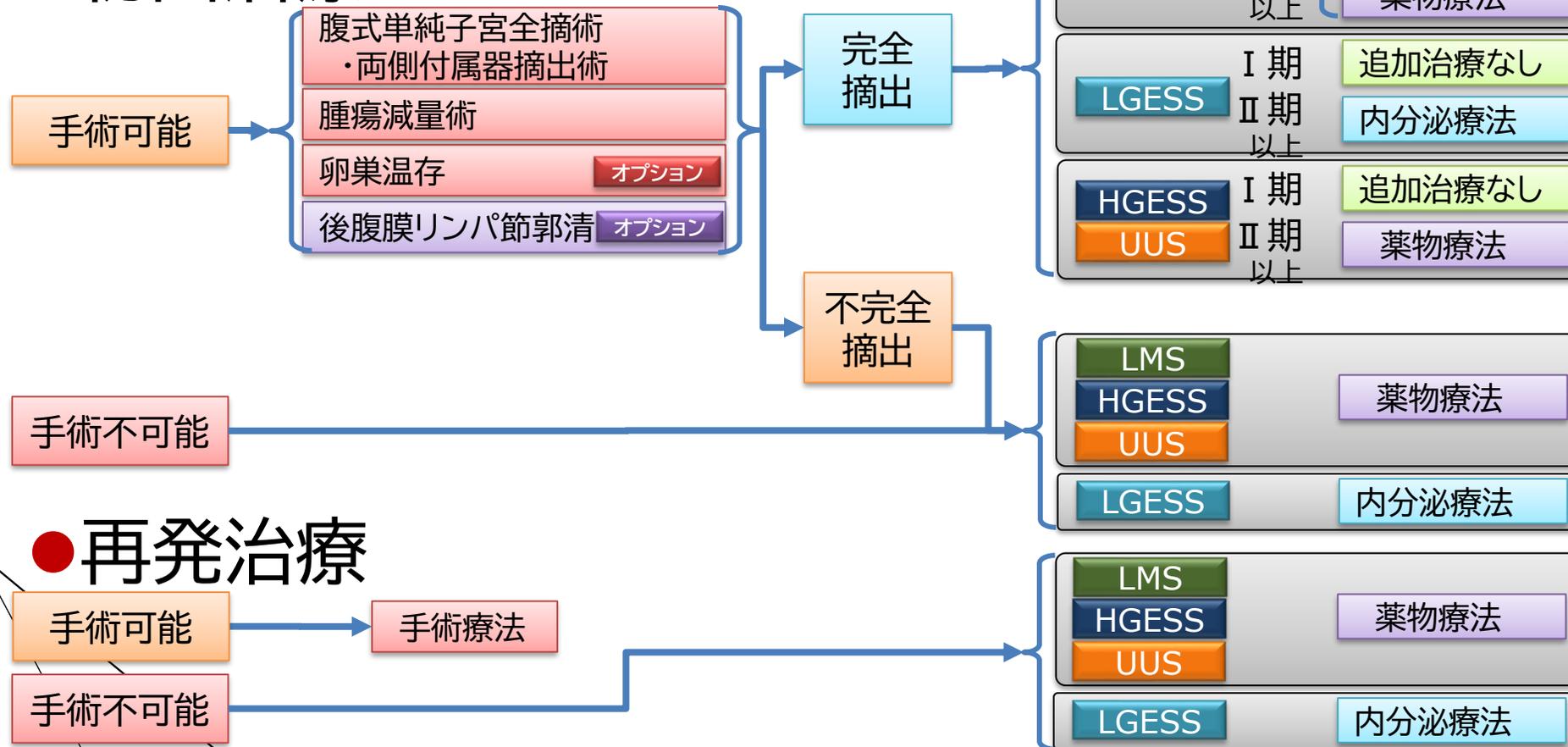


	筋層浸潤 なし	筋層浸潤 (1/2未満)	脈管侵襲	筋層浸潤 (1/2以上)	頸部間質浸潤	子宮外病変
類内膜癌 G1/G2	低	低	中	中	高	高
類内膜癌 G3	中	中	中	高	高	高
漿液性癌 明細胞癌	中	高	高	高	高	高

# 子宮肉腫の治療 (GL2023)



## ●初回治療



## ●再発治療





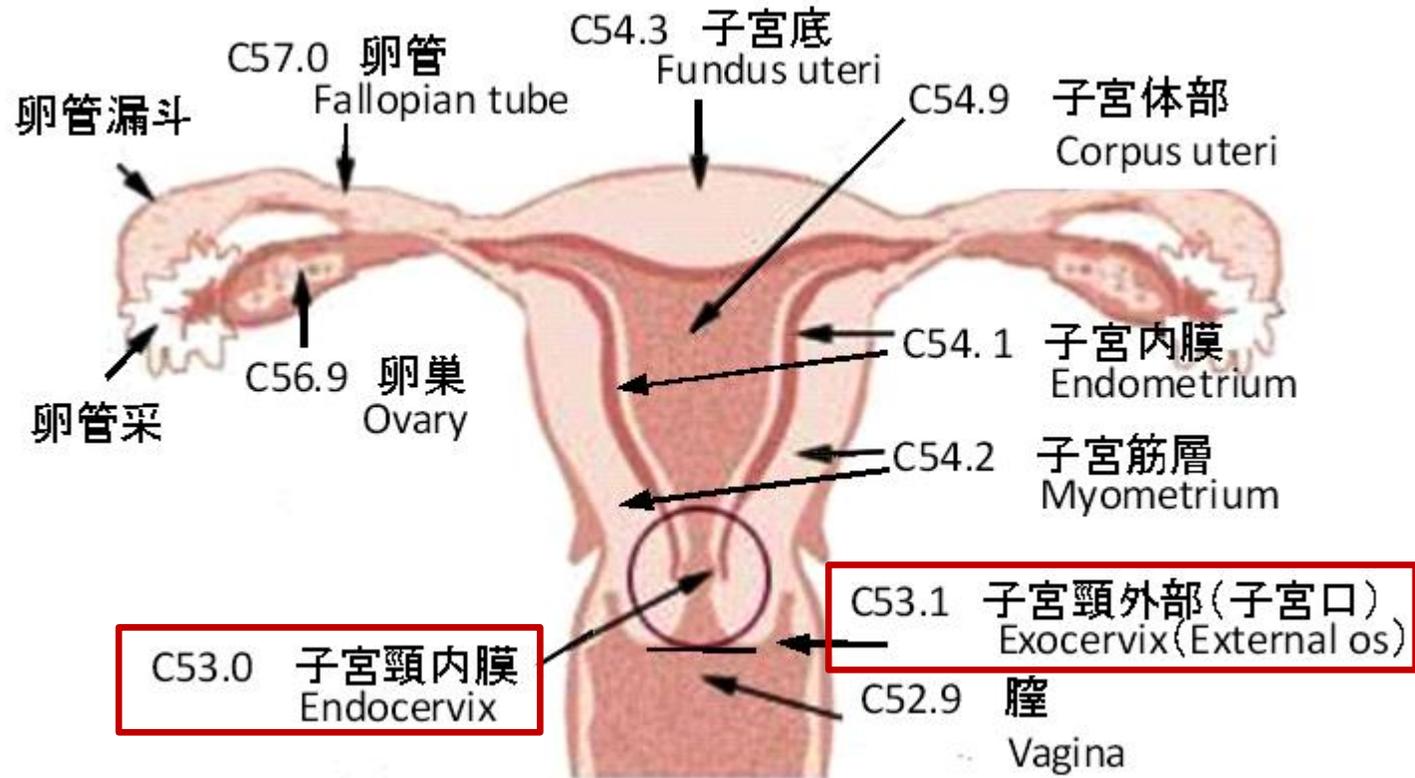
# 子宮頸癌の病期分類

(C53.9)

# 進行期分類と組織型 《子宮頸部》

UICC		進行期		組織型
UICC	FIGO	規約(臨床編)	規約(病理編)	Bluebook (WHO分類)
	<b>FIGO1988</b>	<b>第2版 1995</b>		
<b>第4版 1990</b>				
<b>第5版 1997</b>				
<b>第6版 2002</b>				
	<b>FIGO2008</b>	<b>第3版 2011</b>		
<b>第7版 2009</b>				
<b>第8版 2018</b>		<b>第4版 2017</b>	<b>第4版 2017</b>	<b>第4版 2014</b>
	<b>FIGO2018</b>	<b>第5版 2020</b>	<b>第5版 2022</b>	<b>第5版 2020</b>

# 局在と亜部位 《子宮頸部》



ICD-O局在	診療情報所見	英語
<b>C53.0</b>	子宮内頸部	Endocervix
<b>C53.1</b>	子宮外頸部	Exocervix
<b>C53.8</b>	子宮頸部の境界部病巣	
<b>C53.9</b>	上記部位の記載が全くなく "子宮頸部"の記載のみのもの	

# 登録対象(例外的に追加)

性状コード **/2**(上皮内癌) もしくは **/3**(悪性、原発) が登録対象

## 例外的追加

- 中枢神経系腫瘍(性状コード **/1** または **/0**)

良性(多くの髄膜腫)などでも生命予後に重篤な影響

- 消化管間質腫瘍(性状コード **/1** または **/0**)

病理学的に悪性とはいいいにくい(優しい顔つき)

- 境界悪性の**卵巣腫瘍**の一部(性状コード **/1**)

悪性転化すること多く、腹膜に播種(転移)しやすい

# 登録対象(例外的追加)「**卵巣境界悪性腫瘍**」

## 【ルール】

「疾病、傷害および死因統計分類提要 ICD-10準拠」に従い、  
**ICD-O-3**の形態コードで **8440~8479**の範囲の性状不詳腫瘍で、  
卵巣に原発するものは、性状コードが「/1」であっても、登録対象とする。  
(以下に掲げるものに限る)

**8442/1, 8444/1** → **8313/1,**

境界悪性漿液性のう胞腺腫

境界悪性明細胞のう胞腫瘍

**8451/1, 8462/1** → **8442/1,**

境界悪性乳頭状のう胞腺腫

境界悪性漿液性乳頭状のう胞腫瘍

**8463/1** → **8442/1, 8472/1,**

境界悪性漿液性表在性乳頭腫瘍

境界悪性粘液性嚢胞腺腫

**8473/1** → **8472/1**

境界悪性乳頭状粘液性嚢胞腺腫

8313/1  
8442/1  
8451/1  
8472/1

日本語表記は、全国がん登録マニュアルによる

# 卵巣境界悪性腫瘍

ICD-O-3.1		ICD-O-3.2
<b>8442/1</b> 境界悪性漿液性のう胞腺腫	➔	<b>8442/1</b> (登録ルールに変更なし)
<b>8444/1</b> 境界悪性明細胞のう胞腫瘍	➔	<b>8313/1</b> ^移動
<b>8451/1</b> 境界悪性乳頭状のう胞腺腫	➔	<b>8451/1</b> (登録ルールに変更なし)
<b>8462/1</b> 境界悪性漿液性乳頭状のう胞腺腫	➔	<b>8442/1</b> ^移動
<b>8463/1</b> 境界悪性漿液性表在性乳頭腫瘍	➔	<b>8442/1</b> ^移動
<b>8472/1</b> 境界悪性粘液性のう胞腺腫	➔	<b>8472/1</b> (登録ルールに変更なし)
<b>8473/1</b> 境界悪性乳頭状粘液性のう胞腺腫	➔	<b>8472/1</b> ^移動

※**8444/1**、**8462/1**、**8463/1**、**8473/1**は、コードが削除され、赤字コードへ移動。

# 微小乳頭状パターンを伴う 漿液性境界悪性腫瘍

## Serous borderline tumor-micropapillary variant

### 微小乳頭状パターンを伴う漿液性境界悪性腫瘍

- 卵巣に発生する腫瘍で、**ICD-O-3.2**で新設
- **Borderline tumor** 境界悪性腫瘍 とあるが、悪性度が高く、ICD-O-3.2では、**8460/2**の位置づけ

### ● 登録対象とする

- **T分類** : **T1a** ~ (腫瘍の広がりにより決定)
- **進展度** : 上皮内



卵巣腫瘍・卵管癌・腹膜癌取扱い規約  
病理編第2版(2022年12月)では、  
「微小乳頭状漿液性境界悪性腫瘍」と明示。

規約  
第2版  
(2022)

# 顆粒膜細胞腫瘍、成人型

- 卵巣の性索間質性腫瘍の大半は、顆粒膜細胞腫
- 成人型は、境界悪性だったが、再発例もある

ICD-O 3.1では、成人型顆粒膜細胞腫は **8620/1**であったが、  
2019年症例から  
がん登録では、成人型顆粒膜細胞腫を**8620/3**としていた

成人型顆粒膜細胞腫は、**ICD-O 3.2**で悪性扱い

## ICD-O 3.2

<b>8620/1</b>	成人型顆粒膜細胞腫(精巣)	Adult Granulosa cell tumor of testis (C62._)
<b>8620/3</b>	成人型顆粒膜細胞腫(卵巣)	Adult Granulosa cell tumor of ovary (C56.9)
<b>8622/0</b>	顆粒膜細胞腫、若年型(精巣)	Granulosa cell tumor of testis, juvenile (C62._)
<b>8622/1</b>	若年型顆粒膜細胞腫	Granulosa cell tumor, juvenile (C56.9)

# 漿液性子宮内膜上皮内癌 (SEIC)

- 漿液性子宮内膜上皮内癌 (**SEIC**)  
Serous endometrial intraepithelial carcinoma  
例外的に登録対象
- 漿液性卵管上皮内癌 (**STIC**) も同様

いずれも 悪性度が比較的高く、転移することもある

## ICD-O 3.2

<b>8441/0</b>	漿液性のう胞腺腫、NOS	Serous Cystadenoma, NOS
<b>8441/2</b>	漿液性上皮内癌	Serous Intraepithelial carcinoma
	漿液性卵管上皮内癌	Serous tubal intraepithelial carcinoma ( <b>STIC</b> ) (C57.0)
	漿液性子宮内膜上皮内癌	Serous endometrial intraepithelial carcinoma ( <b>SEIC</b> ) (C54.1)
<b>8441/3</b>	漿液性癌、NOS	Serous carcinoma, NOS

# SEICとSTIC

2019年症例からの変更点

2020年症例からの変更点

- Serous endometrial intraepithelial carcinoma  
(**SEIC**) 漿液性子宮内膜上皮内癌
- Serous tubal intraepithelial carcinoma  
(**STIC**) 漿液性卵管上皮内癌

SEIC/STIC	形態コード	
2018年	<b>8140/2_</b>	ICD-O-3.1では未掲載のため上位概念のコード
2019年	<b>8441/2_</b>	ルールF採用に伴い
2020年～	<b>8441/2_</b>	ICD-O-3.2で新設されたコード (2020年以降はルールFではなくなった)
2025年～	<b>8441/2_</b>	ICD-O-3.2 全面採用

診断名	T分類	進展度
漿液性子宮内膜上皮内癌( <b>SEIC</b> )	<b>T1a</b>	上皮内
漿液性卵管上皮内癌( <b>STIC</b> )	<b>T1a / T1b</b>	上皮内

# 形態コード(組織型) 《子宮頸部》

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード
上皮性病変	Epithelial tumors	
扁平上皮病変/前駆病変	Squamous cell lesions & precursors	
子宮頸部上皮内病変	Cervical intraepithelial neopl. (CIN3)	<b>8077/2</b>
上皮内癌	Caecinoma in situ	<b>8070/2</b>
扁平上皮癌	Squamous cell carcinoma	<b>8077/3</b>
～、特定不能	Squamous cell carcinoma. NOS	<b>8077/3</b>
腺腫瘍/前駆病変	Glandular tumors & precursors	
上皮内腺癌	Adenoca. in situ (AIS)	<b>8140/2</b>
上皮内腺癌、特定不能	Adenoca., NOS	<b>8140/2</b>
上皮内腺癌、HPV関連	Adenoca. in situ, HPV-associated	<b>8140/2</b> <b>483/2</b>
上皮内腺癌、HPV非依存性	Adenoca. in situ, HPV-independent	<b>484/2</b>
腺癌	Adenocarcinoma	
腺癌、特定不能	Adenoca., NOS	<b>8140/3</b>
腺癌、HPV関連	Adenoca., HPV-associated	<b>8140/3</b> <b>483/3</b>
腺癌、HPV非依存性 NOS	Adenoca., HPV-independent	<b>484/3</b>
～、HPV非依存性、胃型	Adenoca., HPV-ind., gastric type	<b>8482/3</b>
～、HPV非依存性、明細胞型	Adenoca., HPV-ind., clear cell type	<b>8310/3</b>
～、HPV非依存性、中腎型	Adenoca., HPV-ind., mesonephric type	<b>9110/3</b>
類内膜癌	Endometrioid ca.	<b>8380/3</b>

8140/2  
を用いる

8140/3  
を用いる

# 形態コード(組織型)

# 《子宮頸部》

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード
上皮性腫瘍(つづき)		
その他		
癌肉腫	Carcinosarcoma	<b>8980/3</b>
腺扁平上皮癌	Adenosquamous ca.	<b>8560/3</b>
粘表皮癌	Mucoepidermoid ca.	<b>8430/3</b>
腺様基底細胞癌	Adenoid basal ca.	<b>8098/3</b>
未分化癌	Undifferentiated ca.	<b>8020/3</b>
神経内分泌腫瘍	Neuroendocrine neoplasia	
神経内分泌腫瘍 G1	Neuroendocrine tumor, grade 1	<b>8240/3</b>
神経内分泌腫瘍 G2	Neuroendocrine tumor, grade 2	<b>8249/3</b>
神経内分泌癌	Neuroendocrine carcinoma	
小細胞神経内分泌癌	Small cell neuroendocrine carcinoma	<b>8041/3</b>
大細胞神経内分泌癌	Large cell neuroendocrine carcinoma	<b>8041/3</b>
神経内分泌癌が混在する癌	Carcinoma admixed with neuroendocrine ca.	
混合型小細胞神経内分泌癌	Combined small cell neuroendocrine ca.	<b>8045/3</b>
混合型大細胞神経内分泌癌	Combined large cell neuroendocrine ca.	<b>8013/3</b>

現状の院内がん登録では、HPV 陽性/陰性のコードは用いない

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード
上皮性・間葉性混合腫瘍 腺肉腫	Mixed epithelial & mesenchymal tumors Adenosarcoma	<b>8933/3</b>
胚細胞腫瘍 胚細胞腫瘍 NOS	Germ cell tumor Germ cell tumor, NOS	<b>9064/3</b>
卵黄囊腫瘍(内胚葉洞腫瘍)	Yolk sac tumor (Endodermal sinus tumor)	<b>9071/3</b>
絨毛癌	Choriocarcinoma	<b>9100/3</b>
間葉性腫瘍 平滑筋肉腫	Mesenchymal tumors Leiomyosarcoma	<b>8890/3</b>
横紋筋肉腫	Rhabdomyosarcoma	<b>8900/3</b>
～、胎児型	Embryonal rhabdomyosarcoma, NOS	<b>8910/3</b>
～、胞巣型	Alveolar rhabdomyosarcoma	<b>8920/3</b>
胞巣状軟部肉腫	Alveolar soft part tumor	<b>9581/3</b>
血管肉腫	Angiosarcoma	<b>9120/3</b>
脂肪肉腫	Liposarcoma	<b>8850/3</b>
ユーイング肉腫	Ewing sarcoma	<b>9364/3</b>
メラノサイト腫瘍 悪性黒色腫	Melanocytic tumors Malignant Melanoma, NOS	<b>8720/3</b>

# 形態コード(組織型)

その1

# 《子宮頸部》



病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード
扁平上皮性腫瘍	Squamous epithelial tumours	
扁平上皮性前癌状態類似病変	Mimics of squamous precursor lesions	
扁平上皮化生	Squamous metaplasia	—
子宮頸部萎縮	Atrophy of the uterine cervix	—
扁平上皮性前癌状態/腫瘍	Squamous cell tumours and precursors	
尖圭コンジローマ	Condyloma acuminatum	—
扁平上皮内病変	Squamous intraepithelial lesions ( <b>SIL</b> )	
低異型度扁平上皮内病変	Low-grade <b>SIL</b>	<b>8077/0</b>
	<b>LSIL</b> (condyloma / <b>CIN 1</b> )	<b>8077/0</b>
高異型度扁平上皮内病変	High-grade <b>SIL</b>	<b>8077/2</b>
	HSIL ( <b>CIN 2</b> )	<b>8077/2</b>
	HSIL ( <b>CIN 3</b> )	<b>8077/2</b>
扁平上皮癌、HPV関連	Squamous cell carcinoma, HPV-associated	<b>8085/3</b>
扁平上皮癌、HPV非依存性	Squamous cell carcinoma, HPV-independent	<b>8086/3</b>
扁平上皮癌、NOS	Squamous cell carcinoma, NOS	<b>8070/3</b>

現状の院内がん登録では、HPV 陽性/陰性のコードは用いない

# 形態コード(組織型) 《子宮頸部》

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード
腺腫瘍・前癌状態	Glandular tumours and precursors	
良性腺腫瘍	Benign glandular lesions	
子宮頸管ポリープ	Endocervical polyp	—
ミューラー管乳頭腫	Mullerian papilloma of the uterine cervix	—
ナボット嚢胞(貯留嚢胞)	Nabothian cyst	—
トンネルクラスター	Tunnel clusters	—
微小腺管過形成	Microglandular hyperplasia	—
分葉状頸管腺過形成(LEGH)	Lobular endocervical glandular hyperplasia	—
びまん性層状頸管過形成	Diffuse laminar endocervical hyperplasia	—
中腎遺残・過形成	Mesonephric remnants and hyperplasia	—
アリアス・ステラ反応	Arias-Stella reaction of the uterine cervix	—
頸管内膜炎	Endocervicitis of the uterine cervix	—
卵管類内膜化生	Tuboendometrioid metaplasia	—
異所性前立腺組織	Ectopic prostate tissue	—
悪性腺腫瘍(腺癌系腫瘍)	Adenocarcinomas	
上皮内腺癌、HPV陽性	Adenoca. in situ, HPV-associated	
上皮内腺癌、NOS	Adenoca. in situ, NOS	<b>8140/2</b>
上皮内腺癌、HPV関連	Adenoca. in situ, HPV-associated	<b>8483/2</b>
腺癌、HPV関連	Adenoca., HPV-associated	
腺癌、NOS	Adenoca., NOS	<b>8140/3</b>
腺癌、HPV関連	Adenoca., HPV-associated	<b>8483/3</b>

# 形態コード(組織型) 《子宮頸部》

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード
腺腫瘍・前癌状態(つづき)	Glandular tumours and precursors	
悪性腺腫瘍(つづき)	Adenocarcinomas	
上皮内腺癌、HPV非依存性	Adenoca. in situ, HPV independent	<b>8140/2</b>
上皮内腺癌、NOS	Adenoca. in situ NOS	<b>8484/2</b>
上皮内腺癌、HPV非依存性	Adenoca. in situ, HPV independent	
胃型上皮内腺癌	Gastric-type adenoca. in situ	
異型LEGH	Atypical LEGH	
胃型腺癌、HPV非依存性	Adenoca., HPV-independ., gastric type	<b>8482/3</b>
明細胞型腺癌、HPV非依存性	Adenoca., HPV-independ., clear cell type	<b>8310/3</b>
中腎型腺癌、HPV非依存性	Adenoca., HPV-independ., mesonephric type	<b>9110/3</b>
その他の腺癌	Other adenocarcinomas	
腺癌、NOS	Adenoca. NOS	<b>8140/3</b>
腺癌、HPV非依存性、NOS	Adenoca., HPV-independ.. NOS	<b>8484/3</b>
類内膜腺癌、NOS	Endometrioid adenoca. NOS	<b>8380/3</b>
その他の上皮性腫瘍	Other epithelial tumours	
癌肉腫、NOS	Carcinosarcoma NOS	<b>8980/3</b>
腺扁平上皮癌、粘表皮癌	Adenosquamous & mucoepidermoid ca.	
腺扁平上皮癌	Adenosquamous carcinoma	<b>8560/3</b>
粘表皮癌	Mucoepidermoid carcinoma	<b>8430/3</b>
腺様基底細胞癌	Adenoid basal carcinoma	<b>8098/3</b>
分類不能癌	Carcinoma, unclassifiable	<b>8020/3</b>

# 形態コード(組織型)

その4

# 《子宮頸部》



病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード
上皮・間質混合性腫瘍	Mixed epithelial and mesenchymal tumours	
腺筋腫	Adenomyoma	8932/0
腺肉腫	Adenosarcoma	8933/3
胚細胞腫瘍	Germ cell tumours	
胚細胞腫瘍、NOS	Germ cell tumours NOS	9064/3
成熟奇形種、NOS	Mature teratoma NOS	9080/0
デルモイド嚢胞、NOS	Dermoid cyst NOS	9084/0
内膜洞腫瘍、NOS	Endodermal sinus tumour	9071/3
卵黄嚢腫瘍、NOS	Yolk sac tumour NOS	9071/3
絨毛癌、NOS	Choriocarcinoma NOS	9100/3

# HPV陽性・陰性のコード

ICD-O-3.2版 新規コード

**8085/3 HPV陽性**扁平上皮癌

Squamous cell carcinoma, **HPV** positive

**8086/3 HPV陰性**扁平上皮癌

Squamous cell carcinoma, **HPV** negative

**2022年症例～ 院内がん登録では使用しない。**

※過去に登録した症例の修正は不要。

# 子宮頸部扁平上皮病変の分類

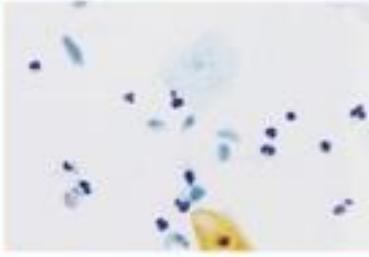
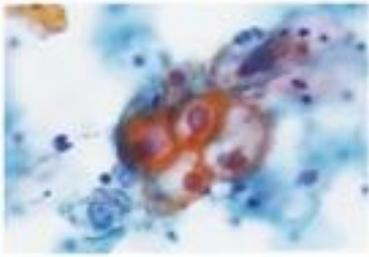
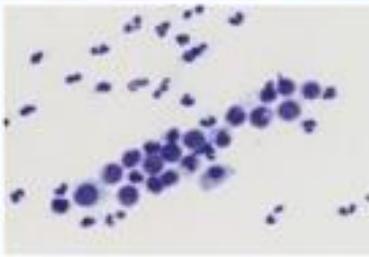
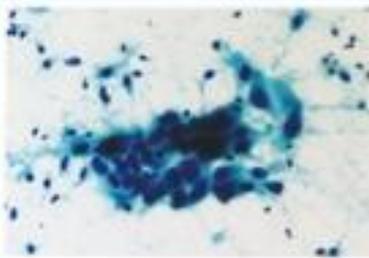
日母分類 (1997)		クラスⅢa		クラスⅢb	クラスⅣ	クラスⅤ
子宮頸癌 取扱い規約 第1版		軽度 異形成	中度 異形成	高度 異形成	上皮内癌	微小or浸潤 扁平上皮癌
<b>WHO</b> 分類 (1973)		mild dysplasia	moderate dysplasia	severe dysplasia	<b>CIS</b>	squamous cell carcinoma
Richart分類 (1967)		<b>CIN1</b>	<b>CIN2</b>	<b>CIN3</b>		
コンジローマ / CIN分類	コンジ ローマ	<b>CIN1</b>	<b>CIN2</b>	<b>CIN3</b>		
子宮頸癌 取扱い規約 第2版、第3版		<b>CIN1</b>	<b>CIN2</b>	<b>CIN3</b>		
ベセスダシステム 2001 (Bethesda)	ASC-US (LSIL疑い) ASC-H (HSIL疑い)	low grade SIL (LSIL)		high grade SIL (HSIL) <b>細胞診</b>		squamous cell carcinoma
<b>WHO</b> 分類 (2014)		<b>LSIL</b>	high grade SIL (HSIL) <b>組織診</b>			

**CIN2、HSIL**のみの診断は、従来の中度異形成なども含まれるので、**登録対象外**

# 細胞診の所見(ベセスダ分類)

## ● 扁平上皮系

- NILM
- ASC-US
- LSIL
- ASC-H
- HSIL
- SCC

分類	細胞診所見	推定病理診断	取り扱い
陰性 (NILM)	 <ul style="list-style-type: none"> <li>核の肥大化や変形なし</li> </ul> <p>写真提供: 大塚 重則</p>	非腫瘍性所見、炎症	<ul style="list-style-type: none"> <li>異常なし (検診結果なら定期健診)</li> </ul>
軽度扁平上皮内病変 (LSIL)	 <ul style="list-style-type: none"> <li>コイロサイトーシス</li> <li>核の腫大、大小不同</li> </ul> <p>写真提供: 大塚 重則</p>	HPV感染、CIN1	<ul style="list-style-type: none"> <li>要精密検査</li> <li>↓</li> <li>直ちにコルポスコピーと生検を行う</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>コイロサイトーシスとは、核周囲が明るく抜けて見える扁平上皮細胞(コイロサイト)が出現する状態をいいます。HPVの感染による細胞変性であり、HPV感染が強く示唆される所見と考えられています。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>正常</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>コイロサイト</p>  <p>核周囲の空胞 (halo)</p> </div> </div> </div>
高度扁平上皮内病変 (HSIL)	 <ul style="list-style-type: none"> <li>N/C比の高い細胞</li> <li>顆粒状の核クロマチン</li> <li>細胞の辺縁不明瞭</li> </ul> <p>写真提供: 大塚 重則</p>	CIN2~3	
扁平上皮癌 (SCC)	 <ul style="list-style-type: none"> <li>大小不同な細胞、核</li> </ul> <p>写真提供: 小松 京子</p>	扁平上皮癌	<p style="text-align: right;">病理医 </p>

扁平上皮系

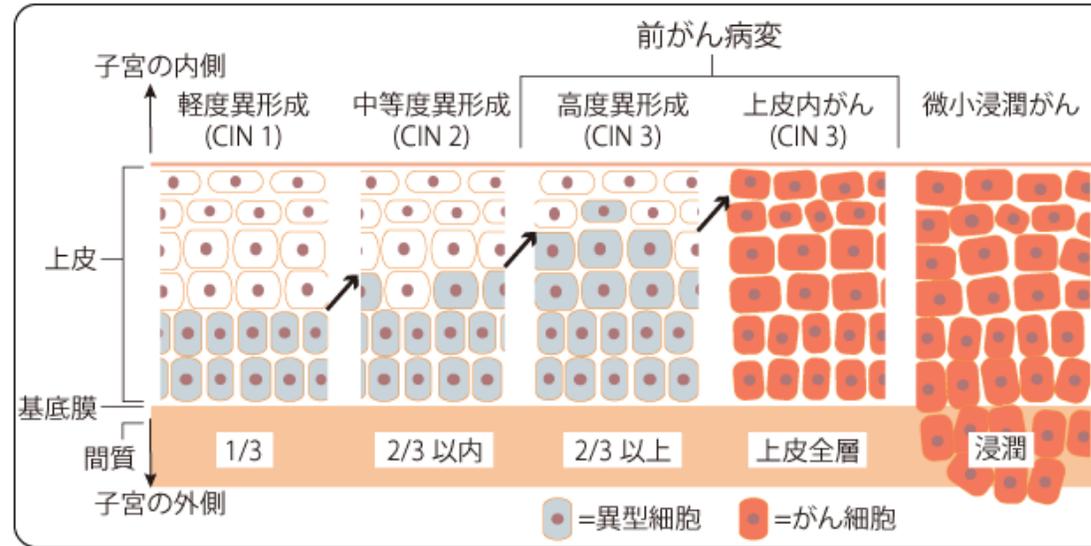
病理医

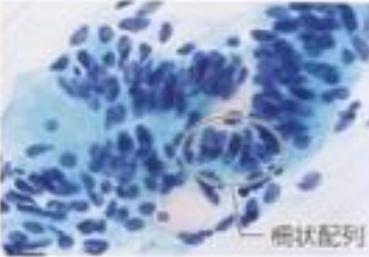
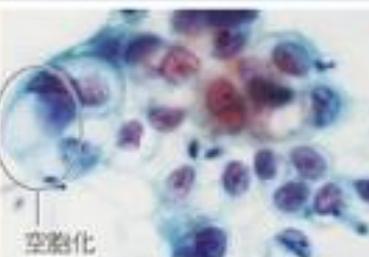
# ベセスダ(Bethesda)システム2001

扁平上皮細胞系	陰性	NILM	定期検診
	意義不明な 扁平上皮異型細胞	ASC-US	HPV検査併用で判断 /再検査/コルポ・生検
	HSILを除外できない 扁平上皮異型細胞	ASC-H	精密検査
	軽度扁平上皮内病変	LSIL	精密検査
	高度扁平上皮内病変	HSIL	精密検査
	扁平上皮癌	SCC	精密検査
腺細胞系	異型腺細胞	AGC	精密検査
	上皮内腺癌	AIS	精密検査
	腺癌	Adenoca.	精密検査
	その他の悪性腫瘍	Other Malig.	精密検査

# 細胞診の所見

- 腺(癌)系
- AGC
- AIS
- Adenoca.



腺系	上皮内腺癌 (AIS)	 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 肥大または細長くなった核</li> <li>● 腫瘍細胞が櫛状配列やロゼット様配列を示す。</li> </ul> <p>橋状配列</p> <p>写真提供: 古田 剛行</p>	上皮内腺癌	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 要精密検査</li> <li>↓</li> <li>● コルポスコピー, 生検, 頸管・内膜の細胞診 or 組織診を行う</li> </ul>
	腺癌 (adenocarcinoma)	 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 腫瘍細胞が集塊を示す。</li> <li>● 肥大した核</li> <li>● 空胞化した細胞質</li> </ul> <p>空胞化</p> <p>写真提供: 小松 京子</p>	腺癌	
	その他の悪性腫瘍		その他の悪性腫瘍	● 要精密検査 (病変検索)

# 高度扁平上皮内病変について

- 高度扁平上皮内病変  
(High-grade squamous intraepithelial lesion [**HGSIL**または**HSIL**])



この情報しか得られない場合 ⇒ 「登録対象外」

\* **HSIL**が示す範囲が、「登録対象」と「登録対象外」の両者を含んでいるため。

ただし、squamous intraepithelial lesion grade III のように  
「**grade III**」の情報が併記されている場合は「登録対象」

# 8077/2 の登録範囲

新たに追加された下記は、引き続き、登録対象外

- Squamous intraepithelial neoplasia, **grade II** (扁平上皮内腫瘍, **グレード2**)  
※子宮頸部では**CIN2**に該当
- High grade squamous intraepithelial lesion  
(**HSIL**; 高異型度扁平上皮内病変)  
※ **HSIL**のみの診断では登録対象とせず、**CIN3**、高異型度病変(**Grade 3**)等が併記された場合に登録対象とする。  
(**2019**年症例のルールと同様)

# 8077/2 の登録範囲

## ICD-O-3.1版

低異型度扁平上皮内腫瘍	扁平上皮内腫瘍 Grade1	<b>8077/0</b>
	扁平上皮内腫瘍 Grade2	
高異型度扁平上皮内腫瘍	扁平上皮内腫瘍 Grade3	<b>8077/2</b>



## ICD-O-3.2版

低異型度扁平上皮内腫瘍	扁平上皮内腫瘍 Grade1	<b>8077/0</b>
高異型度扁平上皮内腫瘍 (高異型度扁平上皮内病変;HISL)	扁平上皮内腫瘍 Grade2	<b>8077/2</b>
	扁平上皮内腫瘍 Grade3	

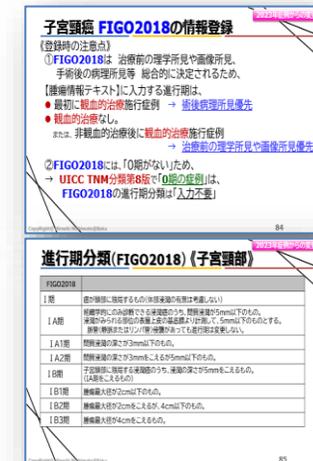
※扁平上皮内腫瘍 Grade3だけが「登録対象」

※高異型度扁平上皮内腫瘍のみの記載は「登録対象外」だが、

ただし、高異型度扁平上皮内腫瘍と扁平上皮内腫瘍Grade3が併記されている場合は、「登録対象」とする。

# FIGO 2018 進行期分類

- 臨床進行期分類 → 進行期分類
  - 理学所見に加え、画像所見、生検や手術摘出標本の病理学的所見を加味して、総合的に判断
- 治療前診断
  - 画像所見を治療前診断に加える
- 術後診断
  - 手術後の病理学的所見を 術後診断に加えて
- 総合的に進行期を判断



UICC TNM分類第8版と かなり異なるので注意を要する

# T分類(UICC第8版) 《子宮頸部》

**Tis** 1) 上皮内癌(浸潤前癌)

**T1** 頸部に限局する腫瘍

(体部への進展は考慮しない)

**T1a** 2) 顕微鏡によってのみ診断可能な浸潤癌。

上皮基部から測定した深達度 $\leq 5.0\text{mm}$ 、  
水平方向\*進展 $\leq 7.0\text{mm}$ の間質性浸潤 3)

**T1a1** 深達度 $\leq 3.0\text{mm}$ 、  
水平方向進展 $\leq 7.0\text{mm}$

**T1a2**  $3.0\text{mm} < \text{深達度} \leq 5.0\text{mm}$ 、  
水平方向進展 $\leq 7.0\text{mm}$

**T1b** 子宮頸部に限局する臨床的**肉眼的**病変

または **T1a2**より大きい**顕微鏡的**病変

**T1b1** 最大径 $\leq 4.0\text{cm}$

**T1b2**  $4.0\text{cm} < \text{最大径}$

1) FIGOでは、0期(Tis)は含まない。

2) 表在性浸潤のある全ての顕微鏡的病変は、  
肉眼的病変はすべて**T1b/IB**期に分類

\* 取扱い規約では、「子宮縦軸方向」と記載されていた。

3) 脈管性間隙の関与は、  
静脈でもリンパでも分類には影響しない。

# T分類(UICC第8版) 《子宮頸部》

**T2** 子宮頸部をこえるが、  
骨盤壁、または腔壁の下1/3に達しない腫瘍

**T2a** (腔壁浸潤はあるが) 子宮傍組織浸潤なし

**T2a1** 最大径 $\leq$ 4.0cm

**T2a2** 4.0cm $<$ 最大径

**T2b** 子宮傍組織浸潤あり

**T3** 腔の下1/3に浸潤、または骨盤壁に進展、  
または水腎症もしくは無機能腎をきたす腫瘍

**T3a** 腔の下1/3に浸潤する腫瘍(骨盤壁に浸潤せず)

**T3b** 骨盤壁に進展、または水腎症/無機能腎をきたす腫瘍

**T4** 膀胱粘膜もしくは直腸粘膜に浸潤する腫瘍、  
または小骨盤をこえて進展する腫瘍

※ 膀胱/直腸の粘膜に達していない浸潤は、**T3a**とする。

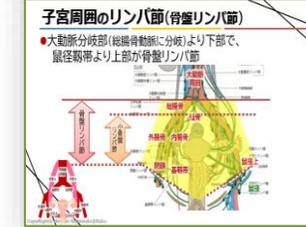
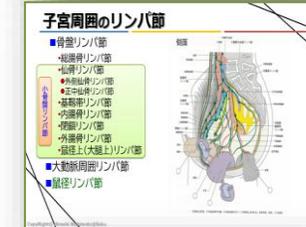
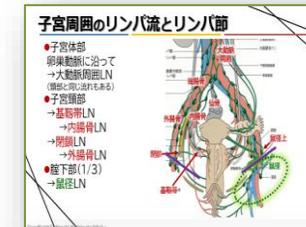
# N分類(UICC 第8版) 《子宮頸部》

**N0** 領域リンパ節転移なし

**N1** 領域リンパ節転移あり

傍大動脈リンパ節の扱いは  
2018のFIGO改定に合わせ  
変更されている

領域リンパ節(UICC 第8版)		領域リンパ節(取扱い規約第4版)
傍大動脈リンパ節	<b>2018年~ 追加</b>	① 傍大動脈リンパ節
頸部傍リンパ節		⑧ 基靭帯リンパ節
基靭帯リンパ節		
下腹リンパ節	内腸骨リンパ節	⑤ 内腸骨リンパ節
	閉鎖リンパ節	⑥ 閉鎖リンパ節
総腸骨リンパ節		② 総腸骨リンパ節
外腸骨リンパ節		③ 外腸骨リンパ節
		④ 鼠径上(大腿上)リンパ節
前仙骨リンパ節		
外仙骨リンパ節		⑦ 仙骨リンパ節



⑨鼠径リンパ節は 領域リンパ節には含まない

# 領域リンパ節

## 《子宮頸部》

### ① 傍大動脈リンパ節

①-1 高位 ~

①-2 低位 ~

### ② 総腸骨リンパ節

### ③ 外腸骨リンパ節

### ④ 鼠径上(大腿上)リンパ節

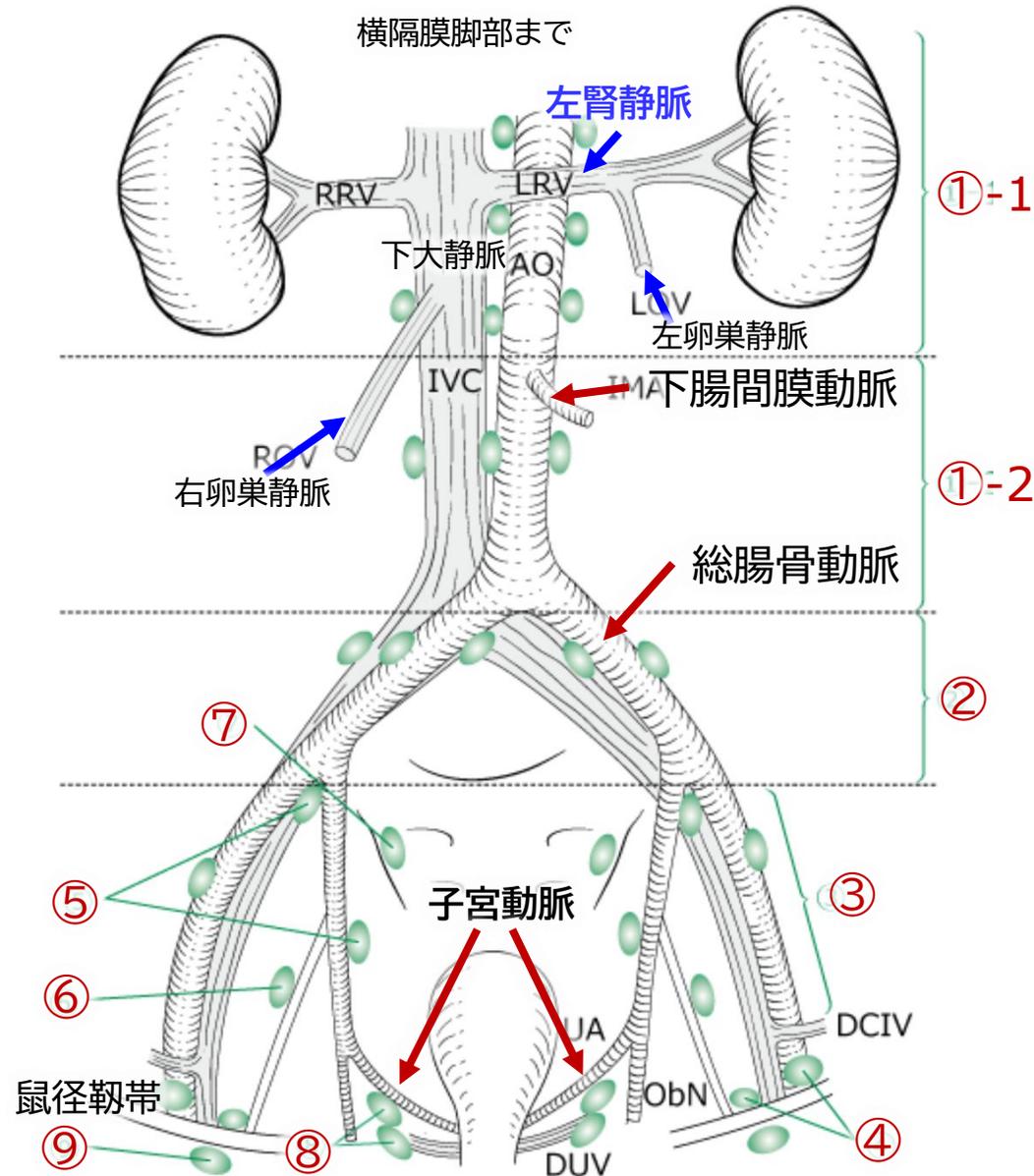
### ⑤ 内腸骨リンパ節

### ⑥ 閉鎖リンパ節

### ⑦ 仙骨リンパ節

### ⑧ 基靭帯リンパ節

⑨ 鼠径リンパ節は  
領域リンパ節に含まない



# M分類(UICC 第8版) 《子宮頸癌》

**M0** 遠隔転移なし

**M1** 遠隔転移あり

- ◆ 鼠径リンパ節への転移を含む
- ◆ 腹腔内病変を含む
- ◆ 腔、骨盤漿膜、子宮付属器への転移は除外する
- 縦隔リンパ節、肺、骨への転移が多い
- ~~大動脈傍リンパ節も遠隔転移に含まれる~~

UICC2021(第9版の原版)では、転移に含めることになった

UICC 第8版でもFIGO2018に準拠して、大動脈傍リンパ節は領域リンパ節になった

# ステージ(UICC 第8版) 《子宮頸癌》

UICC TNM8 (子宮頸部)			N0	N1
Tis			0	
T1	T1a	→	IA	ⅢB
		T1a1	IA1	ⅢB
		T1a2	IA2	ⅢB
	T1b	→	IB	ⅢB
		T1b1	IB1	ⅢB
		T1b2	IB2	ⅢB
T2	T2a	→	IIA	ⅢB
		T2a1	IIA1	ⅢB
		T2a2	IIA2	ⅢB
	T2b	IIB	ⅢB	
T3	T3a		ⅢA	ⅢB
	T3b		ⅢB	ⅢB
T4			IVA	IVA
M1			IVB	IVB

# 進展度(UICC 第8版) 《子宮頸癌》

UICC TNM8 (子宮頸部)		N0	N1
<b>Tis</b>		上皮内	
<b>T1</b>	<b>T1a</b>	限局	領域リンパ節転移
	<b>T1b</b>		
<b>T2</b>	<b>T2a</b>	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤
	<b>T2b</b>		
<b>T3</b>	<b>T3a</b>	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤
	<b>T3b</b>		
<b>T4</b>		隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤
<b>M1</b>		遠隔転移	遠隔転移

# 子宮頸癌取扱い規約(第5版)

- 進行期分類<日産婦2020>(FIGO2018準拠)
  - 原則として、治療開始前に決定  
非癌/上皮内癌/ I A期と判断して子宮摘出した場合で  
結果が I A期/ I B期と診断された場合は、その診断に従う。
  - 臨床検査(理学所見、コルポスコピー、組織生検、子宮鏡、  
肺・骨のX線検査、円錐切除術)で決定
  - 手術摘出標本の所見も参考にする
  - リンパ節転移の診断には、画像診断は用いない  
(UICC TNM分類の決定には用いて良い)

臨床進行期分類での病期は、

**UICC TNM分類のT分類に相当する**

# 進行期分類(取扱い規約第5版)《子宮頸部》

**I 期** 癌が**子宮頸部に限局**する腫瘍(体部への進展は考慮しない)

**I A期** 病理学的にのみ診断可能な浸潤癌で  
間質浸潤(上皮基部から測定した深達度)が**5mm以下** 1)

**I A1期** 間質浸潤の深達度  $\leq 3.0\text{mm}$

1) 脈管侵襲は、  
静脈でもリンパでも分類には影響しない。

**I A2期**  $3.0\text{mm} < \text{間質浸潤の深達度} \leq 5.0\text{mm}$

**I B期** **頸部に限局**する浸潤癌で浸潤の深さが**5mm超** 2)

**I B1期** 最大径  $\leq 2.0\text{cm}$

2) 病理学的に浸潤癌であることが条件

**I B2期**  $2.0\text{cm} < \text{最大径} \leq 4.0\text{cm}$

**I B3期**  $4.0\text{cm} < \text{最大径}$

**II 期** 頸部をこえるが、**腔壁下1/3** または**骨盤壁に達しない**

**II A期** 腔壁浸潤が腔壁上2/3に限局し、子宮傍組織浸潤なし

**II A1期** 腫瘍最大径  $\leq 4.0\text{cm}$

**II A2期**  $4.0\text{cm} < \text{最大径}$

**II B期** 子宮傍組織浸潤が認められるが、骨盤壁に達しない

# 進行期分類(取扱い規約第5版)《子宮頸部》

**Ⅲ期** 癌が腔壁下 1/3、あるいは骨盤壁にまで達する  
あるいは水腎症/無機能腎 または骨盤/傍大動脈LN転移

**ⅢA期** 浸潤が腔壁下1/3に達するが、骨盤壁に達していない

**ⅢB期** 子宮傍組織浸潤が骨盤壁に達する

3) 内診・直腸診の所見を合わせ  
総合的に決定

あるいは明らかな水腎症や無機能腎が認められる<sup>3)</sup>

**ⅢC期** 骨盤リンパ節 あるいは 傍大動脈リンパ節転移を認める

**ⅢC1期** 骨盤リンパ節転移のみを認める<sup>4)</sup>

**ⅢC2期** 傍大動脈リンパ節転移が認められる<sup>4)</sup>

**Ⅳ期** 癌が膀胱粘膜 または直腸粘膜に浸潤

または 小骨盤腔を超える浸潤

4) 画像診断だけで診断されたときは末尾にr、  
病理学的に確認されたときには、pをつける

**ⅣA期** 膀胱粘膜 または直腸粘膜に浸潤

**ⅣB期** 小骨盤腔をこえて広がる

# 進行期分類(取扱い規約第5版)《子宮頸部》

規約  
第5版  
(2022)

- 子宮頸部と体部に同時に癌が認められ、  
原発部位が決定できない場合は、扁平上皮癌は頸癌、腺癌は体癌に分類。
- 内診・画像・病理所見が一致しない場合は、  
病理所見を優先する(腫瘍径は画像診断を優先)。
- 画像検査で腫瘍が同定できない場合は、  
内診/コルポ所見、摘出標本の肉眼・病理所見で総合的に評価。
- 病期の決定に迷う場合は、低い方の進行期に分類。
- 進行期の決定に、体部浸潤、骨盤腹膜転移/付属器への転移は無関係。
- リンパ節転移の診断は、微小転移以上を転移とする。

# 領域リンパ節

## 《子宮頸部》

### ① 傍大動脈リンパ節

①-1 高位 ~

①-2 低位 ~

### ② 総腸骨リンパ節

### ③ 外腸骨リンパ節

### ④ 鼠径上(大腿上)リンパ節

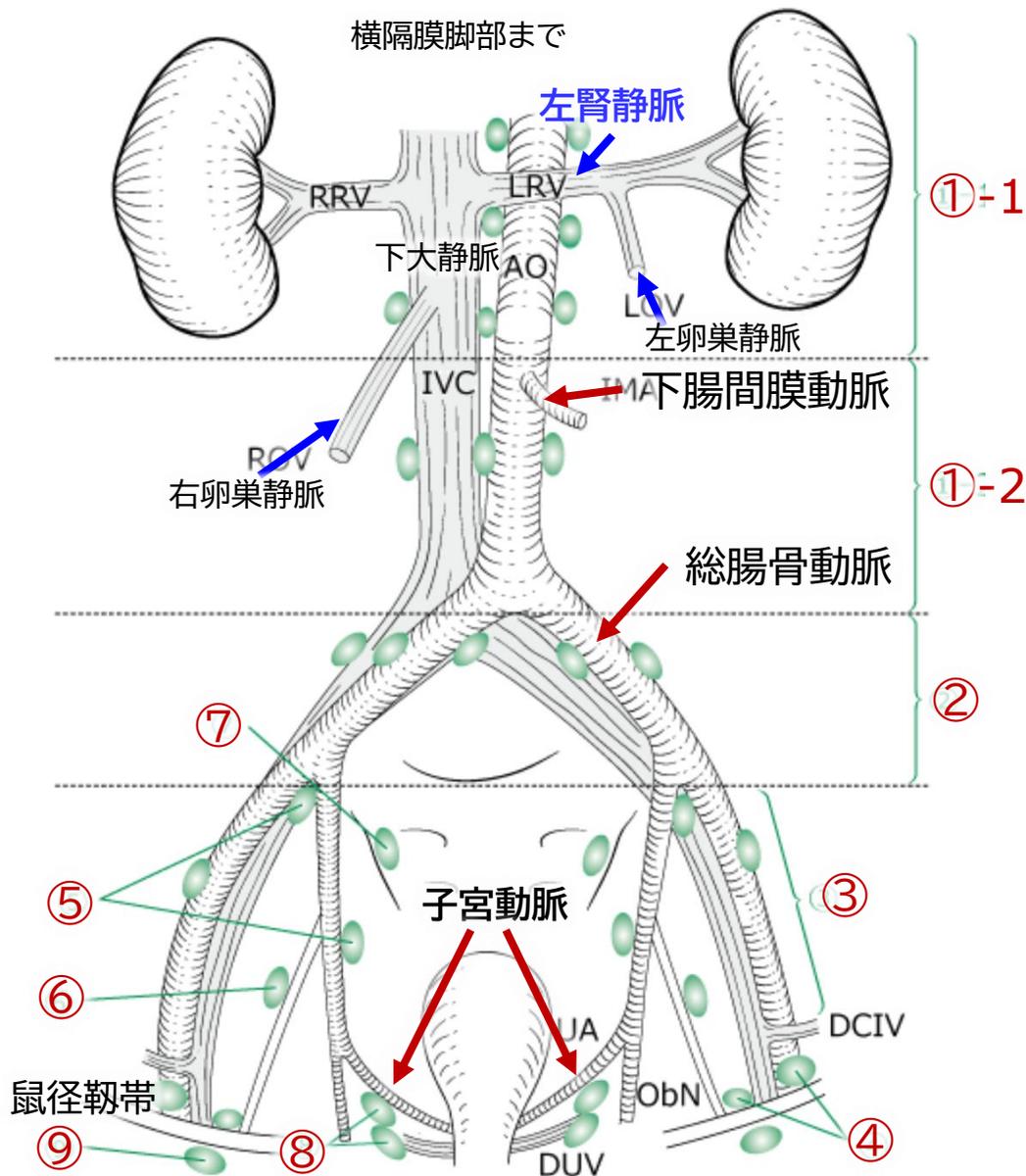
### ⑤ 内腸骨リンパ節

### ⑥ 閉鎖リンパ節

### ⑦ 仙骨リンパ節

### ⑧ 基靭帯リンパ節

⑨ 鼠径リンパ節は  
領域リンパ節に含まない



# 子宮頸癌 FIGO2018の情報登録

## 《登録時の注意点》

① **FIGO2018**は 治療前の理学所見や画像所見、  
手術後の病理所見等 総合的に決定されるため、

【腫瘍情報テキスト】に入力する進行期は、

- 最初に**観血的治療**施行症例 → 術後病理所見優先
- **観血的治療**なし。

または、非観血的治療後に**観血的治療**施行症例

→ 治療前の理学所見や画像所見優先

② **FIGO2018**には、「0期がない」ため、

→ **UICC TNM分類第8版**で「0期の症例」は、  
**FIGO2018**の進行期分類は「入力不要」

# 進行期分類(FIGO2018)《子宮頸部》

FIGO2018	
I 期	癌が頸部に限局するもの(体部浸潤の有無は考慮しない)
I A期	組織学的にのみ診断できる浸潤癌のうち、間質浸潤が5mm以下のもの。 浸潤がみられる部位の表層上皮の基底膜より計測して、5mm以下のものとする。 脈管(静脈またはリンパ管)侵襲があっても進行期は変更しない。
I A1期	間質浸潤の深さが3mm以下のもの。
I A2期	間質浸潤の深さが3mmをこえるが5mm以下のもの。
I B期	子宮頸部に限局する浸潤癌のうち、浸潤の深さが5mmをこえるもの。 (IA期をこえるもの)
I B1期	腫瘍最大径が2cm以下のもの。
I B2期	腫瘍最大径が2cmをこえるが、4cm以下のもの。
I B3期	腫瘍最大径が4cmをこえるもの。

# 進行期分類(FIGO2018)《子宮頸部》

FIGO2018	
Ⅱ期	癌が子宮頸部をこえて広がっているが、腔壁下1/3または骨盤壁には達していないもの。
ⅡA期	腔壁浸潤が腔壁上2/3に局限していて、子宮傍組織浸潤は認められないもの。
ⅡA1期	腫瘍最大径が4cm以下のもの。
ⅡA2期	腫瘍最大径が4cmをこえるもの。
ⅡB期	子宮傍組織浸潤が認められるが、骨盤壁までは達しないもの。
Ⅲ期	癌浸潤が腔壁下1/3まで達するもの、 ならびに/あるいは 骨盤壁にまで達するもの、 ならびに/あるいは 水腎症や無機能腎の原因となっているもの、 ならびに/あるいは 骨盤リンパ節ならびに/あるいは傍大動脈リンパ節に転移が認められるもの。
ⅢA期	癌は腔壁下1/3に達するが、骨盤壁にまでは達していないもの。
ⅢB期	子宮傍組織浸潤が骨盤壁にまで達しているもの、 ならびに/あるいは明らかな水腎症や無機能腎を認めるもの（癌浸潤以外の原因による場合を除く）。

# 進行期分類(FIGO2018)《子宮頸部》

FIGO2018	
ⅢC期	骨盤リンパ節ならびに/あるいは傍大動脈リンパ節に 転移が認められるもの。 ( <b>r</b> や <b>p</b> の注釈をつける)
ⅢC1期	骨盤リンパ節にのみ転移が認められるもの。
ⅢC2期	傍大動脈リンパ節に転移が認められるもの。
Ⅳ期	癌が膀胱粘膜または直腸粘膜に浸潤するか、小骨盤腔をこえて広がるもの。
ⅣA期	膀胱粘膜または直腸粘膜への浸潤があるもの。
ⅣB期	小骨盤腔をこえて広がるもの。



# 子宮内膜癌(体癌)の病期分類

(C54.0、C54.1、C54.3、C54.9)

# 進行期分類と組織型 《子宮体癌》

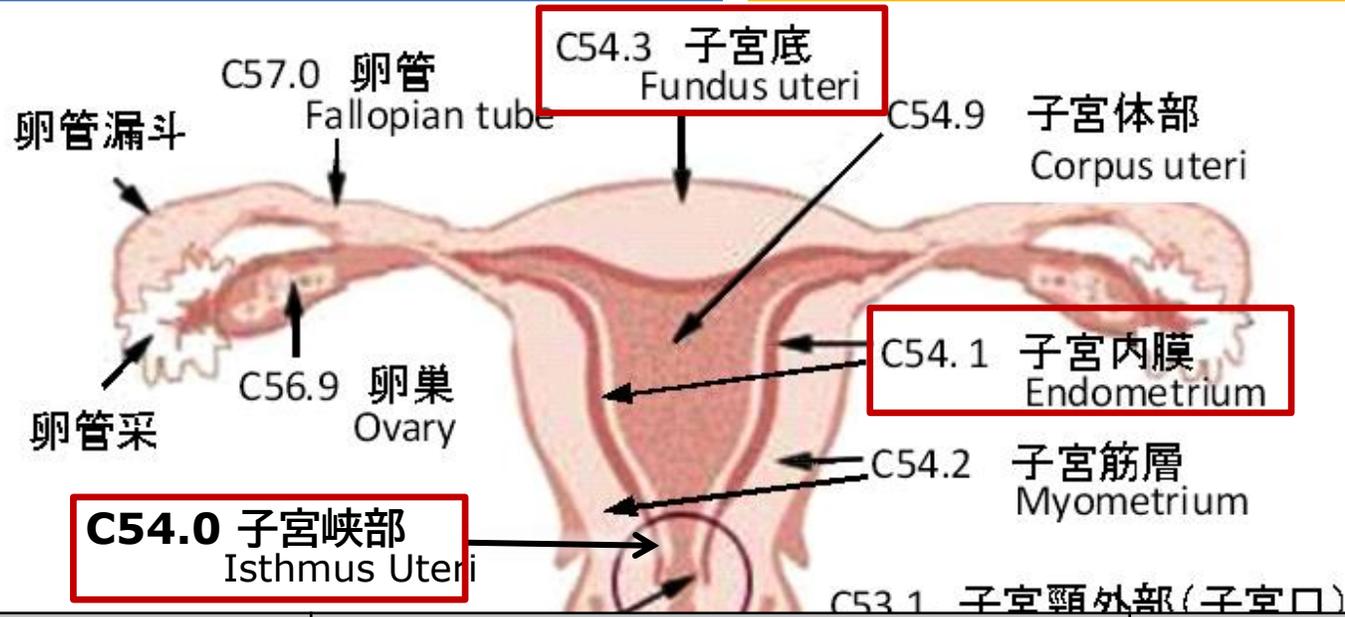
UICC		手術進行期		組織型
UICC	FIGO	規約	規約(病理編)	Bluebook
	<b>FIGO1988</b>	第2版 1996		
第4版 1990				
第5版 1997				
第6版 2002				
	<b>FIGO2008</b>	第3版 2011		
第7版 2009				
第8版 2018		→	第4版 2017	第4版 2014
	<b>FIGO2023</b>	検討中	第5版 2022	第5版 2020

# 子宮内膜癌のタイプ

	I 型	II 型
発生機序	<p>正常子宮内膜 ↓ 子宮内膜異型増殖症 20%が内膜癌に移行 ↓ 子宮体癌(子宮内膜癌)</p> <p>unopposed estrogen (160頁)</p> <p>• unopposed estrogenの長期持続により, 子宮内膜異型増殖症を経由して癌に至るもの.</p>	<p>正常子宮内膜 ↓ 子宮体癌(子宮内膜癌)</p> <p>de novo 発生</p> <p>• 子宮内膜異型増殖症を介さないで癌化するもの(de novo癌).</p>
好発年齢	閉経前～閉経早期	閉経後
頻度	80～90%	10～20%
子宮内膜異型増殖症	あり	なし
主な組織型	類内膜腺癌	漿液性腺癌, 明細胞腺癌など
分化度	高分化が多い(G1～2)	低分化が多い(G3)
筋層浸潤	浅いことが多い	深いことが多い
遺伝子変異	PTEN K-ras microsatellite instability	p53
予後	比較的良好	不良

規約第5版	類内膜癌・粘液腺癌	漿液性・明細胞癌・癌肉腫
<b>G1</b>	充実性増殖が5%以下	—
<b>G2</b>	充実性増殖が5%超え、50%以下	—
<b>G3</b>	充実性増殖が50%超	<b>G3のみ</b>

# 局在と亜部位 《子宮内膜》



ICD-O局在	診療情報所見	英語
<b>C54.0</b>	子宮峡部	Isthmus uteri
<b>C54.1</b>	子宮内膜 子宮内膜腺 子宮内膜間質	Endometrium Endometrial gland Endometrial stroma
<b>C54.3</b>	子宮底部	Fundus uteri
<b>C54.8</b>	子宮体部の境界部病巣	
<b>C54.9</b>	上記部位の記載がなく、“子宮体部”の記載のみ	
<b>C55.9</b>	子宮、NOS	

# 形態コード(組織型) 《子宮内膜》

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード
上皮性病変	Epithelial tumors	
子宮内膜癌	Endometrial (adeno)carcinomas	
漿液性子宮内膜上皮内癌	Serous endometrial intraepithelial ca. ( <b>SEIC</b> )	<b>8441/2</b>
類内膜癌	Endometrial (adeno)carcinoma, NOS	<b>8380/3</b>
漿液性癌	Serous (adeno)carcinoma, NOS	<b>8441/3</b>
明細胞癌	Clear cell (adeno)carcinoma, NOS	<b>8310/3</b>
混合癌	Mixed cell (adeno)carcinoma, NOS	<b>8323/3</b>
未分化癌	Undifferentiated ca.	<b>8020/3</b>
脱分化癌	Dedifferentiated ca.	<b>8020/3</b>
癌肉腫	<b>Carcinosarcoma, NOS</b>	<b>8080/3</b>
その他の上皮性腫瘍	Other Epithelial tumors	
中腎腺癌	Mesonephric adenoca.	<b>9110/3</b>
扁平上皮癌	Squamous cell ca.	<b>8070/3</b>
粘液性癌	Mucinous ca.	<b>8144/3</b>
胃型、～	Gastric type	
腸型、～	Intestinal type	
中腎様腺癌	Mesonephric-like adenoca.	<b>8380/3</b> を用いる <b>9111/3</b>

8380/3  
を用いる

# 形態コード(組織型) 《子宮内膜》

その2

規約  
第5版  
2022

部位別  
TEXT  
23/05

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード
神経内分泌腫瘍		
神経内分泌腫瘍		
神経内分泌腫瘍 G1	Neuroendocrine tumor, grade 1 (NET G1)	<b>8240/3</b>
神経内分泌腫瘍 G2	Neuroendocrine tumor, grade 2 (NET G2)	<b>8249/3</b>
神経内分泌癌		
小細胞神経内分泌癌	Small cell neuroendocrine ca. (SCNEC)	<b>8041/3</b>
大細胞神経内分泌癌	Large cell neuroendocrine ca. (LCNEC)	<b>8013/3</b>
混合型神経内分泌癌		
混合型小細胞神経内分泌癌	Combined small cell neuroendocrine ca.	<b>8045/3</b>
混合型大細胞神経内分泌癌	Combined large cell neuroendocrine ca.	<b>8013/3</b>
間葉系腫瘍	Mesenchymal tumors	
平滑筋肉腫	Leiomyosarcoma	<b>8890/3</b>
紡錘細胞型 ~	Spindle leiomyosarcoma	
類上皮性 ~	Epithelioid leiomyosarcoma	<b>8891/3</b>
類粘液性 ~	Myxoid leiomyosarcoma	<b>8896/3</b>
子宮内膜間質腫瘍/関連病変	Endometrial stromal sa. & related tumors	
低異型度子宮内膜間質肉腫	Low-grade endometrial stromal sa.	<b>8931/3</b>
高異型度子宮内膜間質肉腫	High-grade endometrial stromal sa.	<b>8930/3</b>
未分化子宮肉腫	Undiff. uterine sa.	<b>8805/3</b>

# 形態コード(組織型) 《子宮内膜》

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード
上皮性・間葉性混合腫瘍 腺肉腫	Adenosarcoma	<b>8933/3</b>
その他の腫瘍 原始神経外胚葉性腫瘍	Primary neuroectodermal tumors, NOS	<b>9473/3</b>
胚細胞腫瘍 NOS	Germ cell tumors, NOS	<b>9064/3</b>

子宮内膜癌で **TNM**分類の対象となる組織型は、肉腫の半数は癌肉腫  
**癌腫、悪性中胚葉性混合腫瘍(癌肉腫)のみ**

子宮肉腫(部分的には頸部も含む)で **TNM**分類の対象となる組織型は、  
**平滑筋肉腫、内膜間質肉腫、腺肉腫**

# 形態コード(組織型) 《子宮内膜》

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード	ICD-O-4
子宮内膜上皮性腫瘍・前癌状態	Endometrial epithelial tumours & precursors		
内膜上皮前癌状態	Precursor lesions		
内膜過形成 異型性を伴わない	Endometrial hyperplasia without atypia	—	
内膜異型過形成	Endometrial atypical hyperplasia / Endometrioid intraepithelial neoplasia	<b>8380/2</b>	
子宮内膜癌	Endometrial carcinomas		
類内膜癌 NOS	Endometrioid carcinoma, NOS	<b>8380/3</b>	
漿液性癌	Serous carcinoma	<b>8441/3</b>	
明細胞癌	Clear cell carcinoma	<b>8310/3</b>	
未分化/脱分化癌	Undiff. & dediff. carcinomas	<b>8020/3</b>	
混合癌	Mixed carcinoma	<b>8323/3</b>	
他の子宮内膜癌	Other endometrial carcinomas		
中腎癌		<b>9110/3</b>	
扁平上皮癌		<b>8070/3</b>	
粘液癌、胃型(胃腸型)		<b>8144/3</b>	
中腎様癌		<b>9111/3</b>	
癌肉腫	Carcinosarcoma, NOS	<b>8980/3</b>	

# 形態コード(組織型) 《子宮内膜》

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード	ICD-O-4
類腫瘍病変	Tumour-like lesions		
子宮内膜ポリープ	Endometrial polyp	—	
子宮内膜化生	Endometrial metaplasia	—	
アリアス-ステラ反応	Arias-Stella reaction	—	
間葉系腫瘍	Mesenchymal tumours of the uterus		
平滑筋腫瘍	Smooth muscle tumours		
子宮平滑筋腫	Uterine leiomyoma	<b>8890/0</b>	
血管内平滑筋腫(IVL)	Intravenous leiomyomatosis	<b>8890/1</b>	
悪性度不明の平滑筋腫瘍	Smooth muscle tumour of unc. malign. potent.	<b>8897/1</b>	
紡錘細胞 ~	Spindle STUMP		
粘液性 ~	Myxoid STUMP		
類上皮 ~	Epithelioid STUMP		
良性転移性平滑筋腫	Metastasizing leiomyoma	<b>8898/1</b>	
子宮平滑筋肉腫(LMS)	Uterine leiomyosarcoma	<b>8890/3</b>	
紡錘細胞 ~	Spindle leiomyosarcoma		
粘液性 ~	Myxoid leiomyosarcoma		
類上皮 ~	Epithelioid leiomyosarcoma		

# 形態コード(組織型) 《子宮内膜》

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード	ICD-O-4
間葉系腫瘍(つづき)	Mesenchymal tumours of the uterus		
子宮内膜間質腫瘍	Endometrial stromal and related tumours		
子宮内膜間質結節	Endometrial stromal nodule ( <b>ESN</b> )	<b>8930/0</b>	
低異型度子宮内膜間質肉腫	Low-grade endometrial stromal sa. ( <b>LGESS</b> )	<b>8931/3</b>	
高異型度子宮内膜間質肉腫	High-grade endometrial stromal sa. ( <b>HGESS</b> )	<b>8930/3</b>	
未分化子宮内膜間質肉腫	Undifferentiated uterine sarcoma ( <b>UUS</b> )	<b>8805/3</b>	
他の間葉系腫瘍	Miscellaneous mesenchymal tumours		
卵巣性索腫瘍類似子宮腫瘍	Uterine tmr resembling ovarian sex cord tmr	<b>8590/1</b>	
血管周囲類上皮細胞腫瘍	Perivascular epithelioid cell tumour (PEComa)		
～、良性	PEComa, benign	<b>8714/0</b>	
～、悪性	PEComa, malignant	<b>8714/3</b>	
炎症性筋線維芽腫瘍	Inflammatory myofibroblastic tumour	<b>8825/1</b>	
上皮/間葉混合性腫瘍	Mixed epithelial and mesenchymal tumours		
腺筋腫	Adenomyoma	<b>8932/0</b>	
子宮ポリープ状異型腺筋腫	Atypical polypoid adenomyoma	<b>8932/0</b>	
腺肉腫	Adenosarcoma	<b>8933/3</b>	
その他の腫瘍			
中枢神経原始神経外胚葉腫瘍	Central primitive neuroectodermal tumour	<b>9473/3</b>	
胚細胞腫瘍 NOS	Germ cell tumours, NOS	<b>9064/3</b>	

# TCGA(The Cancer Genome Atlas)分類

- 遺伝子変異による腫瘍の分類
- 類内膜癌を**WHO**分類では4分類
  - POLE-ultramutated 確認が困難
  - MSI(Hypermuted) MLH1などの欠失
  - Copy number-high p53-mutant
  - Copy number-low p53-wild type
- わが国では、構造的な特徴で **G1~3**に区分

## 分化度

<b>G1</b>	明瞭な腺管構造が大半。 充実性胞巣の領域は5%以下
<b>G2</b>	充実性胞巣が5%を越え、50%以下、または 充実性胞巣5%以下で 核異型が強い
<b>G3</b>	充実性胞巣が50%を越える、または 充実性胞巣 50%以下で核異型が強い

# 子宮体部の上皮内癌

2018年症例からの変更点

2020年症例からの変更点

## 2018年症例からの変更点

- 子宮内膜の「**Tis**」は、  
**UICC TNM**分類第**8**版での変更を機に  
2018年症例から、例外的に「**登録対象外**」

## 2020年症例からの変更点

- ICD-O-3.2**版で新設された  
**8380/2** Endometrioid intraepithelial neoplasia  
/Atypical hyperplasia of endometrium  
類内膜上皮内腫瘍／子宮内膜異型増殖症  
これも**登録対象外**  
ただし、漿液性子宮内膜上皮内癌  
(Serous endometrial intraepithelial carcinoma; **SEIC**)  
この組織型だけは、「登録対象」

# SEICとSTIC

2019年症例からの変更点

2020年症例からの変更点

- Serous endometrial intraepithelial carcinoma  
(**SEIC**) 漿液性子宮内膜上皮内癌
- Serous tubal intraepithelial carcinoma  
(**STIC**) 漿液性卵管上皮内癌

SEIC/STIC	形態コード	
2018年	8140/2_	ICD-O-3.1では未掲載のため上位概念のコード
2019年	8441/2_	ルールF採用に伴い採用
2020年～	8441/2_	ICD-O-3.2の新設コード(2020年以降はルールFではなくなった)

診断名	T分類	進展度
漿液性子宮内膜上皮内癌(SEIC)	<b>T1a</b>	上皮内
漿液性卵管上皮内(STIC)	<b>T1a / T1b</b>	上皮内

# T分類(UICC 第8版) 《子宮内膜》

SEICは例外的にT1aで分類

**T1** 子宮体部に限局する腫瘍<sup>1</sup>

**T1a** 子宮内膜に限局する、  
または子宮筋層の1/2未満に浸潤する腫瘍

**T1b** 子宮筋層の1/2以上に浸潤する腫瘍

**T2** 子宮頸部間質に浸潤するが、子宮をこえて進展しない腫瘍

**T3** 下記に特定する局所への広がり

**T3a** 子宮体部の漿膜または付属器に浸潤する腫瘍  
(直接浸潤または転移)

**T3b** 腔または子宮周辺に浸潤(直接進展または転移)

**T4** 膀胱**粘膜**および/または腸管**粘膜**に浸潤する腫瘍<sup>2</sup>

1: 子宮頸管腺のみが冒されている状況は、I期とする。

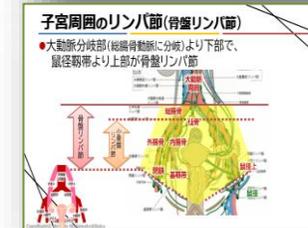
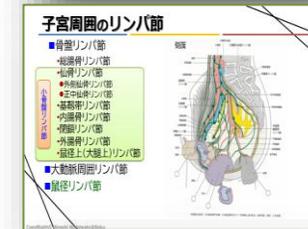
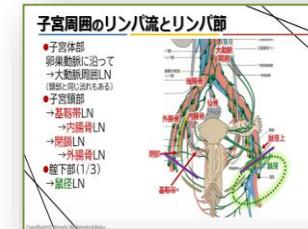
2: 胞状浮腫の存在は、T4に分類する十分な証拠ではない。

# N分類(UICC 第8版) 《子宮内膜》

- N0** 領域リンパ節転移なし  
**N1** 骨盤リンパ節への転移あり  
**N2** 傍大動脈リンパ節への転移あり

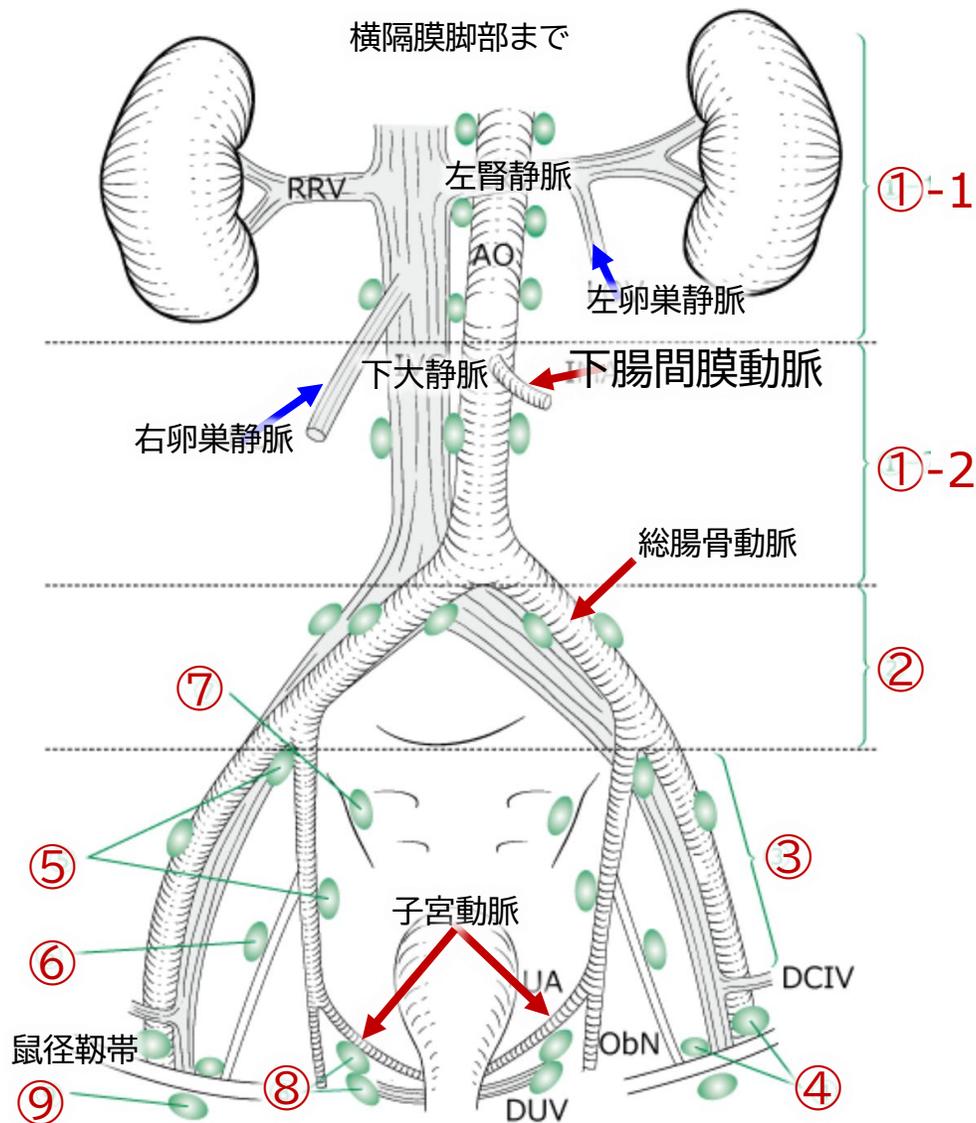
領域リンパ節 (UICC第8版)		領域リンパ節 (取扱い規約第5版)
傍大動脈リンパ節		① 傍大動脈リンパ節
基靱帯リンパ節		⑧ 基靱帯リンパ節
下腹リンパ節	内腸骨リンパ節	⑤ 内腸骨リンパ節
	閉鎖リンパ節	⑥ 閉鎖リンパ節
総腸骨リンパ節		② 総腸骨リンパ節
外腸骨リンパ節		③ 外腸骨リンパ節
		④ 鼠径上(大腿上)リンパ節
前仙骨リンパ節		⑦ 仙骨リンパ節
外仙骨リンパ節		

⑨鼠径リンパ節は 領域(所属)リンパ節には含まない



# 領域リンパ節

# 《子宮内膜》



## ① 傍大動脈リンパ節

①-1 高位 ~

①-2 低位 ~

## ② 総腸骨リンパ節

## ③ 外腸骨リンパ節

## ④ 鼠径上(大腿上)リンパ節

## ⑤ 内腸骨リンパ節

## ⑥ 閉鎖リンパ節

## ⑦ 仙骨リンパ節

## ⑧ 基靭帯リンパ節

⑨ 鼠径リンパ節 は  
領域リンパ節に含まない

# M分類(UICC 第8版) 《子宮内膜》

( MX 遠隔転移の評価が不可能 )

**M0** 遠隔転移なし

**M1** 遠隔転移あり

- 腔、骨盤漿膜、子宮付属器への転移は除く。
- 腹膜播種、肝臓、肺、骨への転移が多い。
- 鼠径リンパ節は遠隔転移に含まれる。
- 傍大動脈リンパ節と骨盤リンパ節以外の腹腔内リンパ節への転移を含む。

# ステージ(UICC第8版) 《子宮内膜》

UICC TNM8 (子宮内膜)		N0	N1	N2
<b>✕Tis</b>		子宮内膜癌の病期に <b>Tis</b> は存在しない		
<b>T1</b>	<b>T1</b>	I	ⅢC1	ⅢC2
	<b>T1a</b>	I A	ⅢC1	ⅢC2
	<b>T1b</b>	I B	ⅢC1	ⅢC2
<b>T2</b>		Ⅱ	ⅢC1	ⅢC2
<b>T3</b>	<b>T3a</b>	ⅢA	ⅢC1	ⅢC2
	<b>T3b</b>	ⅢB	ⅢC1	ⅢC2
<b>T4</b>		ⅣA	ⅣA	ⅣA
<b>M1</b>		ⅣB	ⅣB	ⅣB

# 進展度(UICC第8版)《子宮内膜》

UICC TNM8 (子宮内膜)		N0	N1	N2
T1	T1	限 局	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
	T1a			
	T1b			
T2		隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤
T3	T3a	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤
	T3b			
T4		隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤
M1		遠隔転移	遠隔転移	遠隔転移

# 子宮体癌取扱い規約(第5版)

## ● 進行期分類(**FIGO2008**準拠)

基本的には 手術後分類

- 初回治療として手術されなかった場合は  
画像診断結果を、進行期分類に適用する。
- 各期ともに、腺癌の組織学的分化度を併記。
- 子宮筋層の厚さは、腫瘍浸潤部位において計測。
- 腹水(洗浄)細胞診は、進行期決定に関与しない。
- 頸管腺にのみ癌が及ぶものは、I 期に分類。

手術進行期分類での病期は、

**UICC TNM分類のT分類に ほぼ相当する**

**FIGO2023**が決まったので、現在、採用が検討中

# 進行期分類(取扱い規約第5版)《子宮内膜癌》

基本的には 手術後分類

**I 期** 子宮体部に限局するもの

**I A期** 癌が子宮筋層の1/2未満のもの

**I B期** 癌が子宮筋層の1/2以上のもの

**II 期** 癌が頸部間質に浸潤するが、子宮をこえていないもの

**III 期** 癌が子宮外に広がるが、小骨盤腔をこえていないもの

または **領域リンパ節に広がるもの**

**III A期** 子宮漿膜 ならびに/あるいは付属器を侵すもの

**III B期** 腔 ならびに/あるいは子宮傍組織へ広がるもの

**III C期** 骨盤リンパ節 ならびに/あるいは傍大動脈リンパ節転移のあるもの

**III C1期** 骨盤リンパ節転移陽性のもの

**III C2期** 骨盤リンパ節への転移の有無にかかわらず 傍大動脈リンパ節転移陽性のもの

**IV 期** 癌が小骨盤腔をこえているか、  
明らかに **膀胱** ならびに/あるいは**腸粘膜**を侵すもの

ならびに/あるいは**遠隔転移のある腫瘍**

**IV A期** 膀胱粘膜 ならびに/あるいは腸粘膜に浸潤するもの

**IV B期** 腹腔内 ならびに/あるいは鼠径リンパ節を含む遠隔転移のあるもの

# 腹膜播種と女性生殖器腫瘍

	腔 転移	骨盤漿膜	子宮付属器
子宮頸部	<b>T2b以上 M0</b>	<b>M0</b>	<b>M0</b>
子宮内膜癌	<b>T3b M0</b>	<b>T3a M0</b>	<b>T3a M0</b>
子宮肉腫	<b>M0</b>	<b>T2a M0</b>	<b>T2a M0</b>
卵巣・卵管 他	<b>M1</b>	<b>T1c2以上 M0</b>	<b>T2a M0</b>

女性生殖器の腫瘍は、  
骨盤腹膜(漿膜)やそれらで被われた付属器への転移が多い。  
子宮付属器・骨盤漿膜への転移・播種は、遠隔転移の扱いとしない。

# 進行期分類(FIGO2023) 《子宮内膜癌》

**I 期** 子宮体部および卵巣に局限するもの

**I A期** 癌が子宮内膜に局限するもの。

または 子宮筋層の1/2未満を侵し、血管・リンパ管侵襲(LVSI)を伴うときも  
限局的(focal)で、組織学的にアグレッシブでないもの。

**I A1期** 子宮内膜ポリープ内 または子宮内膜にとどまる、組織学的にアグレッシブでないもの。

**I A2期** 子宮筋層の1/2未満を侵し、  
血管・リンパ管侵襲(LVSI)を伴うときも限局的(focal)で、  
組織学的にアグレッシブでないもの。

**I A3期** 子宮 および卵巣にとどまる低異型度子宮内膜癌。

**I B期** 子宮筋層の1/2以上を侵し、  
血管・リンパ管侵襲(LVSI)を伴うときも限局的(focal)で、  
組織学的にアグレッシブでないもの。

**I C期** 組織学的にアグレッシブなもので、  
子宮内膜ポリープ内 または子宮内膜にとどまるもの。

※ **I Am**<sub>POLEmut</sub> 期 LVSI・組織型にかかわらず、子宮体部に局限 あるいは頸部への浸潤を伴う、  
POLE変異を伴う子宮内膜癌

# 進行期分類(FIGO2023) 《子宮内膜癌》

**II期** 癌が頸部間質に浸潤するが、子宮をこえていないもの。

または 実質的な(substantial)血管・リンパ管侵襲(**LVSI**)を伴うもの。

または 筋層への広がりを伴う、組織学的にアグレッシブなもの。

**IIA期** 子宮頸部間質に浸潤する、組織学的にアグレッシブでないもの。

**IIB期** 実質的な血管・リンパ管侵襲(LVSI)を伴う、組織学的にアグレッシブでないもの。

**IIC期** 筋層への広がりを伴う、組織学的にアグレッシブなもの。

※ **II C<sub>m</sub><sub>p53abn</sub>** 期 LVSI・組織型にかかわらず、子宮筋層への浸潤を伴う体部に限局するもので、頸部への浸潤の有無は問わないが、p53異常を伴う子宮内膜癌

# 進行期分類(FIGO2023) 《子宮内膜癌》

**Ⅲ期** 癌が局所ならびに/あるいは領域に広がるもの。

**ⅢA期** 子宮漿膜ならびに/あるいは付属器に直接浸潤または転移するもの。

**ⅢA1期** I A3期に該当しない、卵巣または卵管に広がるもの。

**ⅢA2期** 子宮漿膜を侵すまたは漿膜をこえて広がるもの。

**ⅢB期** 腔ならびに/あるいは子宮傍組織/骨盤腹膜へ広がるもの。

**ⅢB1期** 腔ならびに/あるいは子宮傍組織に広がるもの。

**ⅢB2期** 骨盤腹膜に転移するもの。

**ⅢC期** 骨盤リンパ節ならびに/あるいは傍大動脈リンパ節転移のあるもの。

**ⅢC1期** 骨盤リンパ節転移陽性のもの。

**ⅢC1i期** 骨盤リンパ節への微小転移

**ⅢC1ii期** 骨盤リンパ節への肉眼的転移

**ⅢC2期** 骨盤リンパ節への転移の有無にかかわらず

腎血管の高さまでの傍大動脈リンパ節転移陽性のもの。

**ⅢC2i期** 傍大動脈リンパ節への微小転移

**ⅢC2ii期** 傍大動脈リンパ節への肉眼的転移

I A3期の条件

- ① 表在性子宮筋層(50%未満)への浸潤にとどまる、②広範囲・実質的なLVSIなし、
- ③ 卵巣以外への転移がない、④腫瘍が片側卵巣に限られ、被膜浸潤・破綻はない

# 進行期分類(FIGO2023) 《子宮内膜癌》

- IV期** 癌が小骨盤腔をこえているか、  
明らかに膀胱 ならびに/あるいは腸粘膜を侵すもの。  
ならびに/あるいは遠隔転移のある腫瘍。
- IVA期** 膀胱粘膜 ならびに/あるいは腸粘膜に浸潤するもの。
- IVB期** 骨盤腔を越えた腹腔内腹膜転移のあるもの。
- IVC期** 腎血管の高さをこえた腹腔内 および腹腔外リンパ節転移、  
または肺、肝、脳、あるいは骨への転移のあるもの。

# FIGO2023

- **LVSI**は、5カ所未満の脈管浸潤をfocalとする。
- リンパ節の微小転移は**UICC**基準に従う。
  - 2mm以上が肉眼的(macro-)
  - 0.2～2.0mm あるいは 200細胞以上が微小(micro-)

組織型	略称	アグレッシブ/非アグレッシブ
類内膜がん、低悪性度	EEC (G1-2)	非アグレッシブ
類内膜がん、高悪性度	EEC (G3)	アグレッシブ
漿液性癌	SC	アグレッシブ
明細胞癌	CCC	アグレッシブ
混合癌	MC	アグレッシブ
未分化癌	UC	アグレッシブ
癌肉腫	CS	アグレッシブ
その他(中腎型を含む)		アグレッシブ
消化管粘液性癌		アグレッシブ

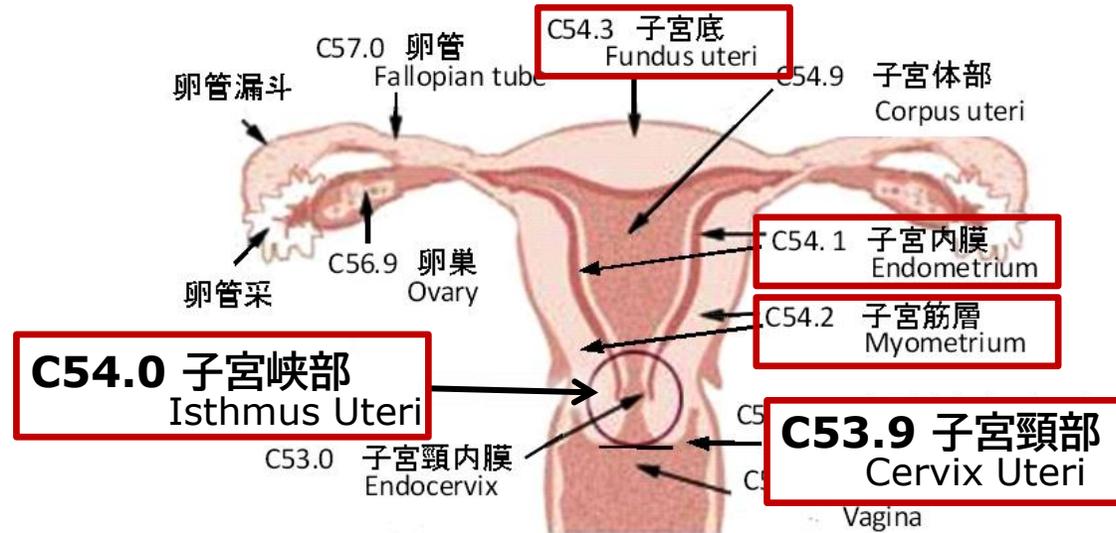


# 子宮肉腫の病期分類

(C53.9、C54.\_、C55.9)

# 局在と亜部位

# 《子宮肉腫》



ICD-O局在	診療情報所見	英語
<b>C53.9</b>	子宮頸部	Cervix uteri
<b>C54.0</b>	子宮峡部	Isthmus uteri
<b>C54.1</b>	子宮内膜 子宮内膜腺 子宮内膜間質	Endometrium Endometrial gland Endometrial stroma
<b>C54.2</b>	子宮筋層	Myometrium
<b>C54.3</b>	子宮底部	Fundus uteri
<b>C54.8</b>	子宮体部の境界部病巣	
<b>C54.9</b>	上記部位の記載がなく、“子宮体部”の記載のみ	
<b>C55.9</b>	子宮、NOS	

# 形態コード(組織型) 《子宮肉腫》

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード
平滑筋肉腫	Leiomyosarcoma	<b>8890/3</b>
紡錘細胞型 ~	Spindle leiomyosarcoma	↑
類上皮 ~	Epithelioid leiomyosarcoma	<b>8891/3</b>
類粘液性 ~	Myxoid leiomyosarcoma	<b>8896/3</b>
子宮内膜間質肉腫と関連病変	Endometrial stromal sarcoma	
低異型度~	Low-Grade ESS	<b>8931/3</b>
高異型度~	High-grade ESS	<b>8930/3</b>
未分化子宮肉腫	Undifferentiated sarcoma	<b>8805/3</b>
卵巣精索腫瘍に類似した子宮腫瘍	UTROSCT	<b>8590/1</b>
腺肉腫	Adenosarcoma	<b>8933/3</b>
癌肉腫	Carcinosarcoma	<b>8980/3</b>

子宮内膜癌で対象となる組織型は、**肉腫の半数は癌肉腫**  
**癌腫、悪性中胚葉性混合腫瘍(癌肉腫)のみ**

子宮肉腫(部位的には頸部も含む)で対象となる組織型は、  
**平滑筋肉腫、内膜間質肉腫、腺肉腫**

35-38%

15-19%

5%

# 形態コード(組織型) 《子宮肉腫》

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード	ICD-O-4
<b>類腫瘍病変</b>	<b>Tumour-like lesions</b>		
子宮内膜ポリープ	Endometrial polyp	—	
子宮内膜化生	Endometrial metaplasia	—	
アリアス-ステラ反応	Arias-Stella reaction	—	
<b>間葉系腫瘍</b>	<b>Mesenchymal tumours of the uterus</b>		
<b>平滑筋腫瘍</b>	<b>Smooth muscle tumours</b>		
子宮平滑筋腫	Uterine leiomyoma	<b>8890/0</b>	
血管内平滑筋腫(IVL)	Intravenous leiomyomatosis	<b>8890/1</b>	
悪性度不明の平滑筋腫瘍	Smooth muscle tumour of unc. malign. potent.	<b>8897/1</b>	
紡錘細胞 ~	Spindle STUMP	↑	
類粘液 ~	Myxoid STUMP	↑	
類上皮 ~	Epithelioid STUMP	↑	
良性転移性平滑筋腫	Metastasizing leiomyoma	<b>8898/1</b>	
子宮平滑筋肉腫(LMS)	Uterine leiomyosarcoma	<b>8890/3</b>	
紡錘細胞 ~	Spindle leiomyosarcoma	↑	
類粘液 ~	Myxoid leiomyosarcoma	↑	
類上皮 ~	Epithelioid leiomyosarcoma	↑	

# 形態コード(組織型) 《子宮肉腫》

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード	ICD-O-4
間葉系腫瘍(つづき)	Mesenchymal tumours of the uterus		
子宮内膜間質腫瘍	Endometrial stromal and related tumours		
子宮内膜間質結節	Endometrial stromal nodule (ESN)	<b>8930/0</b>	
低異型度子宮内膜間質肉腫	Low-grade endometrial stromal sa. (LGESS)	<b>8931/3</b>	
高異型度子宮内膜間質肉腫	High-grade endometrial stromal sa. (HGESS)	<b>8930/3</b>	
未分化子宮内膜間質肉腫	Undifferentiated uterine sarcoma (EUS)	<b>8805/3</b>	
他の間葉系腫瘍	Miscellaneous mesenchymal tumours		
卵巣性索腫瘍類似子宮腫瘍	Uterine tmr resembling ovarian sex cord tmr	<b>8590/1</b>	
血管周囲類上皮細胞腫瘍	Perivascular epithelioid cell tumour (PEComa)		
～、良性	PEComa, benign	<b>8714/0</b>	
～、悪性	PEComa, malignant	<b>8714/3</b>	
炎症性筋線維芽腫瘍	Inflammatory myofibroblastic tumour	<b>8825/1</b>	
上皮/間葉混合性腫瘍	Mixed epithelial and mesenchymal tumours		
腺筋腫	Adenomyoma	<b>8932/0</b>	
子宮ポリープ状異型腺筋腫	Atypical polypoid adenomyoma	<b>8932/0</b>	
腺肉腫	Adenosarcoma	<b>8933/3</b>	
その他の腫瘍			
中枢神経原始神経外胚葉腫瘍	Central primitive neuroectodermal tumour	<b>9473/3</b>	
胚細胞腫瘍 NOS	Germ cell tumours, NOS	<b>9064/3</b>	

# T分類(UICC 第8版) 《子宮肉腫》

#1 平滑筋肉腫 (8890/3)

子宮内膜間質肉腫 (8930/3)

**T1** 子宮に局限する腫瘍

**T1a** 最大径5cm以下の腫瘍

**T1b** 最大径5cmを越える腫瘍

**T2** 子宮外に進展するが、骨盤内にとどまる腫瘍

**T2a** 子宮付属器に進展する腫瘍

**T2b** 他の骨盤組織に進展する腫瘍

**T3** 骨盤外(腹部)組織に進展(浸潤)する腫瘍

**T3a** 骨盤外組織1カ所にのみ進展する腫瘍

**T3b** 複数の骨盤外臓器・組織に進展する腫瘍

**T4** 膀胱粘膜または直腸粘膜に浸潤する腫瘍

※ 卵巣/骨盤子宮内膜症を伴って、子宮肉腫と卵巣/骨盤内腫瘍が同時発生した場合は、それぞれを別々の独立した腫瘍として扱う。

子宮肉腫  
共通

# T分類(UICC 第8版) 《子宮肉腫》

## #2 腺肉腫(8933/3)

**T1** 子宮に限局する腫瘍

**T1a** 子宮内膜/子宮頸に限局する腫瘍

**T1b** 子宮筋層の1/2未満に浸潤する腫瘍

**T1c** 子宮筋層の1/2以上に浸潤する腫瘍

**T2** 子宮外に進展するが、骨盤内にとどまる腫瘍

**T2a** 子宮付属器に進展する腫瘍

**T2b** 他の骨盤組織に進展する腫瘍

**T3** 骨盤外(腹部)組織に進展(浸潤)する腫瘍

**T3a** 骨盤外組織1カ所へのみ進展する腫瘍

**T3b** 複数の骨盤外臓器・組織に進展する腫瘍

**T4** 膀胱粘膜または直腸粘膜に浸潤する腫瘍

※ 卵巣/骨盤子宮内膜症を伴って、子宮肉腫と卵巣/骨盤内腫瘍が同時発生した場合は、それぞれを別々の独立した腫瘍として扱う。

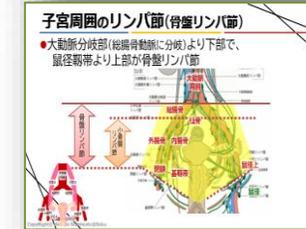
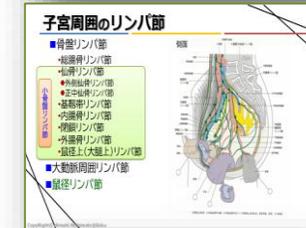
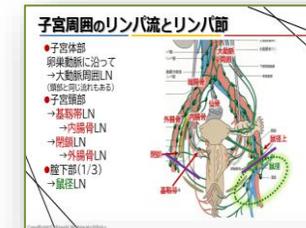
子宮肉腫  
共通

# N分類(UICC 第8版) 《子宮肉腫》

**N0** 領域リンパ節転移なし

**N1** 領域リンパ節への転移あり

領域リンパ節 (UICC第8版)		領域リンパ節 (取扱い規約第5版)	
傍大動脈リンパ節		① 傍大動脈リンパ節	←          骨盤リンパ節
基靱帯リンパ節		⑧ 基靱帯リンパ節	
下腹リンパ節	内腸骨リンパ節	⑤ 内腸骨リンパ節	
	閉鎖リンパ節	⑥ 閉鎖リンパ節	
総腸骨リンパ節		② 総腸骨リンパ節	
外腸骨リンパ節		③ 外腸骨リンパ節	
		④ 鼠径上(大腿上)リンパ節	
前仙骨リンパ節		⑦ 仙骨リンパ節	
外仙骨リンパ節			



⑨鼠径リンパ節は 領域リンパ節には含まない

# M分類(UICC 第8版) 《子宮肉腫》

( **MX** 遠隔転移の評価が不可能 )

**M0** 遠隔転移なし

**M1** 遠隔転移あり

- 腔、骨盤漿膜、子宮付属器への転移は除く。
- 腹膜播種、肝臓、肺、骨への転移が多い。
- 鼠径リンパ節は遠隔転移に含まれる。
- 傍大動脈リンパ節と骨盤リンパ節以外の腹腔内リンパ節への転移を含む。

# ステージ(UICC第8版) 《子宮肉腫》

UICC TNM8 (子宮肉腫)		N0	N1
T1	T1	I	ⅢC
	T1a	I A	ⅢC
	T1b	I B	ⅢC
	T1c	I C	ⅢC
T2	T2	Ⅱ	ⅢC
	T2a	Ⅱ A	ⅢC
	T2b	Ⅱ B	ⅢC
T3	T3a	Ⅲ A	ⅢC
	T3b	Ⅲ B	ⅢC
T4		Ⅳ A	Ⅳ A
M1		Ⅳ B	Ⅳ B

# 進展度(UICC第8版) 《子宮肉腫》

UICC TNM8 (子宮肉腫)		N0	N1	N2
T1	T1a	限 局	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
	T1b			
	T1c			
T2	T2	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤
	T2a			
	T2b			
T3	T3	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤
	T3a			
	T3b			
T4		隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤
M1		遠隔転移	遠隔転移	遠隔転移

# 進行期分類(規約第5版) 《子宮肉腫》

## #1 平滑筋肉腫(8890/3)、子宮内膜間質肉腫(8930/3)

基本的には手術後分類

I期 腫瘍が子宮に限局するもの

IA期 腫瘍サイズが(最大径)5cm以下のもの

IB期 腫瘍サイズが(最大径)5cmを越えるもの

II期 腫瘍が骨盤腔に及ぶもの

IIA期 付属器浸潤のあるもの

IIB期 その他の骨盤内組織へ浸潤するもの

III期 腫瘍が骨盤外に進展するもの

IIIA期 (骨盤外組織)1カ所のもの

IIIB期 複数の2部位以上のももの

IIIC期 骨盤リンパ節 または傍大動脈リンパ節に転移のあるもの

IV期 膀胱粘膜または直腸粘膜に浸潤、あるいは遠隔転移のあるもの

IVA期 膀胱粘膜または直腸粘膜に浸潤のあるもの

IVB期 遠隔転移のあるもの

子宮肉腫  
共通

# 進行期分類(規約第5版) 《子宮肉腫》

## #2 腺肉腫(8933/3)

基本的には 手術後分類

I 期 子宮に局限する腫瘍

I A期 子宮体部内膜/頸部内膜に局限する腫瘍

I B期 筋層浸潤が1/2以内のもの

I C期 筋層浸潤が1/2を越えるもの

II 期 腫瘍が骨盤腔に及ぶもの

II A期 付属器浸潤のあるもの

II B期 その他の骨盤内組織へ浸潤するもの

III 期 腫瘍が骨盤外に進展するもの

III A期 (骨盤外組織)1カ所のもの

III B期 複数の2部位以上のもの

III C期 骨盤リンパ節 または傍大動脈リンパ節に転移のあるもの

IV 期 膀胱粘膜または直腸粘膜に浸潤、あるいは遠隔転移のあるもの

IV A期 膀胱粘膜または直腸粘膜に浸潤のあるもの

IV B期 遠隔転移のあるもの

子宮肉腫  
共通